

特定非営利活動法人

VOL.35

# 南国暮らしの会

2007年 新年号



平成19年1月21日



NPO法人 南国暮らしの会

登録第4810100号  
(REGISTRATION NUMBER)

# 南国暮らしの会

会報 2007 年新年号

## 目次

(敬称略)

ページ

|                               |          |           |    |
|-------------------------------|----------|-----------|----|
| 新年のご挨拶                        | No. 163  | 宮崎 哲郎     | 1  |
| 南国暮らしの会セミナー「悠々セカンドライフ」        |          |           | 2  |
| 九州支部特集                        |          |           |    |
| 九州支部長挨拶                       | No. 851  | 稲田 聡      | 6  |
| 「チェンマイ L S 下見ツアー」報告           | No. 581  | 朝永 美代子    | 7  |
| チェンマイでステイに挑戦!                 | No. 920  | 國武 光慶     | 10 |
| チェンマイ L S ツア - に参加して          | No. 1083 | 伊藤 公一・実枝子 | 12 |
| 南国暮らしの憧れと現実(チェンマイに旅して)        | No. 1091 | 長友 統      | 13 |
| チェンマイ旅行                       | No. 651  | 穴見 洋子     | 14 |
| チェンマイ旅行                       | No. 1124 | 田上 篤      | 15 |
| バリ島旅行                         | No. 758  | 白井 征勝     | 18 |
| バリ島報告                         | No. 581  | 朝永 清寿     | 19 |
| バンコク下見旅行                      | No. 993  | 山根 憲司     | 22 |
| バギオ ダバオ旅行                     | No. 1026 | 若林 文夫・美津子 | 25 |
| 長崎街道を歩いて                      | No. 758  | 白井 征勝     | 27 |
| 前支部長・稲延さんを偲んで                 | No. 30   | 竹村 毅俊     | 28 |
| バラとの切ない別れ                     | No. 1132 | 菊池 勲雄     | 30 |
| ロングステイと蕎麦打ち                   | No. 652  | 深松 幸康     | 32 |
| 人との出会い、絆の大切さフィリピン             | No. 149  | 梶野 幸三     | 33 |
| ハワイの楽しい生活                     | No. 1106 | 中牟田 登     | 36 |
| -マレーシア建国50年・日馬友好50周年- 記念コンサート | No. 263  | 加藤 進      | 38 |
| バギオ訪問記                        | No. 732  | 馬場 章介     | 40 |
| 写真紀行 人生紀行 バリへの旅               | No. 345  | 藤巻 雄二     | 42 |
| ホストファミリーを体験して                 | No. 117  | 龍野 宏      | 44 |
| 「平澤 信 世界を旅する」モロッコ編(その二)       | No. 40   | 平澤 信      | 46 |
| もっと知りたいシリーズ タイの歴史             | No. 465  | 橋本 慧      | 50 |
| 私の小さな失敗                       | No. 318  | 小林 高明     | 54 |
| 友好団体紹介コーナー                    |          |           | 54 |
| 支部便り                          |          |           | 55 |
| 部会伝言板                         |          |           | 65 |
| 編集後記                          |          |           | 66 |
| 平成19年度会費納入のご案内                |          |           | 66 |

# 新年のご挨拶

南国暮らしの会 理事長 No.163 宮崎 哲郎

全国の会員の方々に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年をお迎えになり、今年が希望に溢れ充実した年になるよう心からお祈りいたします。

昨年の総会以降理事長をお引き受けして半年での感想をまず申し上げたいと思います。会には不都合なことが一部生じておりますが、全体としてみれば会員数や国内・海外の支部活動もスムーズに動いておりますし、会員数も順調に増え、入会者のほとんどが団塊の世代の方々で、これは団塊世代社会のニーズにも合った会として世間から評価頂いているものと思います。これも一重に良識ある多くの会員の方々による日常の活動努力のお陰と感謝申し上げ、あらためて御礼申し上げます。

「南の会」は事務所も無く、固定資産も無い「砂上の楼閣」のような組織体ではありますが、経理、会員係、ホームページ、広報、総務、会報、国内外各支部活動等々の日常業務を、奉仕精神豊かなスタッフが、毎日自宅において勤務時間の規定など無い状態（24時間体制）で各々の役目を真面目に遂行されているため崩壊することなく長年維持されております。従って会員の方はこの会にお入りになって、会に在籍されサービスを受用されている間は、このスタッフの方々には常にそれなりの「心遣い」を持って接して頂くよう是非お願い致します。そして次世代、ならびに会の永続的運営の為に会員の中からお世話役が今後たくさん出てくることを期待しております

さて寒い時期を迎えいよいよ南国を目指す「我々のシーズン」です。皆様もあれこれ計画したり、すでに自分の南国を満喫されておられ

るかも知れません。スタッフの方々も交代で「南の国」で過ごし日ごろのストレスからの解放で元の健康状態に戻す「転地療養」に入ります。

新しい年になりましたので少し「歳」について面白いデータがありますので、ご紹介すると共に明るい希望を持ちたいと思います。

いわく「あなたは、あと何年生きるか」日本は今や世界一の長寿大国です、ご承知のように日本の平均寿命は男78.6歳、女85.6歳です。米国は男74.5歳、女79.9歳、韓国は男73.4歳、女80.4歳。中国はさらに短く男69.6歳、女73.3歳です。日本人が如何に長寿か理解できます。

ところで自分が残された余命がどのくらいあるのか統計上の年数をご存知でしょうか。統計的には平均寿命よりずっと長く、今50歳の男性の平均余命は30.7年、女性36.9年、現在60歳の男性は22.2年、女性は27.7年。やはり女性は圧倒的に残り人生は長いようです。更に死亡者数の多い年齢ですが男83歳、女88歳ですので健康でボケずにいるとすればそれ以下で死ぬのは勿体無いことなのです。この事実は嬉しいことやらしんどい事やら皆さんそれぞれでしょう。

一般的に60歳でリタイアして80歳以上生きるとして20数年間、自分の時間は7～8万時間以上あります。これは学校を出て就職し定年退職するまでの総労働時間に匹敵するそうです。もう一度人生を繰り返すことが出来るほどですが、これは正に「セカンドライフ」です。この自由な時間の過ごし方が大変これから重要な問題になって来ます。

南の会の会員は特にこのことに早くから目覚め、計画実行しているの方々が集まっていると思います。この貴重な時間を如何に積極的にエン

ジョイし充実したものにするかその人の人生評価につながるほど大事なことと思います。

平均寿命が延び上記のような80歳以上までとしても体力、気力の充実した年齢は一般的に個人差を勘案してもあと5～10年でしょう。真に楽しめることの出来る時間はこの時間帯です。時は過ぎれば戻らず「今日は昨日より古くなって行く」のです。これからは最も開放された自由な時間です。「老いという自由な時間」は他の動物にはない人間にだけ与えられたギフトだそうです。

我が「南の会」はこのような「時間」を暖かい「南の国」で「気のあった仲間」と「楽しく過ごす」のが目的の「遊びの会」です。お互い角付き合わせることなく他人のことについてとやかく言わず、自分が愉しんでいないと折角の大事な時間を無駄にすることになります。そして「会」は会員の方々をサポート（情報提供、支部活動支援、会員組織充実等）する組織であり、南国に皆さんが楽しく、容易にステイできるように背中を押してあげるのがその役目とっております。運営の仕方に多少問題があっても、

一生懸命やっているのだからとご容赦下さい。そして必要あれば会に対してのご協力を皆さんにも要望することもあります。その時はよろしくお願いいたします。

どうか以上のことをご理解のうえ楽しく有意義な会としてこの一年皆様と共に努力して参りたいと思いますし、又皆様が健康で事故も無くロングステイを楽しまれ「生きていて良かった」といえる感動するような生活を目指しエンジョイされることを切望いたします。

最後に会としての初夢的希望重点計画項目を簡単に取り上げたいと思います。

- (1) 支部の新設・充実：ハワイ支部、ゴールドコースト支部
  - (2) 全国的パソコン所有率の拡大とパソコン教室の増設
  - (3) 新しい趣味の会の拡大（親睦には大変役立っております）
  - (4) 第2回セミナーの開催（関東以外も検討）
- 以上のことについて或いはその他ご提案あればご遠慮なくお申し出下さい。

これにて年始のご挨拶とさせていただきます。

## 南国暮らしの会セミナー

# 「悠々セカンドライフ」

南国暮らしの会の社会貢献事業の一環として、本年初めて会員外を対象とするセミナー「悠々セカンドライフ」が東京で開催された。

日時：平成18年11月3日（金）  
場所：ゲートシティ大崎・南部労政会館  
参加者人数：103名  
セミナー後、希望者で懇親会を開催。

### 1. 宮崎理事長挨拶

人生80年、60歳定年後の20年間のセカンドライフをいかに過ごすか。「南国暮らしの会」創立10年、NPO法人認証7年を経て南の国ですごす楽しみを少しでも知って欲しいとの趣旨で開催した。会のPRでなく多くの方にこういう楽しみがあることを知らせたい。

### 2. 「ロングステイでより豊かな人生を」

講師：千葉千枝子氏

講師略歴：旅行作家、ロングステイ財団評議員



**(1) ロングステイは「旅」と「暮らし」の進化形、新しいライフスタイル**

- ・ロングステイ財団の定義： 海外滞在型余暇で2週間以上海外に滞在する。生活の基盤は日本に置く。希望滞在期間は1～3か月未満が多く、ビザの制約による面が大きい。
- ・ロングステイ(LS)希望地： オーストラリア、マレーシア、ハワイ、ニュージーランド、タイの順で東南アジアが上位にきた。
- ・各国のリタイアメント・ビザ  
マレーシア：15万リンギの預金または1万リンギ/月の所得証明で10年間有効ビザ  
タイ：80万バーツの所得証明または預金で1年間有効ビザ  
フィリッピン：5万米ドルの預金で滞在制限無し  
オーストラリア：投資ビザのみ。日本円で1億円以上できわめて厳しい条件。  
台湾：5万米ドルの資産提示(預金の必要なし)で180日滞在可能。
- ・LS人気国の物価： 日本に比べタイ1/5、マレーシア1/3程度で安い。住居費が占める割合が大きい。
- ・滞在する施設の割合： コンドミニアム50%以上、アパートメント20～25%、タウンハウス10%。
- ・LSを実行する年代： 年金収入との関係による面が大きい。気力、体力からは早いほうがお勧め。ライフイベント表、キャッシュフロー表を作成して考える。ある人は75歳から逆算してスケジュールを立てる。例えば65歳からLS、それ以前は旅行中心など。
- ・LSのための資金： 資金準備は早めに。目的にあった通貨で、例えば米ドル、ユーロおよび資源国通貨で運用。海外での不動産購入は慎重に。医療費は海外旅行傷害保険でカバーする。

**(2) 各国の暮らし**

**オーストラリア：** 親日国、「孤高のオーストラリア」、厳しい検疫、安定した経済と高金利、時差少ない、英語圏、チップ不要、BYO

(bring your own、酒類持ち込み可)、観光ビザ3か月、スローライフの先進国

**ハワイ：** 有数の成熟したリゾート地、観光客とローカルで異なる料金、物価が高い、親日的、米国ベビーブーマの退職者が台頭、バケーションレンタル(コンドミニアムを不在時に管理会社へ委託する制度)、バリアフリー先進地、ビザ免除90日以内、リタイアメント・ビザ制度無し、見えない支出に注意

(州税4.16%、ホテル税7.25%、チップ15%)

**マレーシア：** 物価は日本の1/3、多民族国家の豊かさ、治安の良さ、MMHP(マレーシア・マイセカンド・ホーム・プログラム)ビザ制度、預金金利高い、親日、Look East政策、料理がおいしい、イスラム圏のマナーが必要

**生活費(円換算、単位：万円/月)**

|           | オーストラリア       | ハワイ           | マレーシア        |
|-----------|---------------|---------------|--------------|
| 住居        | 16.2<br>(2寝室) | 24.0<br>(1寝室) | 7.8<br>(3寝室) |
| 食費        | 3.6           | 6.0           | 3.0          |
| 交通費       | 1.98          | 0.96          | 0.9          |
| 通信費       | 0.18          | 0.6           | 0.09         |
| 娯楽費       | 2.7           | 3.6           | 3.6          |
| 予備費       | 2.7           | 3.6           | 0.9          |
| <b>合計</b> | <b>27.3</b>   | <b>38.7</b>   | <b>16.29</b> |

**3. ペナンでのロングステイ**

講師：木村 義光氏、まゆみ氏

講師略歴：当会顧問、ペナン在住



- ・LSのきっかけ： 13年前50歳の時、山梨県に在住していた。産経新聞に掲載されたフィ

リップンの竹内司さんの記事に惹かれた。フィリップンの竹内邸ではメイド2名、運転手、庭師を雇い優雅に暮らしていた。これを契機に冬の寒い山梨県を避け、海外に居住することを考え各地を尋ねた。当初はハワイに惹かれたが、ビザの問題で取りやめた。ついでオーストラリアのビザ取得を依頼したが、マレーシアのリタイアメント・ビザが450万円で行けることを知りマレーシアに変更した。当時の日本人取得者は10人程しかおらず、マレーシア大使館で2名のマレーシア人保証人が必要と言われ友人作りから始めた。。

- ・ペナンの生活： ペナン州は人口90万人（マレー系45%、中国系45%、インド系10%）、LSで滞在する日本人は300名を超え、冬のみの滞在者を合わせて1,000名を超える。
- ・治安： 治安はよい。7年間で木村宅に約2,000名が来訪したが、一度だけ訪問客が引つたぐりにあった例がある。
- ・医療： 7つの大病院、内2つは日本語通訳有り。医療は進んでおり通訳入りで問題なし。
- ・物価： 日本と比較し1/2.5~1/3の水準。ガソリン代高くなった。イスラム国で酒類は高い。
- ・言語： 英語中心。女性1人で中国語を習う人もいる。女性1人でも滞在は問題なし。
- ・食べ物： 屋台、福建料理。日本料理は高い。中国料理は油を使うことが多く、次第に日本料理に戻る。日本料理用の食材は不自由しない。
- ・趣味： プール、テニス、ゴルフ、旅行、カラオケ、ダイビング、パテック、・・・、食べ歩きなど多種。旅行は恵まれている。マタフェアーと称する体育館で開催される大規模な旅行フェアーがある。きわめて安く、月に1度は旅行する。シンガポール、タイ、クアラルンプール、ホーチミンなど。
- ・住居： ほとんどのLS在住者はコンドミニアムに住む。賃料は4.5~6.5万円/月。陽当たりを避け、蟻対策を考えて10階以上、北東向きが好条件。中国人オーナーが多く、金払いが良く、汚さない日本人は好まれる。賃貸

交渉では、必ず値切り、家具を付けさせるなどのネゴが必要。また湯が出るかなど設備のチェックは必須。

- ・自動車： コンドを借りる場合に自動車を所有するか否かで場所が決まる。車なしの場合はショッピングセンターの近くなど便利な場所がよい。しかし住んでいると車が欲しくなる。MMHPビザ取得後6か月以内は無税で車を輸入できる。約40万円の輸送費がかかる。
- ・お役立ち情報  
マタフェアー： クアラルンプール（KL）で毎月開催、ペナンでは年2回開催。  
JAL里帰り便： 1か月Fix5万円程度。呼び寄せ便も同様の値段。  
Location Free： ソニーのLocation Freeは便利。民放、wowowなど全て見られる。セブ、オーストラリアでもOKであった。  
ジャスコがペナン出店予定。

最後に一言：

「人生は一度きりです。有意義に過ごすこと。これが一番肝心です」 この思いでロングステイに挑戦してみましよう。

#### 女性から見たペナン（木村まゆみさん）



- ・公共料金（単位リングギットRM、32~33円/RM）： 水道9（2ヶ月分）、プロパン22、電気100、電話50~100、ADSL88、下水道8。以上合計で公共料金は月約1万円程度OK。ペナンの公共料金、交通費は安い。ペナン~KL間のバス料金（ナイスバス）は50RM。
- ・高い物： ノートPC（30万円）、インク（1,800円）、デジカメ、酒類、チーズなどは

高い。またトマト、メロン、スイカはおいしくない。

- ・通いメイド：10RM / 時間、週 1 回 5 時間で 50RM。
- ・屋台の食事：300円 / 2 人

#### 質疑応答

Q：送金方法は？

A：当初は持参で持ち込んだが勧めない。

Q：ペナン、KL から米国、欧州へは？

A：マタフェアーで多くのツアーが売り出される。私は月 1 回位近くへ行く。ペナンーチェンマイ間は 4 時間程で近く、費用も安い。

Q：暑い？ 湿気は？

A：もっとも暑い時期の 4、5 月頃は 33°C くらい。日本の夏よりも暑くない。日本の梅雨時程ではないが湿気は多い。

Q：家電は壊れやすい？

A：電圧は 240V で素人はいじらない方がよい。現地産で信頼度が劣ることはない。日本から持って行く必要はない。ただし電気釜だけは日本から持って行った方がよい。他に包丁も日本から持参がよい。

Q：携帯電話も日本から持参がよい？

A：日本から持参すると通話が日本経由になって高い。現地で携帯機を購入した方がよい。英語表示であるが安い。携帯電話は外国では必須で命である。

Q：屋台の衛生度は？

A：生水は慣れない人（疲れた人）は避けるべき。氷は製氷会社が作るので問題なし。貝類

は避けるべし。

Q：住居を借りる時の敷金は？

A：コンドミウムは前家賃 1 ヶ月分。保証金 1 ヶ月分（1 年契約）、2 ヶ月分（2 年契約）。印紙代 200RM。家探しは日本人の不動産屋は避けた方がよい。

#### 4. 参加者アンケートの結果と意見（回答 44 名）

(1) 参加者のプロフィール

- ・現在の職業は？：現役 23、リタイヤー 33
- ・性別：男性 36、女性 8、既婚 34、独身 6
- ・年齢：～50 歳 3、50～60 歳 19、60 歳～21

(2) LS について

- ・セカンドライフについて  
海外移住を考慮 6、LS を希望 34、その他 5
- ・関心のある国（複数選択可、都市名省略）  
フィリピン 17、マレーシア 34、タイ 15、オーストラリア 20、ハワイ 10、他にベトナム、ニュージーランド、スペインなど

(3) セミナー関係

- ・セミナーをどこで知りましたか？  
新聞・雑誌 1、人に勧められて 15、インターネットで 20、その他 6
- ・セミナーの情報度は？  
丁度良い 32、多すぎる 0、少ない 3
- ・参加費（500 円）について  
安い 21、高い 10、適当 20

(4) 意見・要望

- ・大変参考になった。またやって欲しい。
- ・貴重な情報が得られた。参考になった。
- ・講演で紹介された資料が欲しい。

- ・2 年位後に LS を考えている。参考になった。
- ・現役だが近々会に入りたい。
- ・既に知っている一般論で、面白味に欠ける。
- ・参加費 500 円は安い。2000 円で良いのでは。
- ・来年ペナンへ行くつもり。頂いた資料を検討する。



(No.60 渡辺 義郎 記)

# 九州支部特集

## 九州支部長挨拶

九州支部長 No.851 稲田 聡



全国の会員の皆様、海外で新年を迎えられた会員の皆様、明けましておめでとうございます。

新年号は九州支部特集ということでご挨拶申し上げる機会を得ましたこと光栄に存じます。

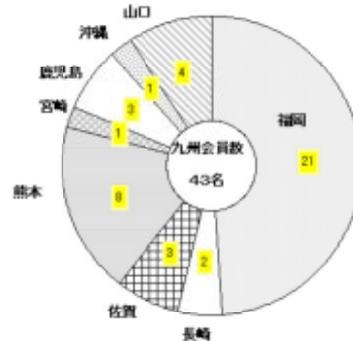
南の会の会員番号も1,200になんなんと、当会が目標の一つとしてきた会員数1,000人到達も見てきたのではないかと思います。まずは素直にお慶び申し上げたいと存じます。

さて、支部会員数最少だった九州支部も私が入会した2年ほど前から倍増し現在43名になりました。

これは初代竹村、2代目故稲延支部長及び役員の皆様のご努力、特に1昨年の「熊本セミナー」開催が影響したと考えます。このご貢献に対し深甚の敬意と感謝を表したいと思います。

団塊の世代の定年に伴い当支部も100人に達するのも時間の問題ではないかと推測します。会員増は喜ばしい反面、課題も生まれてきます。

1. 情報交換会、サロン会開催については、福岡市NPOセンターが手狭になり新しい場所を考えることが必要になったこと
2. 福岡市でのみ開催してきた会合も鹿児島、宮崎などの会員の便宜を考えて他の場所も検討する必要があること



県別会員数

山口、佐賀が近いので現在会合は福岡中心

3. 情報交換に有利なML。ML会員増を目指すためパソコンの普及を図ること

- ・メール会員：35/43 81.4%
- 内、yahoo I D 取得者：29/35 82.8%
- ・スカイプ活用者：14/35 40.0%

4. ステイに必要な初歩的な英会話能力を身につけるための対策を模索すること

などです。いずれにしてもローカルで会員数も少なく山口から沖縄と広範囲に会員が分散するなど情報交換に制約がありますが、これを克服するためにはMLの活用が最も効果的だと思っており、nangoku k yusyu MLについては、MLでのメール交換のさらなる活発化ブリーフ・ケースに入れる情報の充実ブックマークでステイに役立つ情報（HP、ブログ）をリンク  
フォトアルバムの活用

等の対策のほか、団塊の世代の新しい感覚によるアイデアが必要かもしれないと考えているところです。

## 支部企画下見ツアーについて

支部では1昨年フィリピン、昨年チェンマイと2回の下見ツアーを企画実施しました。

特に今回のチェンマイ・ツアーは、ほとんど全員が初めてのチェンマイ訪問だったにもかかわらず、十分な準備とロングステイ中の支部会

員No.736田中夫妻の親身の支援、伊沢支部長以下チェンマイ支部のご支援があって多大な成果を得ました。ここに紙面をお借りして関係されたすべての方々に改めて感謝申し上げます。

下見ツアーは、あくまでもロングステイのための下見であります。いわゆる普通のツアーではありません。各自が計画実行することが基本であることを忘れず、この種企画を今後も続けたいと思っております。

### ここで簡単な支部紹介をいたします。

H18.11月度情報交換会

オブザーバー2名が参加、総勢37名、支部発足以来の参加者記録を更新しました。

(編集：裏表紙に写真を掲載しました)

役員



前列左から、支部長851稲田聡、副支部長652深松幸康、会計920國武光慶(代理順子)、総務701手嶋邦人、後列左から総務651穴見保彦(代理洋子)、総務758白井征勝、総務581朝永清寿、美代子

蕎麦打ち体験会については、南国HPにその都度掲載しておりますが、講師資格を持つ副支部長深松幸康名人の指導によって昨年は2回実施しました。うどんどころ九州人が蕎麦の味に目覚めました。名人の言では蕎麦生産量は北海道について鹿児島が第2位とか。今後も機会を作りたいと考えています。

今年も支部及び支部会員の活動についてご指導ご支援を頂きたいをお願いを申し上げます。

## 「チェンマイLS下見ツアー」報告

九州支部 No.581(家族会員)朝永 美代子



平成18年度支部行事の一環として、南の国の中でも人気度の高い「チェンマイ」のLS下見ツアーを実施した。

### 1. ツアー概要

訪問先 チェンマイ

旅行日 平成18年9月30日～10月10日(9泊11日)

参加人数 15名(7組と一人)

### 2. チェンマイを選んだ理由

九州支部会員ご夫婦が今年からチェンマイで長期LSを始められ、準備段階からの詳細な模様を30回にわたり支部メールにお送りいただいた。その感動が一番の理由。

昨年の九州支部主催セミナーでチェンマイでLS中の2名にゲスト出演していただき、チェンマイへの憧れがあった。

福岡のタイ国政府官公庁の好意的な協力体制(昨年のセミナー時の後援、支部情報交換会開催時等での資料提供)

### 3. 旅行日の決定

単純に渡航費用が安い時期であることと雨季を避けた。チェンマイ支部の毎月サロン会の日程とずれてしまったことが残念。

### 4. 今回のツアーの目的

将来何らかの形でLSを希望している「南の会」の会員として、LSの適地としての下見と、バックツアーや他の人に頼らないで自由に海外

渡航ができるように経験を積むこと。

## 5. 準備

### 格安航空券の予約購入

インターネットでチェンマイまでの航空券を探し、出発・到着の時間帯、乗り換えの利便性、料金等を総合的に比較して2社に絞り、当初は参加人数が未定だったので希望者がそれぞれに航空券の予約購入をすることにしていた。

しかし、より旅金の安い1社への申し込みで間に合ったので航空券の受け取りまで代表して手続きを進めた。

### チェンマイ滞在中のツアーの手配

チェンマイ支部提携の旅行会社を紹介していただいたので、メールで相談しながら自分たちで観光や視察のツアーの内容と日程を組んだ。観光ツアーについてはいろいろな情報がありすぎて迷ったが、最終的に昨年のセミナー時に福岡のタイ国政府官公庁からいただいていた事前に参加希望の全員の手に配布できた情報誌の中から選定した。

選定したツアー（17項目）について料金と所要時間と簡単な内容をメールで説明してもらい、その中で参加者会員が各自で希望するものだけを事前に申し込んだ。

各ツアーに参加する人数はまちまちだったがすべて日本語ガイド付きのプライベートツアーで依頼したので安心して臨めた。

滞在中は特に確認のためのミーティングなどもまったく必要なく、ツアー内容、参加者一覧を記した日程表を基に皆さんそれぞれに責任持って行動してもらった。

### 情報誌による学習

チェンマイ滞在中の支部会員さんからチェンマイで発行されている日本語情報誌（フリーペーパー）や宿泊するホテル周辺の地図を、チェンマイ滞在の経験ある九州支部長さんからはチェンマイ関連の本や市内地図を提供してもらったので、参加会員へ郵送で回覧した。

計画から実施までたっぷり余裕があったので

時間をかけて学習することができ、まったく初めての訪問地であるにもかかわらず頭の中で街のイメージがわかるようにまでなった。中でもフリーペーパーの「CHA O」の中に綴じこんである市内地図はわかりやすく、全員に間に合う部数をいただいていたので、1部ずつ手にして飛行機に乗った。

## 6. LS候補地としてのチェンマイ

チェンマイについてはすでに滞在経験のある方やLS中の会員の方からもたくさんの情報をいただいているが、その住環境、物価、医療事情、国民性などみな事前の収集情報と変わるところはなくすばらしい都市であった。

わずかに9日間の滞在でほんの一端しか見聞できていないので、あるいは思い違いなどあるかもわからないが、一応感じたことを述べると、

### （良かったところ）

とにかく物価が安い。現地の人が利用する食堂、マッサージ、美容院、市場の相場は日本の10分の一くらいかも（？） 食事がお世辞でなくおいしく、口にあった。お米も何の抵抗もないしお世辞抜きでおいしくいただいた。数年前のお米飢饉のときの毛嫌いしたタイ米は何だったのだろうかと思った。

タイ料理の味付け、一部を除けばほとんどグッド。青い唐辛子と匂いの強い野菜が少しづらかったが、生野菜、果物を心配せずにふんだんにいただけたのが嬉しかった。アマリリンカムホテルの朝食も良かった。

医療も安心。訪問した病院（ランナー総合病院、チェンマイラム病院）は日本語案内があり、日本人の医師やスタッフが常駐していて、外国語がまったくだめな私でも何とか利用できそう、との感触を得た。医療技術もかなり高いようで日本で治すよりも場合によっては（？）と考えさせられた。

市街地の交通の便が良い。ソンテウが低料金でいつでもどこでも待つことなく利用できる

ことはすばらしいことだ。

現地の人たちは誠実で表情が明るい。滞在中一度も裏切りを感じる事がなかった。事前に収集した情報で少し構えて冷静に観察したつもりだったが、ホテル内ではもちろん、街に出て買い物中の店員さんの態度、ソントウやトウトウの乗り物、仕立て屋さん、美容院、タイマッサージなど出会った現地の人すべてが微笑みの国「タイ」を実証するかのようによく親切だった。滞在中の南の会の皆さんにもほんとに恐縮してしまうくらい気を使っていたら、私たちもここチェンマイで長期滞在するとみな心優しくなるのだろうかという別の意味で希望が膨らんだ。

治安の不安がなくしがらみもない自由な生活が実現できるかも。

インターネット環境が充実。初めてネットカフェなるものを体験したが言葉の通じない障害もどうということなく簡単に利用できた。「プリーズ、ジャパニーズ」だけで何とかあった。ちょっと見渡せばどこにもある店の多さと30分10パーツ（約30円）は超魅力的。スカイプも何の問題なし。

旧市街を中心に街並みが整然としている。事前の学習で地図をよく見ていたので特に歩くのが好きな私たちは第1日目から地図を片手にタウン探索に出かけた。初めての人にでもわかりやすい街の並びで迷子になる人はいないだろうと思う。

福岡からチェンマイまでの切符が手配でき、初心者にはありがたい。（荷物を到着地チェンマイで受け取れる）。

携帯電話料金がとても安かった。毎日日本の家族に電話するのに100パーツ（約300円）のプリペイドを2枚買っただけで済んだ。

## （少し気になった点）

道路事情が悪く高齢者などの肉体的にハンディがある人は生活しにくいかも。

まず横断歩道がほとんど見当たらず道路の横断が難しい。車の運転も難しそう。バイクの横暴運転が怖かった。目の前で車と二人乗り女性のバイクの接触事故に遭遇した。ヘルメットも装着しないで多いときは3人も4人も一台に相乗りして車の右から左から追い越していく様は目にするだけでも心臓に悪い。

また歩道と車道の段差が大きいし、そのうえ歩道には樹木や電柱、広告物などの歩行障害物が多く健常者でもスムーズに歩けない。

私たちが歩いたところは、リンカム交差点からニマンヘミン通りを抜けチェンマイ大学のコンベンションセンターの中を一周し、ステップ通りに出てスアンドーク門前からお堀に沿って北上、セントラルデパート（で買い物）など寄り道しながらアマリリンカムホテルにもどるというコースと、ホテルから旧市街までなどチョコチョコと、でもよく歩いた。

野良犬が多い。野良犬から吠えられたり危害を受けたりはなかったが、散歩の途中後をつけてきて怖かった。私のように犬が苦手な人は行動範囲が限られるかも。

市民が誰でも気軽に利用できる施設を見学することができなかった。

LS中にゴルフをしない人が何をしてすごすが、日本での過ごし方を思い浮かべながら、同じような楽しみ方がどのくらいできるか探してみたかったが時間が足りなくて今回は収集できなかった。（映画館、コンサートホール、体育館、市民ホール、コミュニティセンターなど。）

現地の人たちが集まるところに自由に仲間入りできる環境を探したかった。

## 7. ツアーの総括

航空券とホテルを自分で選びながらの個人ツアー経験がはじめてという私が、成り行き上と

はいえ取りまとめ役みたいなことを引き受けてしまい、当初から不安材料はいっぱいだったが、そこは南の会のメンバー、皆さんの協力で大きなトラブルもなく楽しい有意義な観光兼視察旅行を体験することができた。

今回のツアーの成功のポイントとしては、目的地に南の会支部があり、会員のサポートがあったこと。

ホテルや滞在中のツアーを日本語メールで相談できる現地の信頼できるツアー会社があったこと。

渡航前に日本でチェンマイの日本語表示の地図が見られたこと。

インターネットで必要な情報を収集できたこと。

参加の会員全員がメール会員であったこと。計画時から実施までの期間が十分にあったこと。

参加者全員がそれぞれに南の会の会員としての自覚を持って積極的かつ責任ある行動をとられたこと。

そして一番は全員が健康であったこと。

さらに教訓、私たち渡航経験の浅い者でも、先輩や経験豊富な方々をすべて頼ってしまうのではなく、アドバイスを頂きながら自分のできるところまで学習しながら準備を進めれば、より充実した自分の旅が満喫できるということ。迷いながら少しずつ経験を積み重ねて夢を追い求めて行きたい。チェンマイは未熟者にやさしい都市だった。

もうひとつ、これは私の個人的な感想、「チェンマイは女性にもう一度おしゃれ心をよみがえらせるてくれるところ」ではないかと。美顔からスパ、エステ、オーダーメイドのドレス、花、花、花に囲まれた生活、贅沢ともいえるおしゃれライフが手の届くところにある。これこそ求めていた最高の幸せ、といたら大げさかな？（美容院で美顔とまつげパーマたるものを生まれてはじめて体験し、感動した）

最後にチェンマイ在住のたくさんのかたがたにほんとお世話になりました。ゴルフ、お食事、買い物、住まい訪問と一杯いっぱい甘えてしまいました。いつかは私たちもたくさんの会員に喜んでいただけるようなお手伝いができる会員になりたいと思っています。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

### チェンマイでステイに挑戦！

九州支部 No.920 國武 光慶



9月28日に開港したばかりのバンコクのスワンナプーム新国際空港、タイの伝統的な高床式の建物をモチーフにしたようなガラスでスッポリと覆われた巨大なターミナルビルを眺めながら“あの高い屋根から壁面にかけての清掃はどういう方法でやるのだろうか？ 管理清掃費も馬鹿にならないな！ 利益を圧迫するぞ”とブツブツ余計な心配をしている私に“相変わらずね、現役はもう卒業したのでしょうか”と妻にあきれたように笑われました。

スアンナプーム国際空港から1時間余りのフライトでチェンマイ空港に着陸、武装兵の姿は見かけたものの、街には物々しい気配もなく、先日のあの政変騒動は何だったのだろうか！というような静けさでした。アマリ・リンカム・ホテルに着くとやはりホッとして、我々の旅（九州支部企画・総勢15名の下見ツアー）がスタートしたのだという昂揚した期待感で一杯になりました。

私達は初めて訪れたチェンマイでコンドミニアムの賃貸借契約を結びました。近々、別のコンドへ転居予定の田中勉・美子（通称ターナさん）夫妻にお会いしたことが、新しい生活に踏み出す大きなきっかけになりました。今回宿泊したアマリ・リンカム・ホテルからニマンヘミン通りを西に徒歩5～6分の所に位置する8階建のバン・タイ・コンドミニアムの部屋は明るいワンルーム、きちんとしたセキュリティ・システム、管理状況も申し分なく、眺望も良好、嬉しいことに3階の屋上にはきれいな25メートルプールが設置され、泳ぐことが大好きな私達にはプールは実に魅力的。このコンドには九州支部の田中正臣（通称ボブさん）・直子夫妻もステイしていることがわかりその奇遇にビックリ。家賃は水道代込みで月額5,400バーツ（約17,000円）ホテル3泊分程度の金額でチェンマイに拠点が確保できるなんて旅立ち前には予想もしていませんでした。部屋にはカーテン・ベッド・冷蔵庫・テレビ・電話・冷房機などが設置されているものの、風呂はバスタブなしのシャワーのみ、キッチンの設備はなく、長期に住むには電熱器や電子レンジが必要だと思いました。備品についてもターナさんの好意で食器棚や長椅子などの家具をそのまま譲り受け、明日からでも住める状態でスタンバイ。

3年前に心筋梗塞の手術を受けた私の一番の関心は病院の視察、今回見学したランナー総合病院の日本語通訳・岸田栄子さんのてきぱきした対応、病院特有の消毒臭がない清潔な病室、国際標準規格ISOを取得しその基準で管理運営されている病院のPRビデオの説明にいざという時にはこの総合病院の医療水準なら安心だとの安堵感・信頼感で“チェンマイにステイするのも悪くない”とふっと思いました。

道路には信号が見当たらず横断が問題、しかし街の中心部の歩道はきちんと舗装されているのでノンビリ散策を楽しめる安心感。ホテルから徒歩で12～3分のセントラルデパートには日本の書籍を販売している東京堂書店があり、

20万の人口の割には都会と自然が程よく溶け合ったゆったりした好ましい街だという印象を抱くことが出来ました。

この地を足がかりにプーケットやサムイ、更に私達の好きなランカウィに旅することも出来るのです。私は英会話の勉強・妻はタイの古典楽器に興味津々・・・。

初めてのロングステイにむけ夢はどんどん膨らんでゆきます。今はまだチェンマイの本当の魅力を理解していません、でも何故かチェンマイの雰囲気は私達に活力を与え、何にでも挑戦できるという気持ちにさせてくれます。妻は言いました“こんな気ままな冒険を楽しみながら、歳を重ねるのも悪くない！”と。

取りあえず、私達は12月から1月にかけて1ヶ月間バン・タイ・コンドに滞在します。日本とチェンマイの交互の生活をのんびりと楽しみます。

今回の旅で伊沢支部長や支部のメンバーの方々がホテルで開いてくれた歓迎の夕食会やカラオケ会、異国の地でどれ程うれしく心強く感じたか分かりません。私はこのような一期一会の出会いを大切にしていきたいと思います。

参考：コンドミニウム（15㎡）の契約時デポジット（退去時に返金されます）

|                        |            |
|------------------------|------------|
| Deposit for Room       | 10,000 バーツ |
| Deposit for Keycard    | 1,000 バーツ  |
| Deposit for Television | 2,500 バーツ  |

## チェンマイLSツアー - に参加して

九州支部 No.1083 伊藤 公一・実枝子



### 1. ツア - 出発前の準備、心構え、期待

旅行会社のツア - しか経験がなく、初めの内は自分で航空券を手配し、自分でチェンマイでの行動を計画すると言われてもどうやれば良いのか分らず途方にくれたが、メールでやり取りをする内に少し要領が理解出来、現地のホテル、ツア - の詳細も決めることが出来た。

一方、タイについての情報を得るべくタイ関係の本を数冊購入し読破すると共に、タイ語の勉強も考え、タイ語のCDも聞くなどした。初めてタイ語を見て聞いて、これが言葉かと驚かされると共にとても短期で理解は出来ないと思わされた。

「 極楽タイの暮らし方 」

「 金なし、コネなし、タイ暮らし 」等々

ところが出発まで10日を切った時に、タイでクーデター発生ニュースが伝わり、一時は中止になるのではと思ったが、その後チェンマイ在住の会員の方からの情報、会員の方々の情報などからツア - 実施に支障がないことが確認出来、やっと出発することが出来た。

### 2. チェンマイ滞在での体験

9日間の内、7日は現地ツア - に参加したので一通りのことは体験し知識を得た。

ゴルフ事情、タイマッサ - ジ、病院、コンドミウム、旧市街の雰囲気、交通状況、洗濯など。それにチェンマイLS者の方の色々な生活ぶり

も見聞きさせて頂き、滞在は短期間であったがLSの雰囲気を理解できた。

チェンマイは町が大き過ぎず小さ過ぎず、そこそこの都会であり、必要なものがすぐそこにあると本にも書いてあったがその通りの感じてあった。

### 3. LS候補地としてのチェンマイ感

気温は想像より少し高いかなと思ったが11月からはしのぎ易くなるということなので問題はない。食事も、全体の雰囲気も抵抗はない。現地では一時日本食が恋しくなったが日本に戻った今は逆にタイ料理が恋しい。

日本が寒い時期に暖かい所で過ごすことに魅力があり、チェンマイをLS候補地として考えて行きたい。

ただ、日々何をして過ごすかについては今回のツア - で答えは出せていないので、次には1か月程度の滞在を体験して考えてみたいと思う。

### 4. 現地ツア - について

印象に残るツア - はエレファントツア - 、LS下見ツア - 、ミャンマ - への入出国体験であった。その他の寺院めぐり、市場めぐりは短期の日程の中で効率よく回って見ると言う点で有効であった。

バーンタワイ工芸村見学は現地で1時間だけあれば十分であり4時間は取り過ぎた。

### 5. 今回のチェンマイ団体ツア - について

九州支部の企画行事に参加出来たことは自分にとってはラッキ - であった。

企画に参加するかしないかで迷い、タイのク - デタ - で航空券のキャンセルで迷いながらもチェンマイに行き帰って来たことで、チェンマイの雰囲気が身をもって分り、また実際にステイされているチェンマイLS者の方の様子を見て聞かせて頂いた事で、LSについて身近に考えることが出来る様になった。

今回、同じ年代で同じ志を持った方々と短期間ではあるが行動を共に出来、楽しく過ごせたことを南国暮らしの会に感謝したい。

## 6. その他

タイ語を理解することは簡単ではないことを再認識させられたが、今回同行されたTさんが持参した会話機（タイ語を話す）でタイ人との会話が進むのを見て有効だと感じた。再訪する時にはぜひ持参したいと思う。

南国暮らしの会の九州支部、チェンマイ支部、並びに今回の下見ツアー - を支援して頂いた関係者の方々お世話になりました。 以上

### 南国暮らしの憧れと現実 (チェンマイに旅して)

九州支部 No.1091 長友 統



熱しやすく醒めやすい典型的日本人を自認する私が60歳の定年を迎える1年位前から外国暮らしにかなりの憧れを抱くようになったのです。この想いは結構長く続き、その種の本「年金月21万円の海外2人暮らし」や「年金だけで海外で暮らす本」等、4, 5冊を読み終えた頃は最高潮に達しておりました。しかし当時は父が入退院を繰り返した後死去した時期で、なかなか下見旅行もままならず、諦めの心境になっておりました。ただ、種々の問題を抱え周囲の柵（しがらみ）からの逃避、即ち遠くの国へ行って煩わされずに暮らしたいとの気持ちだけは、強く持っていたように思います。また、完全に年金生活者になったことで、年金だけで暮らせる国が対象になっていました。

その国を南の国に設定し、父の三年忌を終えた18年3月に家内とバンコクとアユタヤを訪れました。しかし、その暑さに驚嘆。南国だから暑いのは当然ながら、腕から噴出する汗を見て「この暑さで長期の生活は我慢できない」とあっ

さり諦めてしまいました。私はかなりの暑がりなのです。

それでも帰国後、ネットを通じ「南国暮らしの会」を知り、その後入会させて戴いたのは、まだ完全に諦めていなかったのでしょうか。

地元熊本での会合に出席したり、会員間で送受信されるメールを読むうちに、この会の結束の強さや文面に垣間見る人間性あふれる信頼関係を認識した次第です。

半年後のチェンマイ下見旅行は心に残る海外旅行になりました。出発前に貰ったチェンマイ支部会員からのメールによる情報は実に有難く、旅行必携品や日本への土産品紹介、宿泊ホテルの情報等微に入り細にわたり、この親切には頭の下がる思いでありました。滞在中は支部主催の歓迎会やゴルフプレーでの送迎や、メンバーズゲストとして寓して戴いたり、まさに至れり尽くせりの面倒見の良さは、祖国からやって来た同胞に対するよしみ以上の親切心であり、心に沁みました。

言葉は通じなくとも、体格も顔かたちも日本人に酷似しているタイ国人に対し、殆どが敬虔な仏教徒であるという安心感から、街を歩いても、薄暗い屋台に入っても怖さを感じず自然体で行動できたことは、イタリアでスリに遭った経験のある私達にとっては、かなりの親近感を抱かせるものでした。気にしていた気候、特に気温についてはバンコクと比べて過ごしやすく、その時期が良い気候に移りつつあった時期であったことを差し引いても、何とか我慢できそうに感じたものです。物価は昔のことはいざ知らず、今も、周知のごとく日本と比べかなり安価であると感じました。食べ物も香辛料の臭いとその強さが気になりましたが、これも慣れが解決してくれるでしょう。滞在中1日ではありましたが、料理にまったく興味のない私が、家内と共に料理教室でタイ料理を学び、しかも帰国後友人達への報告会で私が教わった料理を作り、拍手喝采を受けたのは、我が家の大きなニュースになりました。このように総合的に判断すると、チェンマイは魅力的な都市に違いなく、私にとっ

ては非常に近い国（都市）に思えて、事実後ろ髪引かれる思いで帰国したものでした。

南の国はタイとシンガポールしか行ったことが無く、しかもたった10日しか滞在していないチェンマイにすっかり嵌って、帰国後友人たちに南国暮らしの楽しさを、少々の誇張を交え話していましたが、厳しい質問に遭ったのです。

「それで、あんた向こうに住んで、いったい毎日何をして過ごすのかね」 勿論、そのことを全く考えなかったわけではありません。深く考えず何とかなるはずと自分に言い聞かせていたのです。改まった質問にハタと答えに窮したのであります。

今回は10日の間に5, 6日はツアーに参加したため、瞬く間に時間が過ぎたのですが、ロングステイとなると果たして何をして過ごすのでしょうか。日本ではゴルフを始め、釣り、登山、水泳、映画鑑賞、温泉巡り等で時間を費やせても、異国の地で毎日ゴルフばかりしているわけにはいきません。計画も立てずに行き当たりばつたりの生活も、ある意味楽しいかも知れませんが、やはりある程度の目的は必要でしょうね。今後の課題になりました。

追い討ちをかけるように「奥さんを連れて行くのだから、あんたに付いていくように説得できるか」なる質問には、うーんと唸るばかりでした。連日趣味や町内の催しに忙しくしている連れ合いの意向が、今後の動向を左右するので、夫婦だから何とかなるだろうと、高を括っていた自分が現実に引き戻された瞬間でありました。多分、今後彼女との間でショートステイでの手打ちが行われるのが現実的でしょう。一人で暮らす度胸も、意思もない男の今後の行き方を決める大事な鍵は、矢張りと言うか、意外にもと言うか自分の連れ合いであったのです。

チェンマイの魅力を知っているわけでもないのに、チャンスがあれば今すぐにもと思う程の、強く心引かれる街でありますから来年も是非30日位の日程でトライすることを夢見ながら心躍らせている今日この頃です。

## チェンマイ旅行

九州支部 No.651 穴見 洋子



前回のチェンマイ初訪問時は同行して頂いた南の会の先輩やチェンマイ支部長に抱っこにおんぶの感がありましたが、今回はKKトラベルのジョンさんの存在が大変大きかったと思います。

15人の大所帯のツアーでチェンマイ初訪問の会員が殆どだったにも関わらずそれぞれのやりたい事が満足いく様に行動出来たこと、全員が同じホテルに宿泊しているので新しい情報の交換もすぐに出来て9日間の短い滞在期間にしては充実したLS下見の旅になったと思います。

渡り鳥的LSを希望する私にとってチェンマイは十分満足できる地だと思えました。日本語が通じる病院、タイ料理だけでなく世界の料理が食べられ、しかも安い、車が無くても何処へでもいける交通の便がある、結構都会で、ちょっと外れれば田舎があって、安全、そしてタイ人の暖かく優しい笑顔が何よりの魅力です。

住居に関してですが、毎回外へ出掛けて食事するのは億劫だし、生まれた時から口にしているご飯にお味噌汁等、簡単な食事でもいいから家でゆっくり食べたいと思うに違いないので小さくてもいいのでキッチン付がいいなと思えました。

### その他

ホテルのサービスについて

滞在中1泊2日の小旅行に出掛けるためホテルをチェックアウトして、戻ってきてから再チェックインしたら又ウエルカムディナーのサービス

が付いていてびっくり。1泊しなかった分は払い戻しがあった上にディナーのサービス付き、アマリリンカムホテルのサービスのよさに感激。

#### チップについて 1

ウエルカムディナーを使ってレストランに行った時の話です。私と友人は混雑を避けて時間を少しずらしてレストランに行きました。始めレストランは一杯だったのですが、少し待って私たちの料理が運ばれて来る頃には日本人は私たちだけで他に西洋人のカップルとインド系のカップルの3組になりました。それまでピアノの生演奏があつてのは知っていましたが、ピアノから離れた席に着いたのと人のざわめきでピアノを楽しむことは出来ない状態でした。静かになったところで、日本の曲が耳に入ってきました。私の席からは柱の陰になってピアニストの姿が見えなかったため、私は体を少しずらして拍手をしました。そしたら彼は私たちが食事をする間日本の曲を演奏し続けてくれました。嬉しかったので心ばかりの感謝の気持ちとしてウエイトレスに40パーツのチップを彼に渡してくれるよう頼みました。レストランを出る時彼のそばに行って「楽しい時を過ごせました。有難う」と言って別れました。

翌日ホテルのロビー横にあるラウンジの所で私たちを見てにっこり挨拶する男性がいます。一瞬、誰だか分からなかったのですが、昨日のピアニストの彼でした。

それから何度か会いましたが何時もにこやかに挨拶を交わしてくれました。あの時の40パーツがチップとして適当な額だったのかは分かりませんが、義務として渡したチップで無く有難うの気持ちで渡した40パーツで私たちはお金で買えない良い思い出を彼から与えてもらいました。チップの習慣が身に付いていない私は外国に行く度チップって面倒だなーと思っていましたが、チップも使いよう、気持ちの持ちよう、あっても良いかなと思えるようになった出来事でした。

#### チップについて 2

九州支部会員の方でゴルフをされる方が、タイではポケットティッシュがないので、ゴルフの時キャディさんにチップの他にポケットティッシュを上げると喜ばれるので駅前などでティッシュを渡されたら貰っとくほうが良いという話をされていので、私はゴルフはしませんがティッシュを多めに持って行きました。そしてホテルで毎朝枕銭を置く時ティッシュも1つ置くようにしました。始め黒ずんだタオルが出ていましたが、毎日白いタオルと交換されるようになったのは気のせいでしょうか？ 昨年に続き今回も十分楽しめた9日間の旅となりました。

### チェンマイ旅行

九州支部 No.1124 田上 篤



#### 1. ツアー出発前の準備や心構え、期待

海外旅行は、5年前の韓国旅行以来であり、その韓国旅行は、会社の慰安旅行みたいなもので、今回のような海外での生活を前提とするようなものではなかった。

海外にロングステイといったことを考えたのは、仕事も含め日常生活に飽き飽きしており、違う自分に会ってみたい。といった漠然とした異文化体験を求めてのことであるが7月に早期退職をしたので、にわかに現実化できる体制となった。

さて、どこへいこうか？ タイは、仏教国であり、日本と同じように君主国であり、民主国家であり、親しみやすいハードルが低い国に思えた。

たまたま、知り合いに去年チェンマイに行ったことのある知人がいて、その人から政情が安

定していて、人々の性質が温和であり、生活レベルもある程度向上しており、物価も安く、天国のようなところであり、十分日本人にも住めるし、住んでいる人も大勢いる。といったことをきいており、まだ、「南国暮らしの会」に入る前であったが、行って見たいと思っていた。また、7月のはじめ西日本新聞でロングステイの特集でチェンマイをやっており生活事情を垣間見ることができたので、身近に感じた。

今回の旅行の準備は、九州支部の朝永さんの貢献におんぶにだっこであり、往復の航空券の手配、ホテル、滞在中のオプション・ツアーと全部お願いしてしまい随分と楽ではあったが、反面自立できないなと感謝と反省をしている。

しかし独身は私1人であったが、それなりにいろんなご夫婦を観察できて、おもしろかった。

他に準備としては、タイ語の若干の勉強で、ニンテンドーDSの旅の指差し会話帳「タイ語編」を、変圧器も含め持っていった。タイの子供たちは、眼を輝かせて興味をこの機械に持ってくれ、会話がちょっとしやすかった。

後、タイの風土というか文化的なものに慣れておこうと思ってタイ料理の店でご飯を食べ、福岡アジアマンスでタイ映画を3本見た（素朴で、純情で、仏教と近代化がなんとなくわかったような？）。

また、グーグルアースで、チェンマイの近くを空から散歩をし、インターネットのサイトで楽しんだ。（全く便利な世の中になったもんだ。）

## 2. 9日間の滞在で感じたこと、体験したこと

チェンマイ空港は、こじんまりした空港であったが、クーデターの関係で兵士が銃を持って警戒しており、行く前に戦車の横で兵士と記念写真を撮る市民等と報道されていたので、記念撮影をおこなった、確かに緊張感はなかった（こんなもんかいな）。夜着いたのだが、市内は日本と較べると暗く、その中を車とバイクがすごいスピードで走っている。ノーヘルのねーちゃんが姿勢正しくバイクを飛ばしており、昔親父

のバイクにしがみついていた昭和30年代を思い出した。

滞在したアマリリンカムホテルは、古いが落ち着いて格式のあるホテルのようであり、若く美しい男女の従業員のマナーも良く、清潔で美しく、滞在者の大半は、白人であり、気持ちよく滞在できた。一度部屋の金庫を開けっ放しにして、出かけたことがあったが何事もなく安心できた。ホテルの角がリンカム交差点となっており、昔からの目印のようだ。

タイは、さすがに国王の治める国であり、月曜日には国王の誕生曜日の色、黄色のシャツが充満している。（私も1枚買いました。）

ホテルのチップが20バーツで毎日20バーツがあるので、最初のスワンナップ空港で500バーツを25枚の20バーツに両替したが、空港の両替所では、怒ったように両替してくれた（多分非常識な要求だったのかも？）。

市内の観光には、交通手段としてトクトクというオート3輪車のタクシーとソンテウというピックアップトラックを改造した乗り合いバスを利用した。トクトクは、旧市内まで50～40バーツ、ソンテウはその半分以下の15バーツから20バーツ（バス停には大人10バーツ、子供5バーツ、遠い場合は割り増しと表示してある。）このソンテウがなれてくると便利である。朝と夕方以外は閑で客待ちしており、路線があえば、どこにでも連れてってくれる。最初に値段を交渉しておけば、待たせておくのもできるし、運転手の横の座席に座るのもOKだから、地図で指差し、ニコニコ笑いながら乗ればもう住民と変わらない？

よく出かけたのが、ガートスアンケーオ（通称センタン）というデパートとワロロット市場。デパートは、空港の近くにエアポートプラザというデパートもあるが、非常に新しく清潔できれいで、なんでも揃っている理容・美容・映画館・スポーツクラブ他なんでもある。スポーツクラブは、床のむき出しにじかに踊っていたり

して、鏡もなく、更衣室もなく日本のレベルとはだいぶ劣るが、他は遜色ない。デパートの地下食堂でよく食事をしたが、白人も多く味もよかった。それに一般にタイ人は、親切であるのか、セルフサービスの店なのに前に座ったオバサンが、頼んだ食事を持ってきてくれたりと感じが良かった。(最初にチケットを100バーツなり買い、好きな食べ物を注文し、出来上がりでチケットで支払い、チケットが余った場合は、チケット売り場でお金に精算してくれる。)

ワロロット市場は、なんといっても物が洪水のように溢れていて、安く、それでいて殺気だったような険しさがなく、買い物も値切るのが常識で、値段も同じものでも店によって言い値が異なり、とても楽しかった。ピン川のそばに花市場もあり、北方のバラと呼ばれるチェンマイが実感できた(花の豊富で安いこと)。

果物の季節ではないそうだが(雨季明けは)、果物もたくさん食べた。マンゴー、パパイア、ランブータン、ドラゴンフルーツ、ドリアン、ローズアップル、ロンガン、グアバ、おいしくなかったのは、ローズアップル見た目はいいがさっぱりしすぎている。ドリアンはどうしても食べたかった果物だが、アルコールがダメな私には向かない果物ようだ、昔仙台でホヤという東北人の推奨する貝のようなイソギンチャクのような食べ物を食べたがそのときを思い出した。果物を食べるためには、ナイフが必需品デパートで万能ナイフを買った。

食事は、現地の人と食べる場所では、30バーツ位で、冷房の効いたレストランはその10倍の300バーツ位とはっきりしており、どんな暮らしでも可能。

### 3. LS候補地としてのチェンマイ感

- ・将来LSしたいと思う理由
- ・LSするには難しい理由

将来ロングステイしてもいいかなと思う理由の最大のものは、物価の安さである。ホテルに滞在したとしても1ヶ月10万くらいで、生活費も含めて20万くらい、これを上限にすれば、マ

ンションを借りて、生活する分には、十分生活は可能である。

ただ、人はパンのみで生きるにあらずであり、今日本で暮らしているような暮らしを同じようにできてこそという気がする。

ゴルフ好きにはたまらない魅力地であろうが、ゴルフのできない私は、正直まごつく、まー習えばよいのだろう。

日常生活では、タイ式のトイレこれになれることができるか？

普段使っているハードコンタクトレンズは、タイ国内では、購入できないため、ソフトにするか、眼鏡にするか。

あと、9日間という短い期間であったが、これはという景色にあわなかった、今すんでいる福岡県の高賀というところは、海も山も近く散歩もできるし、図書館では、常連、スポーツクラブでは、ダンスとエアロビを満喫できる。

ただ、未知のものが、期待が日本にいては、得られないようである。

チェンマイは、いいところであるもう少し、知らねばならない。

### 4. 滞在中のツアーについて

KKトラベルのジョンさん、サーターさん二人とも熱心で誠意が感じられとても楽しめた。寺院めぐりと市内観光

定番のコースであり、全く初めてのひとには、欠かせない。

ナイトバザール

これも、最初の人には、欠かせないそれなりの活気があるが、慣れれば、ワロロットのほうが面白いし、安いことがわかる。

ロングステイの視察

一般的な物件紹介であったが、一番役立ったのは、実際すんでいる田中さん宅への家庭訪問であった。在住の人の家庭訪問とか、暮らし交流といった企画があったならと思った。実際センタンのバンコク銀行であった日本人の夫妻は、190万で、90平方のコンドミニアムを買ったというような、耳より情報があり、

思いつかず残念。

オカマショーや、カントークディナーショーは、それなりに楽しめた。ピン川ディナークルーズやバークティ工芸村は、慣れてきたせいもあってか、退屈。エレファントツアーは、観光の目玉、これぞタイという気分を満喫。楽しかったが、帰りのラン園・蝶園はいらなかった。

## 5. 今回の団体ツアーについて

今回の団体旅行は、初めて海外を経験する私にとっては、とても参考になるものだった、というのは、私だけが、正真正銘の独身であり、皆さんにとって異質に感じられるものだったかもしれないからである。

私の目から映るご夫婦は、それぞれに仲がよく、セカンドライフを二人で楽しんでいるのがよくわかった。

このツアーと別の人からは、伊藤さんの奥さんの弟と間違えられており、苦笑したが、それだけ親しくしてもらえたことを感謝している。団体も偶には、いいものである。

## バリ島旅行

九州支部 No.758 白井 征勝

今年の7月に旅行会社主催のヨーロッパツアーに夫婦で出かける予定でしたが、寸前になって中止になってしまい空白の時間ができました。そこで3週間の予定でバリ島に出掛ける計画を立てましたが、家内は行きたくないと言うので一人で行くことにしました。



バリ島のサヌールには2年前にダイビングのライセンス取得に行った際に知り合った日本人のインストラクターが居るのみで、他には知り合いはいません。しかし海岸が綺麗で治安がよ

く落ち着いた感じのところでした。今回はたまにダイビングをし、あとは海岸の散歩と読書。あまり日本人と接触せずに出来れば現地に溶け込み、バリ人の実生活をこの目で確かめロングステイが可能か調査するつもりでした。

急なことで格安航空券の購入は無理でしたが、何とか航空券を手に入れることが出来ました。日程が決まれば後は宿泊方法です。昨年たまたまバリ島に詳しい関東支部の加藤さんとサヌールで知り合っていたので、厚かましく現地でサポートしてくれる人を紹介してほしいとお願いしましたらサヌールに住んで6年目になる夫婦の方を紹介してくれました。古川さんといわれる方で旅行の斡旋もされているようでした。メールでこちらの条件である3週間の予定でバスタブ・NHK衛星テレビ・エアコン付のホテルが2,000~2,500円/日で無いかと聞くと、衛星TVのあるホテルだと最低でも3,750円はかかる。この金額でも探すのは難しい、その条件さえ外せば希望の金額で泊まれる安宿はある。しかし、3週間も居られるなら私の家の隣に築後1年未満で、現在帰国している日本人が5年契約で借りている一軒家がある。21型TV・エアコン・ホットシャワーバスタブ・冷蔵庫・電話・電子レンジ・ガスレンジ・シーリングファン・CDラジカセ、電気炊飯器・トースター・洗濯機・厨房用品から食器まで全て購入後間もないものばかりで、屋外の掃除は毎日、室内は週に2回ハウスポイがしている。2,500円/日でレンタルできる。手数料は家主から戴くので必要ない。

寝室はダブルベットとツインベットの2部屋あり、何人泊まろうと自由だ、とレンタルハウスを紹介してくれました。今回は九州支部の朝永さんのご主人が途中で合流することになっていたので予算内であり即決めました。(一人当たり実質1,250円/日で済みました)

バリ島に着いた翌日ダイビングをし、翌々日現地の集合屋台に夕食に行った際、偶然バリ人をフィアンセに持った日本人と知り合いになり



港で乗り継ぎ、デンパサール空港には予定時刻よりやや早めに到着、白井氏の迎えを待った。

(出発も定刻よりずいぶん早かった・・要注意)

以下、空港到着から約10日間の生活で得た情報を報告したい。

デンパサール空港(ングラ・ライ空港とも言う)

この空港は国際空港なのに2階建て、椰子の木に隠れてしまいそうなちっぽけな建物(後で聞いた話だがバリ島では椰子の木より高く造ってはならないそうだ)、熱帯植物、海上を降下しての着陸等、奄美空港がこんな風だったことを思い出してしまった。

滞在日数が8日以上30日以内なので25USDのビザチケットを購入して入国審査を受けた。

観光客が少なかったこともあり(飛行機の座席は2割くらいしか埋まらなかった)、手続きはあっという間に終了。

無事白井氏に迎えられサヌールへ出発。



サヌールビーチ

#### レンタルハウス

家の持ち主は隣の隣に在住している現地人、その建物を日本の方が借りており、その方が日本に帰国している間、また貸しをされた模様、その家の管理は隣のFさん(旅行会社をされている日本人)が行っている。(家を出るときは管理人のFさんの検査を受けなくてはならない、うかつに汚せない)

家の周りの植物への水やりと庭に出したゴミの処分(毎日)、家の掃除(一週間に一度)は隣のFさんの使用人さんが丁寧に行ってくれる。

玄関と食堂兼広間は十分な広さがあり、お客さんをお呼んでの夕食会が出来た。

食器、炊飯器、冷蔵庫、洗濯機、エアコンすべて使用可能。トイレは手動水洗(ホースの先にミニシャワーが付いており、これを手に持って汚物を水に流す仕組み、肌についた水は紙でふき取ってゴミ箱に捨てる)で、いたって清潔。

庭の端にはテンプル(お墓、祭壇?)があり、毎日線香と供物が供えられていた。

#### 気候

7月のバリは(現地の方に言わせれば)年間で最も寒く感じられる時期、といっても常時28~29度の高温、年間を通じてあまり変化はない。しかし乾燥しており、風通しのいい日陰では肌寒さを感じたこともあった(私の体質がそうだったのかも知らないが)。エアコンは使用せずに天井に設置されている大きな扇風機を数回使用しただけ。

とはいえ赤道直下、日差しは半端ではない。直射日光は痛いくらい、私もS氏も現地人に間違われる程真っ黒に焼けてしまった。

7月は、常時海から一定方向に風が吹いていて凧揚げには絶好のコンディション、その競技会が開催されていた。村や会社のチームが大凧上げの競争(形や泳ぎ方を競うもの)をするもので、すごい人出とバイクの洪水には驚かされた。私たちも時を忘れて凧揚げ大会を楽しんだ。

#### 宿泊施設

ピンからキリまで多種、1泊150ドルのバリ・ハイアットホテルから、1泊千円以下のホームステイ(ダブルベッドとバス・トイレ付きの簡易宿泊施設)まであり、贅沢をいわずにホームステイでもいいのかなーとも思われる。

ちなみに、コンドミニアム的な建物は見当たらない、ロングステイするなら一軒家を借りるしかないようだ

#### 交通

各都市間を結ぶ定期バスは1日数本ずつ運行されているが市内を回るバスは無い。

市内を移動するには軽四を改造したタクシー(初乗り7,000ルピア(72円程度)交渉次第)

を利用するかメータータクシー（薄い水色のタクシーが安心）がある、空港からサヌールまで8万5、000ルピア程度（25分）。

#### 物価

ものすごいインフレで貨幣価値が下がってしまい、数字を聞いてびっくりするが、1ルピアは0.0128円程度でよく考えてみると随分安い。どんぶり一杯のバクソー（肉団子入りのスープ・自転車の屋台で鐘を鳴らしながら売ってくる）が1,000ルピア（13円程度）。

至るところに食堂兼小店があり、現地の方々と同じ様に食事をすればその安さに驚いてしまう。コーラー付きの昼食（いためた野菜の中に米の団子を入れ、いろんなスパイスで味付けしたもの）で4,000ルピアだった。

観光地でTシャツが5枚1,000円の声が聞こえた、値切ったらまだ安くなりそう。しかし、大型スーパーで買うのが一番安心。

#### 食べ物

夕方6時過ぎるとあちこちに屋台村が出現  
ミックスジュース・・・2,000ルピア（約25円）  
サテイー・・・焼き鳥（串にさした肉を焼いたもの、あちこちの路上で販売）

テンベ・・・納豆を平たくして揚げたものうまい  
バビグリン・・・豚一頭の丸焼き（子豚だったが

8人で食べきれない。30万ルピアだった、冷めてから食べるとスパイスが効いてきて益々おいしくなった。）



イカン・バカール・・・焼き魚（自分の食べたい魚{名前は無い}を選んで炭火で焼いてもらう6,000ルピア）

ご飯（ナシ）・・・2,000ルピア

ナシゴレン・・・インドネシア風チャーハン  
7,000ルピア（約90円）程度

ミーゴレン・焼きソバ・・・ナシゴレンと同程度

ホテルの海に面したレストランは上記屋台より数倍高い。旅ガイドブックに載っているレストランも非常に高い。（サヌールのレストラン「ルムット」は4人での昼食で235,000ルピア。ジンパランの「海老壱」では4人でのサンセットディナーが1,600,000ルピアだった）

#### 酒

ビール・・・（ビンタンビールが一般的）レストラン、小店、屋台とも12,000ルピア。

アラーク・・・ヤシで作った蒸留酒（焼酎？）インドネシアでは高級酒、結構うまい（35,000ルピア）、現地の方はファンタで割って飲む。味が変わってもったいない。

#### 遊び

ロングステイでは何をしようか考えてしまう。

ゴルフ場はあるが一般的ではない

釣り・・・現地の方々（男性）は日焼け防止のために目だし帽をかぶり1日中海の中で魚釣りをしている、獲物は5センチくらいの小魚、フライにして食べるそうだ。

ダイビング、シュノーケル・・・サヌールビーチでは楽しめない、船をチャーターして近くの島に渡る必要があり50US\$から100US\$

#### 総括

物価は安く気候もそれほど悪くなく暮らしやすい環境にはある、短期の観光には「神々が宿る地上の楽園」としているいろいろあって、素晴らしい処だとは思われるが。

朝からの海岸散歩と昼寝と夜の酒だけでは飽いてしまいそうな気がする。

登山、バドミントン、下手なゴルフ、そして下手なギター、ミュージック鑑賞等こんな趣味がそこで続けられるのか、医療機関が充実しているのか（確認しなかったが）やや不安を持って帰国。

よく考えてみたい。

## バンコク下見旅行

九州支部 No.993 山根 憲司



### 空港への交通手段

私の住んでいる山口から海外へ行くには福岡空港へ行くか関空へ行くのが一般的です。今回は福岡からの航空券なので、福岡空港まで片道1人5,800円で行ってくれるタクシーを予約しました。飛行機は10時10分発なのだが、朝5時10分に迎えに来ました。ここから福岡まで2時間掛かるので朝のラッシュに掛からないようにするとこの時間になるのでしょうか。空港に着いたのは7時30分頃でした。

### 航空券の手配

今回は「IACEトラベル」で格安航空券を手配して貰ったのですが、私が最初にインターネットで見た時に最安値だったのは、V(ベトナム)航空の¥34800でそれを予約しようと、予定を調べて貰ったら帰りの日にちが、ちょうど運行のない日で、旅行会社が勧めてくれたのが、帰国日を前か後ろに1日ずらすか、C(チャイナエアライン)航空¥45000に変更するかでした。それが、諸費用との合計を見るとわずかですが、チャイナエアラインの方がやすいのです。何が

違うかというとならぶと燃油サーチャージが、V航空の方が17,600円 C航空の方が6,700円 そして航空保険が400円の差があって合計では、Cの方が800円安かったのです。それでやはり日程が合うし安いのでC航空の方に決めました。

### 空港からバンコク都内へ

前回までのドムアン空港の時は、エアポートバスが乗りやすく1人当たり100Bと安かったので、利用していましたが、新空港になってから1.5倍に値上がりしたので、以前南国のMLで紹介されていた、バンコクナビ([http://www.bangkoknavi.com/area/area\\_r\\_article.html?id=17](http://www.bangkoknavi.com/area/area_r_article.html?id=17))と言うホームページで、路線バスの記事を見て、今回は挑戦してみる事にしました。スワンナプーム国際空港に到着してまず入国審査を終えて機内預かりの手荷物を受け取って出た所が2階の到着ロビーで、バスターミナルは少し離れた場所にあるので、空港とバス乗り場と駐車場を巡るシャトルバスが有ると言う事だったが、それが何階から出ているのか判らなかったので、警備員風の制服を着た女の人に、へたくそな英語を駆使して聞いてみると、そのまま外へ出て見ると言うので、中央ぐらいの出口から出て右手を見ると大きな縦長の看板にSHUTTLE BUSと書いてあるのが目に付いて一安心したのです。

少し待つと横腹に<SHUTTLE BUS>と書いたバスが来た。それに乗って10分弱で大きな字で<BUS TERMINAL>と書いた建物に着いた。

私達は552番のバスに乗ればいいと調べて知っていたのだけど、思いがけず、バス乗り場にいた職員さんに「どこへ行くのか？」(と思う)



手荷物受取所



シャトルバス乗り場



バスターミナル

と聞かれたので、「オンヌット」と答えたら、待っているバスを指さして教えてくれた。それが<552>と大きく書いたバンコクナビで調べたのと同じバスだった。

バスが発車して暫くして出発するとき後ろの方で大きな声で何か叫んでいた(タイ語だったので意味が分からなかった)人が女の車掌さんで切符を切りに来た。料金は一律35B(3.2円で計算して112円)でした。

先程の「オンヌット」というのは、バンコク都内を走る高架鉄道B T Sの東方面の終点駅です。そこからB T Sで中心部のチットロム駅まで30B、そこからゲイソンプラザ側へ降りてその前の交差点を右へ折れてプラトゥーナムの方へ歩いて5分ほどでホテルへ着いた。ホテルまで65Bだった。メータータクシーで来ると300~400Bと高速料金が60B掛かるので、高速料金程で都内まで来られました。

ただ難点は、私達がバスに乗った時間が、夕方の帰宅ラッシュの始まる時間だったので、都内に入る手前から終点まで後少しになって、渋滞に掛かってなかなか着かなかった。到着時間によっては、このコースは料金も安く、時間もかなり早い様に思った。もう一つはB T Sに乗るのに高架鉄道と言うだけあって改札のあるフロアーが普通のビルの2~3階の高さにあって、大きい荷物をもって上がるにはとてもきついと思いました。駅によってはエスカレーターがあるところもあります。

### ホテルの選択

この旅行はロングステイの下見旅行なので、便利で動きやすい所に泊まりたいと思い、色々なホテルを斡旋するサイトの中で、一番安かったプレジジョンリザベーション(<http://www.precisionreservations.com/>)で、前日も泊まったサイアムの中心にあるホテルに全8泊の予約をした。

ここは町の中心にあるのに、ツイン1室朝食付きで950B弱と、とてもリーズナブルな値段で泊まれた。ホテルの中もとても清潔で、朝食

もバイキング形式で、パン、お粥、麺類と野菜やハムベーコン等を使った毎日少しずつ変わったメニューが出ていて飽きなかった。

### ペットの犬を連れて行く方法

私の家では、犬を飼っているのですが、当分は長期の滞在は無理では無いかと思っていました。この度バンコク支部長の村上さんに、何か良い知恵は無いものかとお聞きするつもりで会ったところ、「うちにも、日本から連れてきた犬が居るよ」と言われて、すぐに詳しい話をお聞きしました。

その犬は2匹居て、種類はミニチュアダックスで、お嬢さんがJALで日本から連れてこられたということでした。2匹居たので貨物室に乗って来たと言う事でした。小型犬ならゲージに入れて、客席に手荷物扱いで乗せられるそうです。貨物室はエアコンも効いてとてもいい環境のようです。

手続きとかに関しては書いたものを頂きましたので、興味のある方はken722@hotmail.co.jpまでメールして下さい。

### センセーブ運河ボート

バンコク都内中心部を貫く運河を走る公共バスのような路線ボートです。都内を歩くと時々目にする、特に朝などは運河をたくさんの人を乗せて行き来するボートです。

今までは、何処に行くのか判らないし、乗ってみようとも思いませんでした。今回、知り合いのタイ人の方に誘われて乗りました。

乗ったのは始発の、王宮に近い民主記念塔の近くのパーンファー・リラートと言う船着場で、





道路から少し階段を下りていくと船着場がある。そしてちょうど来た船に乗り込むとまもなく出発したそしてすぐにバスで言う車掌さんに当たる運賃係がやってきて運賃を集め切符を切ってくれる、運賃は8B～18Bと距離によるそうですが、外国人は18B均一の様です。船は町の中心部の、「ポーベー市場」のそばや「ジムトンブソンの家」のそばを通過して、プラトゥーナムの「伊勢丹デパート」のそばの船着場で乗り換えて（全部乗り換えの様です）ここまで約20分それから、ペップリー通り沿いにインターナショナルスクール・イスラムのモスク・有名ホテルを横目に見ながら約30分程乗っていると終点から3つ手前の「ザ・モール バンカピ」という巨大なショッピングモール横の船着場に着いた。

この船に乗るときの注意点は、

- 第1に乗る時に慌てずに船の屋根に張ってあるロープをしっかり掴んで足下をよく見て乗る。
- 第2は他の船とすれ違う時は、船の横に張ってあるビニールシートのひもを引っ張って上に上げないと臭い水しぶきが掛かってしまいます。
- 第3に橋の下を通るときに、水面からの高さが低い橋があってそこを通る時は、屋根が下がっ

てきますから頭に注意してください。

この船の良い所は、交通渋滞がないので目的地に早く着ける。運賃が一番高くても18B（約58円）とかなり安いところです。悪いところは路線の選択肢がない、運河の水が汚くてとても臭いところがある、大きい荷物があると乗れない所かと思います。

### サービス・アパート

中・短期に滞在するのにサービス・アパートが良さそうなので、見学に行ってみました。ガイドブックなどで調べて2,3カ所訪ねてみました。

部屋はベッドルームと小さなキッチン付きの居間のある所とか、2ベッドルームとDKがついて、後は朝食付きであったり、毎日ベッドメイキングをしてくれたり、アパートとホテルを一緒にしたような所です。

このサービス・アパートはセキュリティーがとても良くて、所によりますが、1日でも、1週間単位でも、1ヶ月単位でも、使えるのですが、値段が非常に高かったのです、後で聞いたのですが、見に行った所は、企業の現地駐在員や高級志向の方達用で、3万B/月～5万B/月などでとても私達の手の出るものではありませんでした。

安いところは、現地で南の会の会員さん等に聞いて、情報を仕入れて足で探す方が良いでしょう。

### 住むところ

バンコク最後の日に、支部長さんに現地の情報交換会に、呼んで頂いて話を聞く機会があったのですが、すむところは、1軒屋を借りると



小さなキッチン



居間



ベッドルーム

か、アパート、テラスハウス、サービス・アパート、と色々な選択肢がありました。

この中で1軒屋は、セキュリティーが心配ですが、村上さんの家を見せてもらったのですが、塀で囲まれた日本で言う団地のような所で、その中には10数軒の1軒屋があって、入り口にはガードマンの詰め所があり、1時間ごとに見回りをしている、と言うのを聞いて私のイメージがガラッと変わりました。

ペットを飼うなら、1軒屋かテラスハウスなら飼う事が出来るとも聞きました。我が家は今4才と8才の犬がいて、この犬を看取ってからでないと、ロングステイなど、無理な話だと思っていましたが、連れて行って、また連れて帰れる事を、聞いてロングステイと言う言葉がとても身近になりました。

バンコク在住の皆様、色々なアドバイス頂きましてありがとうございました。

## バギオ ダバオ旅行

九州支部 No.1026 若林 文夫・美津子



新年号が九州特集とのことで、光栄にも、新入りの私にも、原稿を出すようにとのご指示がありました。それで、18年10月1日から14日までのバギオとダバオへの旅について、ご報告させていただきます。前半の1週間は、バギオとパンガシナンで、斉木支部長に、後半は、ダバオで、小林さんにご面倒をおかけしました。おかげさまで、短期間とは思えないほど充実した旅となりました。

前半の一週間がどのようなものであったかは、帰国後、斉木さんにお送りしたお礼のメールが、その全てを代弁しておりますので、その手紙を再現し、バギオの旅のご報告とさせていただきます。

### 斉木様

この度は、一方ならないお世話になりました。あつくお礼申し上げます。帰りの機中では、家内と共に、ご親切の一つ一つを、思い出しております。

バギオの宿に初めて来てくださった時、沢山のお花をいただきました。あんなにしていたことは、家内にとって、初めてのことで、大変喜んでおりました。帰りのバスには、手作りのサンドイッチを差し入れていただき、美味しくいただきました。

あちこち、ご案内いただきましたが、バギオ大聖堂でのミサ風景など、忘れられません。海野シスターの偉業を記念する展望台では、虐げられた人々に仕える事の厳しさを教えてもらいました。また、ケノンロードの建設記念碑では、100年前の日本人を含む先人達の汗と涙の苦悩を偲びました。さらに、バギオの背後に見える山々を仰ぐとき、戦争末期、この深い山奥から、さらに北方のジャングルへと、絶望の逃避行を続けた日本軍の将兵、民間人の心境を想い、胸の詰まる思いでした。フィリピンを奪還すべく上陸してくる連合軍に対して、日本軍が多くの斬り込み突撃を敢行、玉砕したリングエン湾サンファビアンの海岸を案内していただき、そこに建立されている「鹿児島歩兵第71連隊」の慰霊碑をお守りされている経緯を聞かせていただきましたが、斉木さんの使命感に心を打たれました。

斉木さんご夫婦が、子供達に日本語を教えていらっしゃる地元の「ボラシ小学校」では、「幸せなら手をたたこう」を、子供達が歌って聞かせてくれました。日本では、いまや、あまり見かけなくなった子供達の、あどけない顔、キラキラ輝く瞳を見ることが出来ました。



お世話になった齊木さんの奥さんと  
エンジェルナオミちゃん

ご夫婦が、如何に、地域に溶け込み、心の交流を保ち、日比の掛け橋として、献身的な仕事をされているかを目の当たりにした時、少ない年金で日本にいるより、フィリピンに行けば、少しはましな生活が出来はしまいか。そのためには、少しは地元役に立つ事をしなければならぬ。それなら、いずれは、日本語のボランティア教師でもやってみようか。と言った程度の、甘い考えでフィリピンに来た自分を省みて、身が縮む思いでした。長期滞在のための下見旅行というよりは、齊木さんを通じて、いい人生勉強が出来た旅でした。

どれだけ書いてもご親切の全てにお礼を言い足りることはありません。

齊木さんご一家のご多幸をお祈り致します。

以下、旅の後半のダバオについてのご報告です。

ダバオでは、今度は、長期ご滞在中の小林さんに、大変お世話になってしまいました。到着した時は、夜、遅かったにももかわらず、小林さん始め会員の渡辺さん、平野さん、平澤さんがホテルのロビーで待っていてくださり、早速、和食のお店に連れて行っていただき、歓迎の夕食会を催していただきました。

翌日からは、早々に、かねて、小林さんをお願いしておりましたアパート見学を始めました。小林さんのお宅を始め、長期滞在をされているお知りあいの方、合計5人のお宅の見学をし、それぞれの方々の生活ぶりを、つぶさに拝見し

ました。その際、家賃を始め、一部は光熱費その他の諸経費も含めて、ダバオでの生活固定経費について、具体的にお話を聞くことが出来ましたので、後半のダバオについては、アパート事情のご報告とさせていただきます。(数字は18年9月現在で、1ペソ2.5円で計算です。)

#### 1) KOさん宅

日本の2LDKに相当 車庫あり

|          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 家賃(家具つき) | 11,500ペソ | (28,750円) |
| 電気       | 224ペソ    | (560円)    |
| ガス(プロパン) | 170ペソ    | (425円)    |
| 水道       | 158ペソ    | (395円)    |
| 電話       | 449ペソ    | (1,123円)  |
| ケーブルテレビ  | 650ペソ    | (1,625円)  |
| プロバイダー   | 599ペソ    | (1,500円)  |
| 1ヶ月合計    | 13,750ペソ | (34,378円) |

#### 2) HAさん宅

日本の2LDKに相当

|          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 家賃(家具なし) | 8,000ペソ  | (20,000円) |
| 電気       | 650ペソ    | (1,625円)  |
| ガス       | 184ペソ    | (460円)    |
| 水道       | 180ペソ    | (450円)    |
| 電話       | 100ペソ    | (250円)    |
| ケーブルテレビ  | 650ペソ    | (1,625円)  |
| プロバイダー   | 599ペソ    | (1,500円)  |
| 1ヶ月合計    | 10,363ペソ | (25,910円) |

家具購入代 約9万ペソ(約22.5万円)

ガスは、3ヶ月に1本、プロパンを購入。

1本につき550ペソ(1,350円)、上記はこれの1/3で計算。

電話は携帯で、1ヶ月当たり100ペソのカード1枚(250円)を消費。通常の連絡は、主にスカイプとのことでした。

#### 3) TSUさん宅

日本のワンルームに相当。

|                   |         |           |
|-------------------|---------|-----------|
| 家賃(家具なし)          | 4,000ペソ | (10,000円) |
| 台所、トイレ/シャワー/洗濯場付き |         |           |

光熱費などは詳細不明なるも、おおよそ月5,000円以内。家具は別途購入

#### 4) KAさん宅

日本の2LDKに相当

|    |         |           |
|----|---------|-----------|
| 家賃 | 8,000ペソ | (20,000円) |
|----|---------|-----------|

家具は別途購入、光熱費など詳細不明



K Aさんのアパートの外観

### 5) HIさん宅

日本の3LDKに相当

家賃 5,000ペソ (12,500円)

光熱費込み。大家さんの娘さんが住む家で共同生活中。



HIさんのアパートのベッドルーム

### 6) TUさん宅

8畳くらいの部屋 トイレ/シャワー

別にベッドルーム一つ 眺望抜群な

バルコニーつき 台所は共同

家賃 (家具付き2ヵ月契約で1ヶ月あたり)

US\$200 (約24,000円)

光熱費、ケーブルテレビ、プロバイダーその他一切込み

(これは、小林さんのお知り合いのトルコ人夫婦の例で、後日情報ご提供いただいたもの。)

小林さんのおかげで、ダバオに長期滞在されている方々が住んでいらっしゃるアパートでの最低必要の費用がわかり、大いに参考になりました。家賃、光熱費その他の固定費のほかに、食費、日用品、買い物のための交通費、その他雑費などとして、1日ざっと、300ペソ~400ペソ (750円~1,000円) と計算、1ヶ月合計3

~4万円くらい、締めて1ヶ月7万円前後で、住んで、食べて、寝る、という基本的な部分は賄えるようで、私には、大変有難いところでした。

同行して、お世話くださいました小林さんに重ねて感謝申し上げ、ダバオのご報告を終わります。

## 長崎街道を歩いて

九州支部 No.758 白井 征勝



会報、メール等を見ていると、当然のことですが海外旅行ばかりで国内旅行に関する記事は殆ど見当たりません。しかし大抵の人は日本を生活の基盤にしています。私自身も毎年何回か海外旅行に出掛けますが、殆どを日本で過ごしています。国内にもあまり知られていなくて良い所が沢山在るのではないのでしょうか。

11月の九州支部のサロン会で長崎街道を一人で歩いてきた事を話すと、思いの外興味を示す方々が居られて是非「長崎街道」について投稿してほしいと依頼を受けました。当会の趣旨とは異なるかも知れませんが何かの参考にもなればと思います。

最近、街道に関する報道を目にしますが、五街道か四国八十八ヶ所巡りが多いようです。暇に任せて四国八十八ヶ所を歩いて廻ることを検討していましたが、1,200kmの距離と50日~60日近くかかる事を考えるとなかなか踏ん切りが付きませんでした。

しかし九州にも唐津街道、薩摩街道等ローカルですが沢山の街道があります。中でも長崎街道は江戸時代に整備された街道であり、鎖国下で幕府が外国との交易のために開かれた北九州の小倉から長崎に通じる九州における唯一の幕

府直轄の街道でした。小倉から長崎迄は57里（224 km）、25箇所の宿場があります。今まで長距離を歩いたことがないので四国遍路の前に試験的に歩くには適当と考え、実行することにしました。

まず初めて長距離を歩く為、天候が安定している事 30 km / 日程度とする（7泊8日）

日々の歩行距離が分からないので宿泊場所は事前に決めない 荷物は着替え2回分と洗面用具、雨合羽のみとする 靴は普段履きなれた運動靴とする、等の簡単な計画を立てました。

予報によると10月下旬から11月初旬にかけて天候が安定している様なので、前もって購入した「長崎街道の現在の道路に旧道を記入した地図」を頼りに10月26日に小倉を出発した。

北九州市内は当時に比べて廃道になったり道路が新設されたりして、市街地を抜けるまで予想以上に時間を要し、一日目は黒崎宿、木屋瀬宿、を経て飯塚宿迄の予定が木屋瀬宿と飯塚宿の中間地点の直方市まで。駅前にはホテルらしきものが見当たらず、交番で旅館を紹介してもらい何とか宿泊することが出来た。

二日目は遠賀川沿いに飯塚宿を通り、長崎街道最大の難所である冷水峠を越え山家までの予定が、冷水峠の手前にあるドライブインで道路の様子を聞くと、冷水峠を越えてもそれから先に宿泊施設は無いとの事。近くにはモーターしかなく仕方なくモーター泊。

三日目は内野宿から冷水峠（江戸時代に長崎から将軍に献上の象がこのように急な峠を通ったとは信じられない狭くて急な坂道）、山家宿、原田宿、田代宿を過ぎ鳥栖市着。天皇陛下が佐賀市に来て、関係者が泊まりきれないので鳥栖市で宿泊して全て満室との事。何とか工事関係者が宿泊する旅館を見つけて宿泊。

四日から七日まで佐賀県と長崎県境の俵坂峠以外は平坦地を順調に歩き、八日目は最後の難関である日見峠を経て、予定通り無事長崎に到着した。

長崎街道の旧道を朝8時から夕方5時まで（日没までに宿泊先を見つけなければならない）

足にマメをつくりながら、全区間を寄り道することも無くひたすら歩きました。好天には恵まれたが、各地で宿泊地を探すのには非常に苦労した。田舎での長距離の徒歩旅行は先ず事前にルート上で宿泊できる場所を調査して日程を組まなければ、疲れと心配でせっかくの旅行が楽しくなくなる。普段のようにマイカーや公共交通機関を利用するなら何処でも宿泊することが出来ます。しかし徒歩の場合は天候不順、日没等で歩けなくなるとどうしようもなくなることを痛感しながら、四国八十八ヶ所巡りを検討中です。

### 前支部長・稲延さんを偲んで

九州支部 No.30 竹村 毅俊

稲延さん、いや酋長と呼ばせてください。このニックネームはフィリピンでヒゲを伸ばし悠然とハンモックでくつろぐあなたを見て私がつけた愛称でした。

これを聞いたとき酋長、あなたは、ちょっと照れくさそうな様子をみせていましたが、最後には、このニックネームをとっても気にいってくれましたね。

そんな酋長に初めて会ったのは、もう八年くらい前になります。



筆者 竹村 毅俊氏



稲延 豁氏

私たちが所属しているNPO法人「南国暮らしの会」という定年後には、これまでのしがらみを一切振り捨てて、タイやマレーシアやフィリピンなどの南の国で楽しく過ごそうという会の定期総会の席でした。

酋長はこの時の入会の挨拶のなかで、当時の八幡製鉄所、今の新日鉄でずっと働いてきたこと、仕事の合間に製鉄所内の同人雑誌で小説などを書いてきたこと、そして少年兵として戦場に赴き、戦後捕虜としてモンゴルに抑留されたことなどを、熱っぽく話してくれましたね。

私は、“酋長はこれまで苦勞をしてきたんだから、これからは南の国で楽しく遊びましょう”とフィリピン、ハワイなど一緒に何度も行きましたね。体力と水泳に自信があった酋長はフィリピンの海の沖合いまで泳いで、私をずいぶん心配させものです。

外国に出かけて英語の必要性が身に沁みたと、酋長は直ぐに、ニュージーランド一人で英語の勉強に出掛けましたね。その時の楽しかった想い出話しを肴に、よく酒を酌み交わしたことを今思い出しています。その後酋長はもっと英語を勉強するんだと今度も一人でマルタ島の英語研修のホームステイに行きましたね。

帰国後四人で行ったハワイで、酋長は見事に英語研修の成果を見せてくれました。路線バスを使ってのオアフ島観光の途中、同行の酋長の友人がバス停にハンドバックを忘れてきたと、次のバス停で慌てて降りたあと、酋長は運転手に向かって、“自分たちは今オアフ島一周の観光旅行をしているのだが、彼女がハンドバックを忘れたので、自分たち三人も降りて再度出かけるつもりだ”と、懸命に英語で説明しました。運転手は、それならと、再度乗れる切符を4枚くれましたね。英語研修の成果が見事に生かされた場面でした。私たちの“酋長は凄い”と言う言葉に、顔中をくしゃくしゃにして喜んだ酋長が忘れられません。

私より四歳も年上にも拘らず、このように精力的に行動する酋長をみて、当時支部長として会の発展のために努力していたにも拘らず、ちっとも会が大きくなりなことに悩んでいた私は、この人以外にこの九州支部を発展させてくれる人はいないと思い、九州支部長になって欲しいと繰り返し口説いて引き受けてもらいました。

支部長に就任して、直ぐに酋長はこれまでのやり方では、会は大きくなりなないと、新聞など可能なかぎりのマスコミを動員しながら、福岡市の中央市民センターの大きな会場での支部総会を成功させました。熊本での「ロングステイセミナー」にも全力で取り組みましたね。

また、支部長がインターネットも出来ないようでは恥ずかしいと、ある日突然パソコンを買ってきて練習を始め、間もなく大きな字で支部長発のメールをどんどん流しましたね。年を感じさせない酋長の大活躍のお陰で会員は大きく増え、本部も驚くほど、九州支部は活気に満ちてきました。

現在九州支部は43名に増えました。入院中で残念ながら酋長が来られなかった去年十一月の情報交換会は37名もの人で、これも酋長が探してきた福岡NPOセンターの会議室が一杯になりましたよ。



**有難う酋長！！** あなたが、最後の人生をかけて拡大に努力してくれた「南の会・九州支部」はこんなにも大きくなりました。

葬儀には最後の情熱を傾けて、「南の会」の拡大のために全力投球した酋長に、最後の別れがしたいと、遠く熊本からの朝永夫妻を含め11人の九州支部の仲間が来てくれました。

霊前に九州支部総会で挨拶する酋長、フィリピンで楽しく遊ぶ酋長の写真と、そして訃報を聞いてタイ・マレーシア・フィリピンはじめ世界の、そして全国の支部長などから続々と寄せられた酋長の突然の死を残念がるメールを捧げて感謝の気持ちを伝えます。

**“病気が良くなったら、また一緒に旅に出よう”**  
酋長は見舞いに行ったわたしに、何度も何度も

言いましたね。私にとって定年後で最も話が合い、楽しく話せる先輩としての酋長に、もう会えないかと思うと悔しくてたまりません。どうぞ天国から私たちの活動を見守ってください。さようなら酋長、私はあなたを決して忘れません。安らかに眠りください。

(二代目九州支部長・稲延 裕様は平成18年1月12日ご逝去されました。)

### 南の会の皆様へ

11月22日 稲延 マサヨ



運命と言うものでしょうか？夫・稲延 裕が11月12日に永眠いたしました。胃癌でした。

生まれて初めての病でしたのに、気付いた時にはすでに手遅れになっていました。ドクターのお話によると、一番見つけ難く、自覚症状の出にくい所に発症した癌だったようです。

検査をいろいろと行っているうちに、どうしようも出来ないことが判って来て、主人も私も悔しさや病気に気が付かなかった恥ずかしさにとても悩みました。主人は、悪い事などした事もないのに最後のつけが大きすぎると連発しておりました。主人にとっては事故の様なものです。

主人の人生、若い時からいつも何かに積極的に挑戦し、全力を注ぐタイプでした。

70歳代になって興味を持ったのが“南国暮らしの会”です。フィリピンの竹内様を知り、九州の竹村様を知り良き友となっていていただいて最初の形とは少し違ってきましたが、魅力ある会にするにはどのようにしたらよいか？また、会員を増やさなければ活動ができない

といつも竹村様と話し合いながら8年間頑張って参りました。九州支部の方々とはロングステイ、旅行、サロン会と楽しんで参りました。まだまだたくさんのやりたい事や行きたい所があったかと思えます。

今日は11月22日、良い夫婦の日。ふっと私達夫婦はどうだったのかしら？と考えます。たまにはケンカもしましたが、70代に入ってからはお互い自由に生きて、一緒に旅行もしましたし、私自身主人の理解の基にいろいろな旅をさせてもらいました。今は、お父さん有難うという感謝の気持ちでいっぱいです。

約五ヶ月間の闘病生活の中で、最期は本当に安らかな気持ちになり、死は怖くないよ、人生良い事・悪い事もあったけれど、とても楽しかった（特に南の会は）と申しておりました。お父さん、ちょっと早い天国だねと言いたいです。

また最後に、会葬には南の会の皆様の御参列・弔電・メールをいただきとても感謝しております。また、竹村様の心温まる弔辞を賜り、とても嬉しくて涙がでて参りました。感謝・感謝の気持ちでいっぱいです。

亡き主人に成り代わりまして、南の会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

### バラとの切ない別れ

九州支部 No.1132 菊池 勲雄



我が家の庭は、白樺、コニファー等の木々と共に、バラ（イングリッシュローズ、ハイブリッドティー、フロリバンダ、ミニ、つるバラ）が百株余り。5月のバラのシーズンには白樺の、新緑に囲まれ、それらが一斉に咲き誇り、迎り

一面にバラの甘い香りが漂い、特に、私達夫婦のお気に入り、10m余りのバラのトンネルには、(ブルーランブラー、ヒマラヤムスク) つるバラの散り際ともなると、バラ吹雪、足下に目をやると、まるで、5月に雪? それはそれは、見事で、甘く、切なく、なんとも云いようのない夢の世界へと誘ってくれます。この時期にはバラ愛好家が多く訪れ、バラ談義に花が咲く日々です。

その楽しいバラ作りも、私は(ヘルニア、坐骨神経痛) 妻は(膠原病)になり、その上、大阪より、九州に来て、二人共花粉症に罹り、冬、春の間は、日本から逃れたいと思い、これ以上、二人で築き上げたローズガーデンも、維持、管理が難しくなり、昨年10月に50株程手放し、今春は少し寂しいガーデンになりそうです。

25年程前から、アメリカ(東、西海岸、グアム、そして妹が住んでいるハワイ)、ヨーロッパ、オーストラリア、ビルマ(ミャンマー)、インド、バンコク、マレーシア(クアラルンプール、キャメロン、ボルネオのクチン、コタキナバル)等を回りましたが、ロングステイするには、年金生活者にとって物価、飛行時間など考える上で、バランスの良い、そして日本人に対してフレンドリーな国、マレーシア、タイが、暮らしやすいのではと思っているところです。

昨年、2ヶ月間、ボルネオの、クチンからコタキナバルへ下見に行きました。その中で特に印象に残ったのは、

コタキナバルから車で1時間30分位の、東南アジアで、一番高い、キナバル山(4053m)で火山岩の山の稜線は、SF映画に出てきそうな圧倒される景観です。ここはクダサンと言う標高1500m山麓の町です。

州道路に面して登山口入り口の公園事務所があり、高原リゾートホテルが10数件散在している。

南国であるが、涼しく、雄大なキナバル山を見ながらのゴルフは最高であると思う。

コタキナバルーサンダカンの州道路はボルネオの主要幹線で、旧日本軍が60数年前にサンダカンに上陸した時にジャングルを切り開いたもので起伏が激しく、よくぞ整備したものだと感じました。今ではボルネオの大動脈で日本人に対してとても感謝しています。

(参考)コタキナバル~クダサン(バス1時間30分位)、1RM×30円で計算  
東馬急行バス(10RM)300円  
タクシー(100RM)3,000円

クダサンから20分位下がった所に、ラナウの町がある。前マレーシア首相、マハティール氏の友人で、オスマン氏(教育者)の山荘が在り、敷地は2万坪、小川や野生のドリアン等、熱帯フルーツが豊富で、小川のせせらぎを聞きながらバルコニーでの食事はゆったりして、最高に幸せな時の流れです。

最近、日本人ロングステイヤーが増え部屋数がすくないので、バルコニー前の小川に橋を架け、森の中に12室を建築中であつた。この環境が気に入ってドイツ人の女性が敷地の中の一戸建てに数年前より居住しています。

近くに日本企業が作った、ラナウゴルフ場があり、今は地元の経営で、キャディー、スタッフは非常に評判が良い。

(参考)オスマン氏の山荘 1泊ツイン・ダブル70~80RM(2,100~2,400円)  
ラナウゴルフ場 プレイ代(30RM)、キャディー(20RM)、保険料(10RM)の合計60RM(1,800円)。オスマン氏の紹介でプレイ代が半額になる。

コタキナバルは東西に3本の道路が在り北に南シナ海、南にキナバル山などの山々、町は歩いて東~西で1時間位。食事は、中華、イタリアン、海鮮料理、プロムナードホテルの隣にある「海王城」のシーフードは安くて美味しいです。なりよりも少し足を伸ばせば、島巡り、登山、安いゴルフ場等、魅力一杯です。

最後の20日間は、少し贅沢な、リゾートホ

テル、ステラハーバに宿泊しました。

ステラは2つのホテルが合併したスケールの大きな、リゾートでホテル前は、27ホールゴルフ場、裏は南シナ海で 島巡りの船はこの、ヨットハーバから出港しています。私達の部屋は11階のシービューで朝食、夕食が特別サロンでいただき、南シナ海の島々に落ちるサンセットを毎日、見ながら、ビール、ワインを飲み至福の日々でした。実は、このホテルに決めたのはビール、ワイン、カクテルが飲み放題、何よりの魅力で再度 宿泊したいホテルです。

(参考)ステラハーバ 1泊ツイン(368RM)  
11,040円、 2007年より2割アップする  
そうです。島巡りは(40RM)1,200円

ステラはプール4ヶ所、レストラン6ヶ所、ボーリング、テニスコート、ジム、スパ等あり子供連れでも楽しめそうです。島巡りの海水浴は魚が子供の足に寄って来て・・・

最近アジアを拠点に色々な国の異文化、そして地元の人達との触れ合いを楽しみつつ、歳を重ねて行けたらと、思っている次第です。

今冬は、クアランプール、初めてのチェンマイに、3ヶ月間ロングステイする予定。花の都、チェンマイの花博などで南国特有の珍しい花達に出合える日を楽しみにしています。

(編集：寄稿されたバラの写真は裏表紙の投稿写真コーナーに掲載しております)

## ロングステイと蕎麦打ち

九州支部 No.652 深松 幸康

三年前早期退職した折、家内に勧められ入会したのが「南国暮らしの会」と「福岡そばの会」でした。ロングステイ下見旅行と蕎麦打ちを同時進行で取り組み二つの趣味を何とかリンクさせて第二の人生を楽しもうと試みました。

ロングステイ計画は残念ながら下見旅行だけで未だ実現していません。蕎麦打ちには福岡そばの会(会員数約100名)に所属して毎月3~4回蕎麦打ち教室や道場での指導やお手伝いをしています。また、お祭りなどのイベント参加や



障害者施設や老人ホーム、小学生を対象としたボランティア活動などでも蕎麦打ちを楽しんでいます。

過去、ペナン、バリ島、マニラ、バギオ(うどん)にて材料(蕎麦粉、自家製ザルだし)と道具(麺棒、こま板、包丁)を持参し蕎麦打ちを試みました。現地では打ちたての蕎麦を食べる機会が得られないこともあり、お世話になった現地在住会員の皆様にとっても喜んでいただきました。この事が更なる蕎麦打ちのレベルアップへの励みにもなりました。

今年九州支部の企画の一つに蕎麦打ち体験、試食会を取り上げていただき6月、10月の2回にわたり開催し参加された皆様には喜んでいただけたようです。これからも蕎麦打ちにはもっとのめり込みそうですし、ロングステイもしくは下見旅行先で蕎麦打ちの機会があれば、是非とも現地の人たちに日本独自の蕎麦切り麺文化(食文化)を紹介出来たらと思っています。そのためにも蕎麦を打つだけでなく、蕎麦にまつわる歴史や文化について多少は講釈できるよう知識も必要かなと感じております。



# 人との出会い、絆の大切さフィリピン

関東支部 No.149 梶野 幸三

人生は人との出会いから始まり、別れで終わる。この世で生を受け、最初の感動的な出会いは母との出会いであり、そして父、兄弟姉妹、親族、近隣の人達、児童、遊びの仲間、学友、先輩、先生、諸々の人達との出会いがある。社会人となり、会社、同業、他業者関連の人達、趣味、同好、ボランティア、医療、介護福祉関係、地域近隣の人達、海外の人達との出会いがある。

云うまでもなく、恋人、伴侶、その身内、親族との出会いは特別のものです。別れも色々ある。最終的な悲しいお別れは今際の別れ、人生最後の別れです。これは誰もが避けて通れないものです。人との出会いは善しき悪しきにつけ、人に大きな影響を与えるものである。

「朱に交われれば赤くなる」「類は類を呼ぶ」

その人の人生をも変えてしまう事もある。加齢と共に色々な人との出会いの中で 私にとって外国の人達との色々な出会いが私の視野を広め、新しい自己の扉を開け、間口を広げて呉れた。自己研鑽、自己革新、活性化に良い影響を与えて呉れた。人生観を変え、新たなる人生観を生み出してくれた。

「井の中の蛙大海を知らず」

この出会いはお金で買えない私の貴重な財産になっています。感謝しています。

... 海外での人との良き出会い ...

## 1) パンガラップシェルターの子供達との出会い '94

パンガラップシェルターはメトロマニラのサイ市にあるストリートチルドレンを保護し、衣食住の提供、教育、自立支援をしている民間施設です。(100人の子供達)

シアソン駐日大使(前外務大臣)夫人とのご縁でこの施設を知り、私達日本人が初めて子供達の教育支援の為のボランティアグループを立

ち上げた。

教育支援の里親と里子、スタッフとの交流が現在12年間も続いている。



与えるより、与えられる事の方が多し事を知りました。物質的に貧しくても心の豊かさは日本の比ではありません。

(つぶらな瞳と黄金の笑顔)

過酷な環境下のストリートチルドレンからシェルターの子供として生活。

多くの日本の若者を連れ、訪問。彼らは

貴重な体験を自分の身体を通し体験学習していききました。

日本での自分の境遇を現実に比較出来、学んでいった様です。此処には陰湿ないじめはないよ。

(熊本の人吉ネブカ和太鼓グループ)



## 悲しい別れ

2人の里子の訃報を受け、我が子を失った気持ちで涙を抑える事が出来なかった。この子の墓参りでカルチャーショック。子供の墓迄は他の墓の上を歩いて行かなければ辿りつけない。墓の前はゴミが積み重なり、墓標もなし、隣の

墓の前は頭蓋骨が野晒しの状況。お金が払われなければ、墓から出されるそうだ。フィリピンは土葬です。首都マニラの遣り切れない、切ない現実を体験しました。

## 2.)ネグロス島バコロド市の人達との出会い

「人の輪は広がる」「人の絆は強よし」

13年来の付き合い、フィリピン大使館観光省広報官グレースの郷里の関係でグループ訪問。バコロドの人達との出会いが始まる。

(バコロド市はネグロス島最大の町、経済、文化、砂糖産業の中心地、人口37万人。グレース曰く、フィリピンでは一番、人がいい人種。確かに素朴な人達が多く、人懐こい。最近この街にも近代文化の波が浸透して来ている)

レオナルディア市長(前俳優)が初めて、市長に当選(現2期目)した時からの付き合いで、訪問時には、我々には特別、有難い便宜を計らって呉れている。人の縁でこの市にバス3台、自転車300台の無償提供、保育園2ツ建設提供等 社会貢献している。

この市長の選挙運動の応援に、当時副大統領のエストラダ(後に大統領、今は...)が来ていた。同じホテルだったので、ロビーで一緒に写真を撮る事をお願いしたら、気楽に応じて呉れた。(シェルターの子供を連れていたので彼の為に)

平和呆けた親父がノコノコと一国の副大統領の所に近づいて行った無鉄砲。厚顔無恥。階上からは何人かの兵士がカービン銃を持って監視していた事を後で知り、ゾーツとした。しかしこの写真は子供にとっては貴重な宝もの、自分には意外な所で役立つ優れものになった。

今回、日比国交樹立50周年記念、友好の年として 市長、観光省の広報官からバコロド市のマスカラフェステバル(リオのカーニバルを彷彿させる祭り)に招待の声掛けされた。埼玉から女性の踊りのグループ30人、私達の有志13名が参加した。

このお祭りは有名で毎年10月の第3週に開催

され、多くの外国人、他地域のフィリピン人の観光客が訪れる。



暑い日中に多様な仮面とカラフルな衣装を身につけ、ビートの効いた音楽、エネルギー情熱的な踊りでメインロードを練り歩く集団は圧巻である。踊り子の中には熱中症で倒れ、担架で運ばれる姿は胸を打つ。

最後はメイン広場で30チームが長期間に亘って練習して来た成果を披露、コンテストに望む。市長の配慮で、空港からホテル迄の送り迎え、2日間の運転手付配車、コンテスト会場の特別席での観覧、ホテルの手配 等々の有難い厚遇を受けた。

我々グループは日本人のフロートでパレードの先頭の光栄を受け、日本をPR、地元で日本の好印象のお土産を残す事が出来た。

埼玉の踊りグループも広場で自己オリジナルの日本の踊りを披露。30度の暑さの中 最長者は80才2人、50~60代の熟女(失礼)の人達の姿は、多くの人達に感動を与えた。

この若さ溢れる人達は 良き思い出、感動を胸に又来年も来たいと云って... 帰国しました。此処で又新しい人達との良い出会いがあり。

知人がホームレスの住宅建設資金として50万寄付した。(気前がいいナ)又フィリピンで、別の世界の人との新しい出会いが生まれ、これが縁で、今後フィリピンでのゲートボールの普及に関わる事になる。これ迄 私はゲートボールのルールもプレーもした事もない。

ゲートボールを介して、現地の人との新しい交流が広まっていければ良い。夢は膨らむ。老いてはいられない。時間がいくらあっても足りない。

バコロド市で身体障害者にゲートボールを教えに来ている場に急遽 参加。

障害者の嬉しそうに真剣にプレーしている姿に感動。お互いを思いやる、助け合う姿は美しい。傍で見ていて清々しく 嬉しくなってくる。

第1回日比友好ゲートボール会・セブ島が12/4に行われる事になり、同行を依頼され、急遽セブに行く事になる。

日本から19人フィリピンから28人が参加し、大会がマンダウエ市で開催された。



市長の挨拶の要旨「年寄りができるスポーツをこの地で教えて頂き、このスポーツを通じてフィリピンと日本との友好交流がなされる事は大変有難く、感謝致します。このような形の交流は初めてであり、今後も継続していきたい。日本人の長寿の秘訣を教えて行って欲しい」



日本の徳島から来たチ-ムが優勝し、フィリピン観光大臣杯を授与された。日本人1人、病気の為不参加。急遽、私がかかり出され、30度の日中、熱さの汗と冷や汗でプレー。2試合連続出場には参った。

でも貴重な体験であり、いい交流であり、いい汗であった。いい人との出会いであった。

夜 親睦ディナー。地元の暖かい歓迎は心温まるもの、感激ものであった。此処でも新しい出会いがある。プレゼント交換したフィリピンノとゲートボールの地域役員をしている実力者。彼との間で今度は セブ市でゲートボールを通

じ、親善、友好交流の実現しようと話が弾んだ。日本のGood impressionの種蒔き、友好親善に少しでも何らかの形で役に立つ事が出来たらと思っています。

退役軍人にゲートボール普及をと云う話も出ているが、何処まで実現に漕ぎつけられるか分からないが、夢としても楽しみな事である。これが実現すれば、もっともっとフィリピンとの親善、友好、友情の輪が広がる。

日本でシルバー施設を40程、経営している息子さんとの奇遇な出会いあり。

...彼曰く「日本がフィリピンから看護婦、介護福祉士の受け入れる事になったので、自分の関連施設に出来るだけ多くの人を受け入れられる様にしたい」...

日本の受け皿があっても、問題は法的制約の人数の枠があるから、先ずはその中に入れるかどうかだ。この関門が突破出来れば、フィリピンから人材供給出来るルートはあるのだが...

日本サイドでまだ多々の不確定要素がある。将来はもっと門戸開放される分野であり、この分野でのパイプも太くなっていく事は確実であろう。

古希を迎え、まだ生かされている事に感謝したい。健康第一に...

人様に迷惑掛けずに... 最終の棲家を決め、余生はゆっくり、のんびり、自分のしたい事をやり、良い人との出会いを楽しんでいきたい。そして 自分で出来る事で何か少しでも多く、世の中にお返し出来たら...と思っています。

「因果応報」「一切唯心造... 清も濁も全ては心が作り出すもの」

# ハワイの楽しい生活

関東支部 No.1106 中牟田 登

2006年8月孫娘の入学祝いを兼ねて東京成田から6 - 7時間でホノルル空港に到着した。これから始まるハワイの生活に特別な感動はない、日本語があちこちで通じるせいかも・・・。2日遅れて孫と娘がやって来たのでホテルで落ち合う

我らのコンドミニアムはワイキキの海の見える所が夢だったので値段は多少高くても朝起きて19階のベランダから海が見える ILIKAI のオーシャンビューを選んだ。

まずは起き抜けにビーチを裸足で散歩する。裸足で歩けば健康に良いと医者が云って居た。

同じ時間に散歩するので同じ人と出逢う、大きな声で ”おはよう御座います” ”モ - ニング” と声を掛け合う、とに角空気が美味しくて毎日早起きしたくなる、トシのせいかもね・・・。気が向けば少し海に入り泳いでみる、プールとは違って波は多少あるので無理は禁物・・・。

8時頃部屋に戻れば妻もやっと起きる頃、海を見ながらベランダで朝食をとる

妻は孫との短いながらのハワイ生活が出来るとあれこれ楽しんで居りました。ところがである、翌日から熱を出して診療所へ、病院へと深夜まで点滴をしたりして遊ぶどころでは無く看病やら、お粥の炊き出しやらで楽しみはお預けとなってしまった。結局熱が下がらず、帰国の際飛行機に乗れるかどうか心配でドクターの証明書を貰い、やっとの事で飛行機に乗る事が出来た次第でした。

それでもホノルル空港では車椅子が用意され親子3人でVIP待遇だったと、また飛行機も満員だったのでファーストクラスに乗せられ、保険では一部負担してくれたが、殆どは自費で

あった由、親子揃っての泣き笑いの旅だった様でした。

一方我々夫婦のホノルルでの生活はと云えば週3 - 4回午前中ゲートボールやグランドゴルフをハワイ在住の2世、3世達と英語、日本語チャンポンで楽しみながら、それでも時間が沢山余り、毎日同じ店に顔を出しては冷やかす。韓国人が多い、日本人とも良く話しするが顔は日本人でも何となくしっくりこないと思いきやハワイ生まれの3世であったりして・・・。地元の人ともよく話す訳ですがハワイ英語で分かりにくい・・・水はウォーターではなく ”ウォーター” と発音します。

ここで失敗談を一つ、この年3月に妻の友人と3人でハワイへ行った時、 ”エッグス シングス” とか云う日本の雑誌にも紹介されてるお店ですが、勘定を払う際、支払ってお釣りを貰おうとしたら、お金は未だだと言い出して、しばらく押し問答の末二重払いを余儀なくされた次第です。原因は1回目を支払った直後、仲間の一人がトイレはどこだと聞いたので、そのキャッシャーは一旦お金をマシンの中に入れてしまって、それを忘れ貰ってないと言い張る次第。40ドル位で大した金額ではないが、生まれて初めての失敗でした、確かフィリピン系の若い娘でした。

ハワイは何でも高いと云う印象がありますが、やり方次第で安く上げる方法はある様です。

先ず時期は11月です、客が少ないそうです、実際8月のコンドは最高に高くその半分位と云う。これは一ヶ月位の短期の場合ですが年単位で借りますと月2000ドル以下、1000ドル近くで現地の人達はアパートなど借りて居る

と云います。

次に食事ですが、食堂は兎にかく量が多い、半分で充分です、我々は一人分買い2人でシェアします。ワイキキのインターナショナルマーケットプレイスの中にあるテイクアウト可能な食堂では中華、韓国、ベトナムなどの料理がありますが、みな安くて美味しい、7 - 8ドル程度で特に韓国料理のカルビ定食が最高でした・・・。チップ、サービス料なしで安上がりです、たまにはスーパー辺りで好きな材料を買って来て料理し好きなものを食べるのもよし、一般的には現地食材は日本よりも相当安く、日本食材は2倍以上も高い様に思われます。

交通費は市営の " The Bus " を利用すれば、我々シニア族 ( 65才以上 ) は2ヶ月目からは月5ドルで乗り放題です、無論最初の月は Middle St . へ行きパスポート持参で写真を撮り30ドル?取られますが。

難点は日本人の遊び相手が少ないと云う事で妻はチェンマイを選びますが、私は日本の時間に合わせ株のデイトレーダーをやります、現地時間の14:00から20:00まで時間をつぶせますので午前中涼しい時間を利用してゴルフなどの屋外スポーツを楽しみます。

私の構想としては、今後はみんなで安いコンドやアパートを捜し、ハワイの美味しい水と空気と環境はハワイのどこに居ても同じで最高ですから、南国暮しの会の皆さんと共に一緒になってハワイの楽しい生活を楽しみたいと思います。お互いの住まいで料理を持ち寄ったりしてハワイの生活を楽しみましょう。

新年2007年一月末頃にはハワイ在住の方達と多分10組位でハワイ4島めぐりのクルージングをやる事に成りそうで、これはハワイ在住のゲートボール仲間中心の特に奥様達の間で評判が良い船旅です。沢山おしゃべりが出来て、7日間まったく料理を作る必要が無くて奥様方

には天国との事・・・。

次に現地では東洋のミニハワイと呼ばれるフィリピンの " スービック " へ行き探検して参りました・・・。

まずはマニラ空港に到着し、イミグレーションまではまずまずでしたがBaggageの所で4 - 50分待たされる。車は予め周到に用意されていたので問題なし、問題はマニラ市内の交通渋滞で一時間掛りやっと脱出し高速一時間、合計3 . 5時間でやっとスービック ベイに到着、空港と渋滞でとに角疲れたぁーと云う一日でした。

トロピカル パラダイス ビレッジと云う所は旧アメリカ海軍の将校宿舍跡を利用した広い平屋建の家で最高でした。近所には野生のサルが沢山、猫も沢山、小鳥やカラスも共に自然に同居してる様な感じもするが、ビーチは小さくて歩いては行けない所、自然派にとっては最高ですが、未だ改良の余地ありと云った処でしょうか・・・。

生活の値段もフィリピンの中のアメリカと思われるだけあって、ハワイよりも安い、チェンマイなどよりもずっと高い。

ビレッジの中心にオフィス兼コミュニティセンターがあり06:00より22:00まで看護士が交代で勤務に当りシニアに対して安心を売りものにしたい様です。

問題点は交通機関で、若し次回行くなら、マニラを避けて香港より直行便でスービックへ行く方法ならどうだろうか。スービックベイ内は安全だが外は不安ゆえ、スーパーなどの出店と日本人がもっと沢山ステイする様になれば、そして値段も安くなれば我々の老後にとっても最高かなぁーと思いつつ・・・ペンを置きます。

# マレーシア建国50年・日馬友好50周年 記念コンサート

ペナン支部 No.263 加藤 進

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
温暖な気候と異文化の心地よさを求め2000年  
ペナン島にコンドミニウムを購入、古里の松江  
とペナン島行き来の生活をしています。

私は伝統音楽の継承と日本民謡の発展を目的  
として1990年に島根県隠岐島を軸に結成され  
た「民謡しげさ会」に所属し、民謡と津軽三味  
線を楽しんでいます。



隠岐島のコンサート・右が本人 左は師匠

「民謡しげさ会」は2003年2月日本大使館及  
びペナン日本国総領事館より「日本ASEAN交  
流年2003記念事業」の認定を頂きクアラルン  
プールとペナンで「日本民謡&津軽三味線コン  
サート」を公演しました。

コンサートは盛況で日本の伝統音楽を楽しん  
で頂き、ご来賓の各国大使からは“感動したよ”  
との暖かい賛辞を頂きました。マレーシアの人  
達の暖かいもてなしに参加者の全員が感激しま  
した。私たちのコンサートが日本とマレーシア  
の文化交流と相互理解に役立ったものと思っ  
ています。

私たちはマレーシアのリタイアメントビザを  
取得して7年目になります。マレーシアに納税  
もせず、マレーシア社会に何等の貢献もしてい  
ないのに、出来上がったインフラを無償で無制  
限に利用しています。その恩恵に私たちは感謝  
しています。

私たちに出来るマレーシアそしてペナン島の

人達へ感謝の表現それがボランティアでのコン  
サートでした。

2005年2月にはペナン女子高校で浴衣フェス  
ティバルを行い生徒たちと楽しいステージを共有  
しました。



2005年浴衣フェスティバル・ペナン女子校にて

2007年は マレーシア建国50年 及び日馬友好  
50周年の ... Memorial Year ...

ペナン日本国総領事館の記念事業として「民  
謡しげさ会」が下記の日程で記念公演する事と  
なりました。

---

## コンサートの名称 『日本民謡の夕べ』

### イポー公演

日時 2007年6月24日(日)

午後8:00 ~ 午後9:30

主催 ペナン総領事館・民謡しげさ会、  
ペラ馬日友好協会

共催 ペラ州政府

場所 ペラ州庁舎 大ホール

観客収容 1000人

### ペナン公演

日時 2007年6月26日(火)

午後8:30 ~ 午後10:00

主催 ペナン総領事館・民謡しげさ会、  
USM(マレーシア科学大学)

共催 ペナン州政府

場所 USM音楽ホール 観客収容 500人

---

## イポー公演

イポーはマレー半島北西に位置するペラ州の州都で錫の産地として栄えました。イポーには大型ショッピングセンターのジャスコが有り、日本食品も揃っています。PASAR BESAR IPOH市場には、新鮮な食材が豊富で活気に満ちています。郊外にはTAMBUN HOT SPRING（温泉）があります。南国の木々に囲まれた熱水湖（温泉）です。

ペナン島及びクアラルンプールから車で2時間そしてカムロンハイランドまでは約50分と交通の利便性の良い立地といえます。街は緑が豊かで生活基盤は整っています。

ゴルフ場が3ヶ所有り、ゴルファーには天国といえます。

私はArchitectとして微力ながらイポーのHi Tech Park の街づくりに協力しています。このような事情もありイポーには良く出向きます。

マレーシアのイベント、文化行事はクアラルンプールとペナンに集中しイポーでは過去日本文化のイベントは、ほとんど開催された事が有りませんでした。ペナン日本国総領事館からぜひイポーの人達に「日本文化を紹介」して頂きたいとの要請と、Hi Tech Park の街づくりで知り合ったペラ州政府及びイポーのローカルの友人たちに日本の伝統音楽を楽しんで頂きたいとの思いからイポーでのコンサートを企画しました。会場はペラ州庁舎の大ホール、音響効果の優れた絨毯敷きのホールです。



ペラ州知事を表敬訪問・州知事室にて

## ペナン公演

公演会場のUSM（マレーシア科学大学）は、マレーシアを代表する総合大学でペナン島に大半の学舎が有り、対岸のバタワースにも幾つかの大学施設が有ります。USMには世界各国より若者が集い広大な敷地内はカラフルな民族衣装で活気に満ちています。日本からの留学生も数名、そして日本人教授も教壇に立っています。

公演日は夏休みになりますが大学関係者よりUSMの学生に“生”の日本の伝統音楽を聴かせてほしいとの要望が有りUSMの音楽ホールを会場としました。大学のダンスクラブとのジョイントの相談も有り、楽しいコンサートにしたいと思います。



USMの学生たち・後方が会場の音楽ホール

## ペナン島

ワイワイガヤガヤ騒々しい街！

どこかヤボッタ そーな街！

でも元気に満ちた街！

そんなペナン島に住むローカルの皆様方に日本の伝統音楽を楽しんで頂きたいと思っています。

## 入場無料のボランティアの記念コンサート

出演者は前回と同様 20数名となります。これから会にてコンサートの台本を作りリハーサルを繰り返し本番を迎える事となります。ホテル・ポスター・プログラム・新聞掲載・コンサート会場等の経費につきましてはペナン日本国総領事館にお願いとご相談をしている所です。

今後イポー及びペナンの主催、共催団体の関係者と公演の間際まで打合せ、準備を進める事となります。

「南国暮らしの会」新年号の誌面をお借りしマレーシア2007記念コンサート企画のご報告とします。末尾となりましたが「南国暮らしの会」の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。  
[ 追 伸 ] 記念コンサートのご案内はURL「ペナン島物語」に掲載しました。

<http://www1.odn.ne.jp/~aan16830>  
= 南国生活Hot情報 = のページです。2003年のコンサートの写真も掲載しました。  
会員名簿に記載のメールアドレスに誤りがありますので下記に訂正します。  
[hamanogi1101@max.odn.ne.jp](mailto:hamanogi1101@max.odn.ne.jp)

## バギオ訪問記

関東支部 No.732 馬場 章介

滞在期間 2006年8月3日から22日まで  
約3週間。

### 訪問のきっかけと滞在目的は、

2年ほど前に南国MLで現地在住の斎木様の生活レポートと太平洋戦争の戦没者慰霊碑のボランティアの話を読んだ時に斎木さんの活動に感銘を受けて、定年退職したら是非バギオを訪問して現地視察と慰霊碑のボランティアを少しでもお手伝いしたいと決心しそれを今回実現することができました。

結果から申し上げますと斎木バギオ支部長や会友の山田様のご好意により現地を車で詳しい説明をしていただきながら期待以上に視察をすることができましたが、私の急に発生した所用のため予定より早めの帰国でボランティア活動は十分できなかったのが心残りになりました。

### 視察、訪問箇所は、

斎木支部長宅があるフィリピン・ルソン島のバンガシナン州、ウルダネタの近くのカバルアの慰霊碑、マナワグの教会そこから車で1時間ほどの所にある南シナ海に面したリンガエンとサンファビ안의慰霊碑、マッカーサー上陸記念碑、旧マルコス大統領の別邸で今はホテルになっている所、斎木夫人がボランティアで日本語を教えている小学校、アゴの慰霊碑、教会、等斎木さんの戦争当時の戦闘状況の詳しい説明を聞きながら慰霊碑や教会をお参りしてきました。

ウルダネタから車で2時間弱、山岳道路を登ってバギオに。途中の山にはたくさんの滝が見られました。斎木さんはそれらの滝一つ一つに日本語の名前をつけてガイドしてくれました。雨が降るとそれらの滝はより美しくより多くの滝が出現するとのことでした。その山道の途中の慰霊碑にも寄りました。バギオの町ではフィリピン大学の近くの英霊追悼碑にお参りしました。バギオでは私の宿泊先になった「日系人会館アボン」で斎木さんがボランティアで現地の大学生に日本語を教えています、そこで斎木さんの助手ということで少しお手伝いをすることができました。



さらにバギオでは斎木さんから会友の山田さんご夫妻を紹介されまして、山田さんの家を訪問してバギオでのLSの良さの話やボランティアの話をして聞かれました。山田さんにはゴルフに連れて行ってもらったり街の中を詳しく案内してもらったり大変お世話になりました。

8月15日には「カレラヤ平和公園戦没者慰霊祭」に参加。

太平洋戦争では外国で一番多くの日本人が犠牲になった場所はフィリピンということを知りました。その犠牲者の数も50万人以上とのことで、さらにそこでは100万人以上のアメリカ兵やフィリピン人が命を落とした言うことでした。この話を聞かされて日本人の犠牲者だけではなくアメリカ兵やフィリピン人を含めて戦争の犠牲者の慰霊をすることに改めて厳粛な気持ちになり、「不戦の誓い」と「世界平和」をこの慰霊祭で心より祈願してきました。斎木さん山田さんと一緒にバギオからバスで約8時間かけてマニラに行き、そこからさらに3時間かけて会場まで行きましたが、慰霊祭に参列し亡くなった方達のご冥福を祈り、「今日平和で豊かな日本で生活していただけるのも過去にたくさんの方達の犠牲があったからなのだ」ということを強く感じてきました。慰霊祭会場では斎木さんは「南国暮らしの会」を代表してという立場を兼ねて献花をされておりましたが私もここに列席でき多少でもこの状況を皆さんに報告できる役割を果たせたことに意義を感じております。



バギオ滞在中には現地の人々や日本人と多くの出会いがありましたが、現地で借りて読んだ

本「バギオの虹」で知ったのですが、今は亡き「シスター海野」との本での出会いは感動的でした。彼女は今から35年ほど前に日本から60歳の定年後にボランティアでフィリピンを訪れ、戦後からバギオで悲惨な状態にあった日系人の救済や遺骨収集を中心に、日系人や現地の子供の教育に力を注いだり、日本とフィリピンの架け橋となるすばらしいボランティア活動をされた方で「バギオのマリア・テレサ」のような方です。今でも彼女の遺志を継いでロータリークラブをはじめ日本の方々の援助を得て基金を作り奨学金制度を確立して若者の教育に大きく貢献しています。

まだたくさん報告したいことはありますが、以下にLSに参考になればと思いバギオの特徴を感じたままにキーワード的に報告します。

#### (ポジティブな項目)

フィリピンなのに涼しい。日本で言うところ「軽井沢」と例えられることが実感できた。

山に囲まれて盆地で坂道が多いが緑が多く松の木が多く茂っている。

飲食店や大きな市場や大きなショッピングセンターがあり食材も豊富で繁華街のメイン通りにはいろいろな店がたくさんあり買い物には便利で物価も安いので生活しやすい。

治安が良くて現地の人々もフレンドリー。NHKテレビも観ることができ、英語圏なので英会話の勉強もし易い。

日本人は少ないが山の麓には斎木支部長、上には会友の山田さんという親切で頼れる人がいるので安心。

大学が多くあり歴代のフィリピンの大統領の出身校である士官学校もあり、年間を通してバギオデー等のイベントもたくさんあり文化度も高く感じた。

ゴルフ場やテニスコート、乗馬、映画館、プール、公園、マッサージ、等の娯楽施設も街の中心に集まっている。

タクシーが多く走っていてどこでも乗れて交通の便は良く、安い。

### (ネガティブな項目)

日本からのアクセスが少し不便。一度マニラで乗り換えて、バスで8時間ぐらかかる。マニラから飛行機便は1日1便。(現在、齋木支部長が楽なアクセス方法を検討中)

経済的にL Sできる施設(アパート)がタイのチェンマイのように多くない。(これも齋木支部長が調査、開拓中)

東南アジアの街の中心地の共通点ですが車が多い割には信号機が少なく道路の横断には気を遣い排気ガスによる大気汚染が気になる。



### (その他特別情報)

#### 英会話学校の紹介

会友の山田さんから紹介され、最近現地で英会話学校を設立運営を始めた日本人の現地女子大学生の直原さんとお会いして学校の内容についてヒアリングしてきました。設立したばかりなので学校もまだ小規模でカリキュラムやいろ

いろなシステムも完全に出来上がっていないようですが、その代りに生徒の要望に応じた柔軟な入学ができるようです。「南国の会の会員」だということであれば特別に授業内容、宿泊場所、費用、等相談に応じてくれるように頼んできました。日本語で相談できるのが大きな利点です。

日本からの生徒を期待していますとのことでした。参考に学校名「イングリッシュ・ラーニング・センター・イン・バギオ」。場所は街の中心地。授業の基本コースは1日5時間で土・日が休みで1ヵ月の授業料は米ドルで725ドルとのこと。(興味のある方は詳細について馬場が相談受付します)。因みに、バギオでは語学留学が欧米より安価でできるという理由で韓国の学生が沢山勉強しているとのことでした。

以上、主観を交えて報告しましたが、10年近く住んでいる会友の山田さんは「バギオは良い所だよ、一度は来てみなさい」と馬場さんから皆さんに伝えてください」とおっしゃったのでこの報告で少しはその役割を果たせたのかと思っております。

そして今回のバギオ滞在では齋木支部長と会友の山田さんには大変お世話になりましたことをこの紙面を借りまして御礼申し上げます。

## 写真紀行 人生紀行 バリへの旅

関東支部 No.345 藤巻 雄二

初冬の成田より一直線の7時間余りのフライトで常夏の島バリへ、久しぶりに体感した季節感の落差そして初めての人々との出会い・・・この楽しさを改めて再認識したのが今回のバリ旅行でした。

今回のグループの構成は男性6名、女性5名の合計11名で旅の仲間と写真の仲間との合同ツアー、昨年11月11日出発の5泊6日の短い旅ではあったが大変楽しく過ごす事が出来た旅でした。

57歳の時に突然の肩たたきに遭遇・・・アー

どうしようの一時期もあったが三年以上家を不在にした妻への罪滅ぼしも兼ねて初めての夫婦の海外旅行で訪れたのがバリであった。現役の時にはジャワ島の中東部にある町、スラバヤまでは何回か来たが要領の悪い私にはバリを訪ねる機会がなかった。そんな事もあってバリは私にとって、近くて遠く、そして遠くて近いあこがれの島であった。

10年振りの訪問であったがこの間にバリがどう変化したのか、してないのか短い旅ではよく

分からなかった。ただこの国の首都ジャカルタのあるジャワ島と比較するとバリは英語を喋る人が多い。町なかの食堂の主と思える80歳近いオバサンや、衣料品店を営むこれまた年を感じさせる普通のオバサンも英語を喋ってくれた。素直な英語に素直な英語で答えてくれる・・・これはジャワ島では経験したことがなかった。やはりバリは国際観光の名所であることを感じさせてくれた。

成田午前11時発のガルーダでデンパサールに予定通り17時15分に到着。現地の旅行代理店の出迎えを受けてクタのバリ・ダイナシティリゾートにチェックイン。

帰国日まではほぼスケジュールどおり、我々だけでの自由行動を楽しんだ。現役の頃仕事で訪れた時のインドネシアの通貨ルピーは1us\$がどの位だったのか記憶にないが今は10,000Rp近く。ルピアの価値も下がったものである。両替をするとゼロがいっぱい並ぶ紙幣を沢山貰えるので急に金持ちになった気分になる。スハルト元大統領が辞任（1998年5月21日）した前は1円が約20Rp、この年（2006年11月）の為替レートは1円が約80Rpで約4分の1に下落している。名目賃金は上がったものの現地でのインフレは大変だと思う。地下資源、観光資源の多いのにどうした？インドネシア頑張れと言いたい。

帰国日の昼食はホテルで豪華にしようと言うことで弾んだが、この時の合計金額が130万余りのルピア。各自手持ちのルピアを全部出しあって金種を揃え合計金額を確認してテーブルの上に置いたがボーイ曰く、金額が10万以上不足との事。そんな事はないと言い張ったが先方納得せず双方立会いで確認作業。暑さと少々アルコール、そして種類の多いお札（同じ金額でも新旧あり）、ゼロの多いお札に惑わされ我々のミス、完敗であった。

円に換算すればなんと云う事はない金額だが現地通貨に慣れてない我々にとっては大変な作業であった。

さて今回の参加者の中に都内より参加のOさんがいた。Oさんは年に10回程の海外旅行を楽しんでいる元ホテルマン。奥様に先立たれ今は一人身であるが、もの腰が低く、そして姿勢がよくホテルマンであった事を感じさせるそのOさんが83歳であることを知り驚いた。もうそろそろ海外旅行は止めようと思っていますとは本人の弁だが全く年を感じさせない元気印のOさんであった。

接客業出身で話好きのOさんとは正反対に超寡黙のSさんは遠く広島より参加した旅行好きの方であった。昨年は15回の海外旅行をこなし、今年もこのバリのあと間もなくインドを予定している由。

千葉県内より参加の元気印の女性Yさんは57歳でバリは6回目とのこと。まだ現役でご主人と仲良く自営業の方だが「うちの主人は飛行機が嫌い海外旅行はダメとの事」、年に数回も海外旅行に行く奥さんは幸せいっぱいの顔の持ち主。理解のある旦那様である。東京でセットした「サンセット・ダイナークルーズ」の船上で突然プロのダンサーの輪に入ったYさん。大きな体とお尻をプリプリとさせて踊りだしたのでデッキが抜けるのではと心配しました。（大変失礼！この記事が間違っても目に止まらないことを祈ってます）

今回の参加者のなかで「どこかでお会いしますねと話が弾み・・・糸を手繰ればそうだアラスカでお会いしたのよ」などの二人もおりました。大きい地球で小さな奇遇・・・旅は人と人とを近づけるものだ感じた一瞬でした。

今回旅したバリの写真を表紙に飾らせていただきました。97歳の老人を抱える小生はLS当分は無理なので、また仲間との小旅行で楽しんで行こうと思っています。

# ホストファミリーを体験して

関東支部 No.117 龍野 宏

私の住んでいる千葉県白井市はオーストラリアのビクトリア州キャンパスピ市と友好都市の提携を結んでいます。その関係で毎年市民同士がお互いに訪問しあい交流を図っています。

昨年の9月、市の広報にキャンパスピ市の訪問団が来てホームステイをすることになり、その受け入れ家庭の募集が載りました。今まで海外でホームステイをした経験はありますが、ホームステイの受け入れは初めてです。良い経験になると思い、思い切って応募してみました。

間もなく市より連絡が入り、我が家にホームステイする人はNina Stoneと言う58歳のリハビリテーション看護婦と決まりました。事前に市から貰ったプロフィールによると同じ年の夫と35歳、20歳の娘さん、それに30歳の息子さんがいる家庭の主婦でもあります。趣味はガーデニング、料理、ウォーキングで近くの公民館でロックンロール・ダンシングも教えているという活発そうな人です。

今回の訪問団は総勢9名で日程は10月26日～30日の4泊5日です。毎日の市役所への送り迎え、寝る部屋と毎日の朝食、それに28日(土)の夕食を提供すれば良いとの条件でした。他は市が決めた日程に従い行動することになっています。我が家では1階の8畳間の和室に泊まって貰うことにして、障子を貼り替えたり布団を干したりして妻と娘とで彼女を迎える準備をしました。

訪問団到着の26日(木)は夜9時頃市役所で一行の到着を待つことになっていましたが、訪問団の一人の荷物が届かないトラブルが発生して10時の到着になりました。早速ゲストのNinaを紹介され我が家に向かいました。我が



妻、Nina、私

家に到着し玄関では靴を脱ぐ事を話すと、わかっているらしく素直に応じてくれました。日本に来る前に予め日本での生活を勉強してきたようでした。家に上がり寝室に案内して電灯の点滅の仕方、雨戸の開け閉め等具体的に説明しました。またトイレ、洗面所、風呂場特にシャワーの使い方を説明しました。一般にオーストラリア人は朝にシャワーを浴びる習慣のようです。

その夜はサンドウィッチとスープの軽い夜食を出しました。その後少し歓談し彼女から私、妻、娘それぞれにお土産を貰いました。私達も日本のカレンダーのようになると軽くお土産をあげました。かねてよりオーストラリア人の発音には癖があると聞いていましたが、やはりtodayをツダーイと言ったりnameをナームと言ったり聞き取りにとまどうことがありました。そして妻が翌日から1泊旅行で福島に行くことになっているので翌日と翌々日は不在になることを話しその夜は寝ることにしました。

翌27日(金)妻は一泊旅行のためNinaがまだ寝ているうちに出かけて行きました。そのため27日(金)の朝食、28日(土)の朝食と夕食は私が作ることにしました。朝はパン、ジュース、紅茶、サラダを用意しました。この

日は10時より市役所で市長による訪問団歓迎式、その後市内の施設を見学し夜は日本料理屋でホストファミリーも参加しての歓迎宴会があります。

市役所に行く前に私が働いている近くのコミュニティセンターに立ち寄り、仲間にNinaを紹介して館内を案内して回りました。彼女の滞在中出来るだけ多くの市民とふれ合う機会を持つように心掛けました。

その夜の歓迎会には妻が旅行で参加出来ませんので私と娘が参加しました。歓迎会は市関係者、ホストファミリー、国際交流協会、ロータリークラブ等総勢45名程が参加してとても盛会でした。

歓迎会ではまず自己紹介がありました。訪問団の人は皆日本語で自分の名前と仕事を紹介していました。やはり日本に来る前に練習して来た様です。料理は刺身、天ぷら、茶碗蒸し、焼き魚、握り寿司が出ましたがNinaは箸を上手にを使って食べていました。心配した刺身も問題無いようです。また箸はメルボルンの中華料理店で使ったことがあると話していました。

その後カラオケタイムになり訪問団の人々が舞台上がり、ロックンロールダンスを所狭しと踊ったりYMC Aを歌ったりして多いに盛り上がりました。

次の28日(土)は白井市恒例のふるさと祭



市役所にて、訪問団一行とホストファミリー

りがあり、キャンパスピ市特産のワインとチーズの紹介もありました。彼ら一行もふるさと祭りに参加して野点、餅つきなど体験しました。Ninaは屋台でたこ焼きも食べたようです。あとで聞くと抹茶の味はあまり馴染めなかったようです。

今日は我が家で夕食を一緒に食べる事になっていますので私がちらし寿司を作りました。弟夫妻も呼んでいたのもので、弟夫妻で鍋料理の用意をしてくれました。

夕食でNinaは銀杏、鍋の魚をよく食べてくれました。また日本酒を奨めると少し飲みましたが、もともとアルコールはあまり飲まない人のようでした。そして私が作ったせいもあるかもしれませんが、ちらし寿司を大変美味しいと褒めてくれました。とにかく色々な事を体験してみようという積極的な姿勢が感じられました。弟の妻は若い頃アメリカに留学した経験もあり、妻のいない分ホステスを務めてくれて大変助かりました。その夜妻は9時頃旅行より帰って来ました。

翌29日(日)朝食の前Ninaは趣味でもあるウォーキングを家の近所でして来ました。わざわざウォーキングシューズを持参してきましたがウォーキングをしたのはこれ一回でした。ウォーキングより帰って来てNinaは風呂に入りました。今まではシャワーでしたが、どうやら日本式を体験してみようと考えたようです。具合が良かったらしく翌日の朝も続けて風呂に入りました。

この日訪問団一行は一日都内観光とショッピングを楽しみました。海ほたる - 浅草 - 皇居 - 東京タワー - お台場と見て回りました。やはり浅草が一番気に入ったようです。そしてお

土産も沢山買い込んできました。

30日(月)いよいよ帰国の日となりました。朝食は妻が日本食を用意しました。鮭の焼物、海苔、漬け物、ご飯、みそ汁を出しました。Ninaは箸を使い皆食べてくれました。

10時に市長室に市長、訪問団、ホストファミリー等関係者が集まりお別れ会がありました。その席上一人一人が今回の日本訪問の印象を話しましたがNinaがホストファミリーのもてなしがとても良かったと言ってくれました。その後外に出て全員で記念写真を撮りそこで最後のお別れをしましたが、Ninaの眼には涙が光っていました。

訪問団はその後成田に行き成田山を見学し夜のフライトで帰国しました。Ninaからは翌日の午後4時に家に到着したとメールが来ました。

今回初めてホームステイ受け入れを体験しましたが、妻や娘にとっても大変良い刺激になったようです。娘は英会話の本を買ってきてNinaと積極的に交流を図っていました。妻は例え会話力は乏しくても様々な表現力を使えば意志の疎通は可能だと感じたようです。

オーストラリア式? プレゼントの仕方

以前オーストラリア人に接した時にも感じたことですが、オーストラリア人のプレゼントの仕方が有るようです。先ずNinaが我が家に到着した日にお土産を呉れました。つぎに滞在中の途中の日にプレゼントを呉れました。そして帰国の日最後のお別れの時にもプレゼントを呉れました。3回に分けた方がより効果的という考えでしょうか。そして家に戻ると居間には彼女のThanks Messageが残されていました。

## 「平澤 信 世界を旅する」 アフリカ紀行

### モロッコ編(その二)

関東支部 No.40 平澤 信

(2006年秋季号から続く、連載第2回)

#### メクネスへ(病に伏せる)

1月30日(木)列車でフェズからメクネスへ1時間の旅。16.5D(198円)。この街は、17世紀まで首都として栄えたというが、今は、ぶどうが実り美味しいワインの産地としても有名だ。のどかな街だが、市場には人が多く、活気が溢れている。ワインの産地だけに、「お酒解禁」的な雰囲気もイスラム国にあっては大変珍しく、開放的で好きな街だ。

カサブランカ以来、興奮状態で殆ど休みも取らず歩き回ったせいか、列車で移動中、背中に悪寒を感じた。身体が重く疲れが取れない。しかし、熱はなかった。こんなときは早くホテルへ入って休むべし。と、思って向かったビジネスホテル風のホテル・パラスへ188D(2,286

円)。値段は安い、AC、TV、バスタブも付いているツイン。夕食時、ホテルのレストランで日本の若い商社マンのS君(25歳)に出会った。

巨体を持つ数人のアラブ人を相手に、瘦身の彼が、毎晩遅くまで商談をしている姿は、健気(けなげ)という他はない。彼は、日本流に現地の人達と時々宴会も張ると言っていたが、胸板が薄く、弱々しく見える体型とは裏腹に、強靱な神経と大きな夢を持っていて、全身から闘志がみなぎっていた。こんな商社マンの地道な努力が、今日の日本の繁栄をもたらしたに違いない。

この若者との話に熱が入りすぎて、私は寝不足になってしまった。気が付いた時、足は冷え顔が火照りゾクゾクする。部屋に帰って体温を測ってみたら、38.8。喉は痛み、胸の辺りまで

間違いであった。この晩、苦しくて一睡もできなかった。

明け方の体温は、39.3 になっていた。自力回復は無理と判断し、フロントで医者呼んでもらう事にした。夜勤のフロントの人はアラビア語しか話さないの、体温計を見せたら、「オーノー！」と両手を広げてすぐに了解してくれた。

医師は9時にやってきた。待っている5時間がこれほど長く感じた事はない。カード保険を使うため、電話でパリのダイナース保険センターに病状を話した。保険の担当者は「パリに戻って精密検査を受けてはどうか？ 暫らく入院になるが、モロッコまで迎えの医師と看護婦を差し向ける。そして、治療後はモロッコまで戻してあげる」との提案であった（カード保険も中々手厚い看護が受けられる事が分かった）。

パリの病院で完全看護を受けてみたい気持もあったのだが、まだ「モロッコの旅は始まったばかり...」と言う損得勘定も働いて、「暫らく様子を見させてほしい」と言うことで、了解を頂いた。それに、こんなに高熱で苦しい時は動かない方が良いのでは...と自己判断した事もある。

高熱は3日間続いた。ドクターに「氷嚢で頭を冷やして貰いたい」とお願いしたら、「頭や顔を冷やすのは、医学的に何の意味もない」との答えが返ってきて、全く聞く耳持たぬ対応であったので、私は、よろけながらバスタブの縁で頭や顔を冷やした。

この一件から「モロッコの医者なんて大丈夫かしら？」と思う不信感が頭をもたげる。どんな経歴かドクターに確認してみたくなった。ドクターは帰り支度している。早く！でも、英語で何と言えば？

「貴方は、モロッコの医者ですか？」と、焦って意味不明の聞き方をした。すると彼は、「その通り。我々医師の殆どがフランスに留学する。私も又、パリの大学に留学した」と私の心配の意味を了解している答え方であった。

私は、頭さえ冷やしてくれない医師がパリ大学だなんて...見栄を張っていると思った。「失礼しました！と、本当かなー？」との思いが半々だった。

ドクターの薬は3種類で、いずれも「食前」に飲むように書いてある。時々私の室に顔を出してくれる先の商社マンS君に、この事を聞いて見たら「モロッコの薬は日本の物よりかなり強いので、食前では胃をやられます。大型獣のような体型の、この人達は食前に抗生物質や解熱剤を飲んでも、何ら応えません。我々は、日本流に食後飲むのが正解ですよ」とアドバイスしてくれた。S君の現地通訳の大型獣さんもこの場にいたのだが、日本語だったので相手に通じていない。言葉が通じない便利さもあった。旅先の病ほど厄介な物はない。食欲は全くないのだが、薬を飲むために食事を取らなければならない。ここメクネスの食物の殆どはケバブのような焼肉で、39.3 の高熱の身でホテルの外に出かけ、これを口にしなければならないのは、かなり辛いものがある。

ホテル近くのレストランで、美味しいスープを見つけた時は本当に助かった。チュニジアで、「シヨルバ」と呼ばれていたスープがモロッコでは、「ハリラ」と名前が代わっていた。

4日目の朝、熱が引いて楽になった。しかし、熱で鼻をやられたらしく、嗅覚と味覚の殆どを失っていた。味覚は日が経つにつれ少しずつ戻ってきたが、匂いの方はその後も2週間くらい全く戻らなかった。匂いのない生活がこんなにも味気ないものとは思わなかった。汚い話だが、黄色い鼻汁だけはその後1ヵ月以上も続いた。ヘレン・ケラーさんのように、目や耳でなくて良かった。

### 韓国の若者と世界遺産を観光する

ドクターの注意を無視して、熱が下がった翌日から、まだ目まいと立ちくらみの残る体を騙しながらメクネス観光に出かけた。ここの観光名所のムーレイ・イスマイル廟や水の館、キリ



スト教徒の地下牢、風の道等、どれも保存状態も良く、牢獄以外は、庶民の生活に密着した遺跡で、遺跡に興味の薄い私も存分に楽しめた。

この日の朝、ムーレイ・イスマイル廟でアジア人の若者に会った。彼の「こんにちは」の挨拶に、かなり訛りがあったので、何処から来たか聞いてみた。果たして、彼は韓国人で、パリに留学中の金さん（31歳）と言う若者であった。180cmの大きな身体と色白の風貌だが、神経が細やかで、中々の国際人であった。

病気がりで、フラフラの私を見て、すぐに荷物を持ってくれた上、私の体調に合わせてゆっくりと観光地を廻ってくれた。お昼時、広場のレストランで、私はスープと肉と魚と野菜の盛合せ定食を食べた30D（約350円）。金さんは、豆のスープとアラビア・パンだけ5D（61円）。

私の食事を見て、「随分豪勢ですね。いつもこんなですか？」と言う。

そして、彼が今泊まっているホテルの値段を聞いて超驚いた。30D（360円）。個室で朝食付きだと言う。どんな部屋か見に来ない？と誘われたが、残念な事に病気がりで、ファイトが湧かなかつた。金さんは、私の部屋にAC・TVバスタブまで付いていることに逆に驚き、「これが日本との経済格差だろうな。韓国人は後どのくらいで、貴方のような旅ができるようになるのやら...。」と羨んでいるようにも見えた。だが、この後、市場を一緒に歩いている時、「オーイ日本人！」と頻りに声を掛けられると、彼はにこやかではあるが、きっぱりと

「この方は日本人、私は韓国人」とその都度丁寧に訂正する事を忘れなかった。

「日本人と言われることは、やはり嫌ですか？」と金さんに聞いてみた。すると、「優秀な日本人に間違えられるなんて光栄ですし、街中で日本人と言え、待遇は格段に良くなるのに何故でしょうね？でも、貴方は韓国人若しくは中国人と言われることに抵抗ありませんか？」と逆に質問された。不思議な事に、私は、30数年間の海外旅行で1度も国籍を間違えられた事がない。でも、「間違えられたらきっと訂正するだろう」とは思った。

「韓国では、日本人を嫌っているのでしょうか？」と聞いてみたら、「高齢者の中にはいるが、若い者は殆どいない。まだまだ日本は見上げる存在です」との答えだったが、旅先で見かける韓国製電化製品やコンピュータ等この国への輸出の多さには、経済に関して門外漢の私ですら脅威を感じた。

金さんのパリ生活は、「貧乏を極めている」と言って、生活の様子を話してくれたが、それが実にユーモラスで、積極的に貧乏を楽しんでいるかの印象さえ持った。

昼食後、私が服用したモロッコ・ドクターの薬を見て「貴方もパリ在住ですか？」と彼は言う。ホテルで病気していた経緯を話すと、「僕もパリの大学病院でこれと同じクスリを貰い、良く飲みました。そのドクターきっとパリに留学経験があるのでしょうか。」と、事もなげに言った。モロッコ・ドクター嘘言わなかった。ご免なさい！

この日、韓国の若者と夕方までの時間を共に過ごしてしまった。私は、喉が弱いため、長時間人と話すや疲れの事から、外国では挨拶や相手に頼み事がある場合は別として、原則、自分からは話し掛けない事にしている。だが、この日は、金さんにすっかり乗せられてしまった。問題定義の仕方、問の取り方は天性備わっていると思った。若竹のようにしなやかで遅い韓国の若者

であった。

それに引き換え、当ホテルのフロントさんは、思いがけず病気で長逗留した私に、「ホテルが儲かった！」と、両手を上げて喜んだ。私が、「ホテルの暖房が弱くて寒かった」と言ったら、「僕は外にいると同じで、貴方よりもっと寒い」とも言った。私が客だと言う認識はなく、まったく口の減らないオジンだった。

でも、私の薬を取りに行ってくれたから、まあ、いっか。

### ミデルトへ（何と寒い街？）

2月6日（木）。病気のためとは言え、メクネスで7日間も足踏みしてしまった。

ミデルトへの移動手段は路線バスしかない。時刻表には所要5時間30分と書いてあるが、実際は、3時間でミデルトに着いた。

バス中の私の相客は、ジャラバ（日本の昔のマント風）をまとった目付きの鋭い初老の男性であった。言葉も通じないし、私は黙って外の景色を見ていた。だが、この強面（こわおもて）の男性、休憩時間になるとトイレの場所を教えてください、出発時間を差し示してくれるなど、笑顔は見せないがとても親切であった。

極めつけは、バスの中でピンク色のストロベリー・チョコを分けてくれた事だ。彼の風貌とあまりにもかけ離れた品物だったため、思わず笑みがこぼれてしまった。私は甘い物が苦手、普段は殆ど口にしないのだが、この時は、喜んでこのピンク・チョコを食べた。この間も言葉はなく、交わしたのはアイ・コンタクトのみ。私達はこれで充分通じ合えた。

方向は南に向かっているのだが、山岳地帯に向かっているため、雪の山脈アヤシ山には雪も見えてかなり寒い。メルズーカ（サハラの大砂丘）へ向かうための通過地点の街だ。普通の旅人は通過するところだが、時間長者の私は、ミデルトでも降りて2泊する。

### 美しく寒い街

ところがこの街メチャ寒く、東京の冬の寒い日くらいの気温しかない。風邪がぶり返しそう

な気配なので、3つ星のホテル・アヤシ279D（3,393円）を奮発した。

どっしりとしたクラシックな外観に引かれて、入った。ホテルの窓からは、雪を頂いた美しい山々も見えて申し分ないのだが、「暖」については究極の節約をするホテルで、1日数時間しか暖房が入ってこないため、私は室内でもヤッケが必要であった。お風呂の湯もぬるめで、身体が芯から温まるにはほど遠い温度であった。だが、同宿のフランス人達は寒がらず、「豪華なホテル」と誉めそやしていた。

それにしても、ホテルの名前がよくない。ホテル・アヤシ（怪し）に思えてくる。夕食時、暖かい物を食べて身体を温めようと、街のレストランへ出掛けた。北アフリカ名物の熱々の煮込み料理「タジン」は玉葱とトマト、人参、ジャガイモ、牛肉入りで栄養のバランスもよく骨の髄まで暖めてくれる。

誰も知合いがいない気楽さから、大口開けて特注タジンを食べていると、「こんばんは」と日本語で話し掛ける声があった。振り返ると、青い目の西洋人の若者が笑っている。この若者の名はサブール君（32歳）と言い、横浜に住むモロッコ人であった。ロンドンに留学時代、日本人の今の奥さんと出会い6年前に結婚したと言う。

久々に聴く日本語であったが、又か？と思う気持が強く、特に懐かしいとか嬉しいと言う気持はなかった。多分1人で心行くまでタジンを楽しみたかったのだと思う。渋々晩ご飯を共にしながら、重い口を開いて、モロッコの印象を話した。私の旅のスタンスは「名所・旧跡廻りにこだわらず、人々の普通の暮らし振りに興味がある」と言うと、「では、これから私の家族の家にご案内します」という。

始め渋っていた私も、この誘いにはすぐに反応し、ご好意に甘えて伺った。夜9時近く、これから夕食で、みんな居間に集まっていた。20畳くらいの部屋の真ん中には、大きなTVとストーブを囲むようにクッションが置かれた団欒

用の部屋になっている。

ここで食事をした後は寝室にもなるのだという。昔、日本の家庭でも食事の後、ちゃぶ台を片付けて蒲団を敷く。という習慣があった事を思い出し、モロッコに親しみが湧いてきた。サブール君はこんな日本の古い習慣を知って、一段と日本が好きになったと言う。

広々とした台所は全て電化され、タジンのような煮込み料理を造っていた。綺麗に整頓された清潔な家の中を見ただけで、生活水準の高さが分かる暮らし振りだった。

サブール君はこの後も、アヤシよりも良いホテルを紹介してくれたり、バスの手配を手伝ってくれるなど、とても親切であった。日本人と結婚していると言うだけで、何故？ と思っていたら、別れ際、彼がそっと差し出した物は、サハラ砂漠のホテルのパンフレットであった。

たったそれだけのために、幾日も付合ってくれた彼の親切を思えば、そのホテルに泊まるの

はやぶさかではないのだが、地図で調べてみると砂漠までかなり遠い事が分かった。その場で断りたい気持はあるのだが、何となく断りづらく了解してしまった。彼は、いつまで待っても紹介したホテルからのバック・マージンが入らないので「裏切られた！」と思うに違いない。ホテル代から考えてもバック・マージンがそれほど高額とは思えない。

ならば、ホテル代1泊分くらいのチップを上げれば良かった。と後で気が付いたが、チップの習慣のない私には、瞬時に思いつかなかった。悪事をしでかしたような、後味の悪さがだけが残った。

ミデルトの生活は文化的とは言え、彼の住む横浜に比べれば不便で、生活水準も低いと思う。この、ほのぼのの家族と離れ、単身日本での永住を決意させるどんな魅力が、わが祖国日本にあったのだろうか？

(以下次号に続く)

もっと知りたいシリーズ

## タイの歴史

甲信越支部 No.465 橋本 慧

現在はどうなっているか知りませんが、私たちの中学、高校時代の世界史の教科書は主にヨーロッパ史、東洋史では中国が中心で、それ以外は、インド、中近東地方、北米の歴史が申し訳程度に掲載されていたに過ぎませんでした。南の会の皆さんが最も大勢滞在し訪問する東南アジア諸国の歴史を学校で学んだという記憶はほとんどありません。

観光が目的で訪問するのと違って、長期に滞在してみたいと感じる国や地方は、個人のライフスタイルによって違ってきますが、そこで生活する人々の振る舞いや生活習慣に共感と安心感を持てる事が重要な条件になってきますよね。

現地庶民の感じ方、考え方、日々の生活の営みの深層にあるものをうかがい知るためには、

その地方の風土や歴史、宗教など民族性の基盤になっているものへの理解を持つことが必要になってきます。そうした背景を知ることによって現地での滞在生活が一層味わい深いものになってくると考えます。そこで今回は人気度の高い東南アジア諸国の中からタイについて、私が読んだ本の内容のごく一部を紹介することにしました。

### 「タイの歴史の概要」

- \* 13世紀以前はクメール民族が主体のアンコール王国がインドシナ半島の大部分を統治し現在のタイもその勢力圏であった。アンコール王国の宗教はバラモン教(ヒンズー教の前身)
- \* 13世紀の半ばごろモンゴル民族が中国に元朝をたてる。漢民族の南下により中国南部か

- らインドシナ半島北部に分布していた「タイ諸語」を話す民族がインドシナ半島全域に南下拡散した。「タイ諸語」の3つのグループのうち「南西グループ」に属するラオス、タイ、ミャンマー地方が文献の上で確定できるようになったのは13世紀である。
- \* 13世紀末には現在のタイ国中部の町スコタイを中心にスコタイ王国、チェンマイを中心にランナータイ王国が建設された。
  - \* 現在のタイ文字の創始者は13世紀末のスコタイのラームカムヘンという王であるといわれている。
  - \* 当時の王国は幾すじもの山脈の間に存在する扇状地や山間盆地、谷底平野と呼ばれる地理的空間が生活の基盤であった。川をせきとめ「ファイー」と呼ばれる井堰をつくり導水路を建設し耕作地を広げて「水稲耕作」生活の基盤とした。
  - \* ラームカムヘン王碑文には「ナイ・ナム・ミー・プラー、 ナイ・ナー・ミー・カーオ」（水の中には魚がすみ、田には稲が有る）という一節があり、タイ人の心象の原風景を表す言葉として有名である。（タイでは淡水魚が好んで食べられる）
  - \* チャオプラヤー川のデルタ地帯の深部（旧デルタ）は大河によって海洋と結ばれ、外洋を航海する大船が入港する地理的な条件があった。1351年に建設されたとされるアユタヤ王国は近隣諸国との貿易によって（貿易における諸権利を王族が独占的に保持した）国力を高め勢力圏版を広げていった。
  - \* デルタの氾濫源であったアユタヤ周辺では農民は水かさが増すとその背丈を伸ばす浮稲という品種を栽培化し豊かな穀倉地帯を作り上げた。
  - \* 1431年アンコール征服「この戦争によってカンボジア人権力者はトンレサップ北岸の王都を放棄し（アンコールの遺跡群）、現在のプノンペンの地域に新たな町を開いた。」
  - \* 1438年スコタイを合併。15世紀半ばテイローク王の支配下にあったランナー王国（チェンマイ）は最盛期を迎えており、アユ

- タヤの数度にわたる侵略戦争に勝利して独立を保った。
- \* 13世紀末元の侵略によってパガン王朝が崩壊して後のビルマはいくつかの小国に分裂した。1530年ビルマ人の王ダビンシュエティはベンガル湾沿いの王国ペグーを攻撃し富と人力を獲得した。ビルマ王国はタイ北部に侵攻し1558年にはチェンマイをもその支配下に置いた。港湾都市ペグーを中心とする交易の利潤を独占したタウング朝ビルマは、ポルトガル傭兵の操る強力な砲兵隊を主力として、1560年代に2度にわたってアユタヤを攻撃しついにこれをおとした。（その後15年の間アユタヤはビルマの支配下に入った。
  - \* 当時はすでに大航海時代に入っており、ヨーロッパ市場における胡椒の需要は急増していた。（アユタヤとペグーの胡椒貿易をめぐるヘゲモニー争い）
  - \* 人質として7年間ビルマにあったナレースエン王子が帰国後1590年にアユタヤ王位につく。軍事的才能豊かな王はビルマ軍を駆逐し、カンボジアを制圧。ベンガル湾諸港を奪還するとともに、ランナータイをその支配下に置いた。
  - \* 1511年マラッカに進出したポルトガルはそこを拠点にアユタヤ、中国方面との交易拡大を図っていた。（種子島に漂着したポルトガル船はアユタヤに寄港していた）
  - \* 16世紀におけるアユタヤの交易は中国、ポルトガル、ジャワとの交易が活発に行われた。17世紀にはいると徳川家康により朱印状の交付による官許貿易が開始された。32年間、鎖国令の発布まで続いた。
  - \* アユタヤにはすでに16世紀末以来、弾圧を逃れたキリシタンや、浪人となった武士などが流れ込み日本人移住地が営まれていた。
  - \* 朝貢体制下の対中国貿易の実務には漢文文書の扱いが必須であったため、アユタヤの宮廷政府にとって中国人は不可欠の存在であった。官僚、貿易商人、商人、飲食店などに従事する数多くの中国人が居住していた。

- \* 17世紀アユタヤは国際貿易の拠点として隆盛を極めた。1656年に即位したナーライ王はペルシャ、インド、清朝中国のみならずベルサイユ宮殿にも華麗な特使を派遣した。1688年に始まるアユタヤ王朝最後の80年は、後継者をめぐる政争が繰り返されその後半には外国貿易に利権を持つ高官の地位をめぐって華人系とペルシャ系の名望家の間に権力闘争が熾烈化した。1767年アウンパー王朝によって統一を果たした隣国ビルマが勢力拡張を図ってアユタヤに遠征軍を派遣するとアユタヤはもろくも破れた。かくして14世紀の半ばから400年以上続いたアユタヤ王国は滅亡する。
- \* 廃墟と化したアユタヤをすてチャオプラヤ川を下ったトンブリーに首都を定めたターク・シンは、駐留ビルマ軍を駆逐した後、統一国家の再建を目指して兵を全国に進め1770年代の終わりごろにはマレー半島からラオス、カンボジアにわたる広範な地域に支配権を及ぼすにいたった。しかしその晩年精神に異常をきたしてしばしば常軌をいっしていったという。(トンブリー王国はわずか15年で崩壊)
- \* そうした状況下で1782年、ターク・シン王のかつての盟友であったチャクラーがクーデターを起こし、首都をバンコクに移してチャクラー王朝の基を開く。
- \* チャクラー王朝初代のラーマ1世王は自己の権力の基盤をアユタヤ王朝の伝統の復興という観点で強化し、仏法による慈悲心をもって統治を行う「正法王」であることを国民に印象づけるために法典を整備しアユタヤ時代の官邸儀式を再興するなどして王権の継続性を演出した。1785年ビルマ王の派遣した10万の大軍を撃退することによって王権を確かなものにした。
- \* 18世紀末、マレー系イスラム国家パタニーはチャクラー王国に征服されマレー半島の一部はタイの領有となった。
- \* 新たに建設された王都バンコクは外国との貿易を経済基盤とした国際都市として成長し、19世紀に入っても純粹のタイ人は30%に

過ぎず、中国人との同化混血が進んだ。ベトナム人、カンボジア人、モン人、ラオ人、マレー人、インド人など多種多様な民族が混生しておりコスモポリタンのな雰囲気満ちていた。

- \* 1819年イギリスがシンガポールを獲得。1826年ビルマを領有。1858年フランスがベトナムに侵攻。1867年フランスはタイの属国であったカンボジアを保護国とした。
- \* 19世紀に入り欧米による侵略の圧力が国境まで及んできた。侵略の尖兵であるキリスト教の布教活動も本格化して、タイの仏教文化が危機の時代を迎えた。ラーマ3世王はキリスト教の取り扱いに慎重な姿勢で臨んだ。
- \* 1851年に即位したラーマ4世王モンクットはイギリス、アメリカ等との友好通商条約(不平等条約)を締結していく過程で、伝統的な王室の貿易独占権は破綻をきたし始めた。
- \* 諸外国の米需要にこたえて河口地域の新デルタが機械力による大規模かつ急激な開発が行われ新たな穀倉地帯へと変貌していった。(現在ではタイの米穀生産の60%はチャオプラヤ川デルタ地帯で占めている)
- \* 1873年ラーマ5世王チュラロンコーンは議会制度の導入、歳入制度の改革など統治制度の大改革に着手した。英・仏の植民地勢力の脅威に備えて、柔軟な外交政策、国内統治機構の整備等、近代的法律、裁判制度、軍隊の近代化を押し進めると同時に国民教育の制度化と発展に力を尽くした。
- \* 1893年フランス砲艦によるチャオプラヤ川封鎖事件が起こり、その結果属国として支配していたラオスをやむなく割譲した。
- \* 1850年前後からフランスがタイから略奪した勢力圏は47万平方kmにおよんだ。
- \* イギリスは北タイ地方の森林資源の利権を獲得した。またマレー半島の一部を旧ビルマの領地であったとして獲得した。
- \* 映画「王様と私」のユルプリンナー演ずるタイの王様はチュラロンコーン王である。
- \* ラーマ6世王の時代、1914年、第1次世

界大戦が勃発。アメリカの呼びかけに応じて  
連合軍側になって参戦。タイが戦勝国とな  
ったことで、ドイツ、オーストリアのタイに  
たいする不平等条約は廃止された。アメリカ、  
欧州戦勝国は不平等条約のかなりの条項を撤  
廃した。それを契機として近代国家の一員と  
して世界に認知されるようになった。

- \* 7世王の時代1929年に発生した世界大恐  
慌によって財政破綻をきたし、国家官僚の減  
俸措置などに追い込まれるなど国民経済が混  
乱をきたした。それが契機となり欧米留学経  
験を持った若手官僚が中核となった「人民党」  
によるクーデターが発生、いわゆる「立憲革  
命」が成功し「絶対王政」が終焉を迎えた。
- \* 人民党武官派のピブーンが首相として登場、  
ナチスドイツに代表される世界に新しい潮流  
に対応して国家主義を標榜し、それまでの国  
際的な国名「シャム」に変わって「自由」を  
意味する「タイ」を採用、政府出資会社の設  
立等産業のタイ人化を目指した。
- \* 1941年太平洋戦争が始まると日本と攻守  
同盟を締結した。やがて日本が軍事的に劣勢  
となるとともにピブーン派は勢力を失い首相  
の座を降りて下野した。1945年日本が敗  
北すると文民派政府は日本との攻守同盟を無  
効と主張し敗戦国としての立場を回避するこ  
とができた。
- \* 1947年「政変団」クーデターを契機にピ  
ブーン派が勢力を盛り返し、1948年に再  
び首相に返り咲きピブーン独裁体制を確立す  
る。ピブーン内閣は軍政として批判されるこ  
とが多いが、積極的な外資導入、高等教育の  
拡大、地方重視の開発など、ひたすらタイの  
経済開発を目指した「開発独裁」として後の  
タイ国経済の高度成長への基盤を作ったとも  
いわれている。
- \* 1949年の中国共産党の勝利、1950～  
1960年へかけてのインドシナ3国の共産  
化。ミャンマー国境におけるカレン族の独立  
運動など周辺諸国の動きに危機感を抱いた政  
府は1953年、国境警備隊を設立し、山地  
民への管理を強化しながら公共福祉局を設け

て山地民の農業基盤の強化や教育、福祉の充  
実を図りつつ仏教布教活動を展開して共産勢  
力の侵入拡大を押し止めた。（非タイ系住  
民の同化政策）

- \* 1947年、1949年、1951年と軍の  
不満分子によるクーデターが頻発。1957年  
ピブーン政権は議会制民主主義体制としての  
外形を整えるために総選挙を実施。行政諸組  
織を使って強引な違法選挙を実施。この「汚  
い選挙」がピブーン政権の命取りとなる。バ  
ンコクの世論は盛り上がり「民主主義」「社  
会的公正」を掲げて「10・14事件」を誘  
導した学生たちはピブーン軍事政権崩壊の契  
機を作った。
  - \* 一部世論の支持を得た陸軍上層部は1957  
年9月、クーデターを敢行した。ピブーンは  
日本に亡命。
  - \* 続いて登場したサリット政権はピブーン政  
権以上の軍事独裁政権となり三権を手中にし  
て総理大臣の独裁権を保障した。
  - \* 15年間続いたサリット政権は国家経済開発  
計画を強力に押し進めた。各種産業の近代化、  
自由化を図りながら国内総生産の増大。中産  
階級の育成などで成果を挙げながら共産主義  
の浸透を防いだ。国家経済は順調に成長した  
が、都市と農村の格差、所得格差、環境汚染  
などが深刻な課題として残された。第7次国  
家経済社会開発計画では、社会的公正の確立  
を目指して、持続的な経済成長率の維持、所  
得格差の軽減、自然環境・天然資源の保護等  
の政策を押し進めた。
  - \* サリット政権以後も軍部、特に陸軍が政権の  
中枢を引き継いでいった。
  - \* 1973年学生、市民がプーミポン国王を後  
盾に蜂起。タノーム、プラパート軍事政権  
を崩壊させる。
  - \* 1976年軍事政権復活
  - \* 1991年軍のクーデター
  - \* 1992年市民の軍政反対で盛り上がる市民  
集会を軍が武力弾圧「血の5月事件」 国王  
が調停。
- （次号に続く、参照文献は次号に記載します）

## 私の小さな失敗

関西支部 No.318 小林 高明

フィリピン ダバオにて6月27日から半年計画のロングステイ中です。目的は、英語のスキルアップ？ ダイビング、ボランティア（日本語教師）と基礎体力の復元？ 住居は一軒屋を借り 自炊生活も大分慣れてきた処です。

英語のスキルアップは、もっぱら近所の人、日本語の生徒との会話で対応  
ダイビングは、サマール島でのシュノーケリング  
ボランティアは月、水 90分、生徒12名に会話を中心に日本語教師  
基礎体力復元は、トレーニングジムでコーチにメニューを貰い時間の空いてる時はジム通い（現在一番良かったと思っています）

### 私の小さな失敗

ダバオでの移動はもっぱらジブニーを利用していますが、最初の頃はおつりもキチンともらえるし、乗り越しそうになると 教えてもらえる、皆さんフレンドリーなので気分良く利用していましたが、先週スリにあいました。

状況は、ゆったりと乗れる乗客数だったので、前に座っていた男性（40歳位）が理由も無く私の左側に席を移動、その後の停車で親子4人が乗車混み合い、それに気を取られている時にスラれた様です・・・

財布には3000ペソ（6000円強）、ジムのカードが入っていましたのでカードは再発行で対応、お金は諦めました。

### 教訓

貴重品は分散してその日に使う分のみ持ち歩く。

物事になれた頃に隙ができる。

日本でも危険だがここは外国である。

他にも ダバオ滞在の日本人が

マニラ ニッコーホテルから 食事に行く途中  
ホテル前で肩から下げたバックから 財

布が取られた。数人に囲まれておかしいと気が付いた時は取られていた。（日本円とペソ、クレジットカードが被害）

セブでも長期滞在者がジブニーでスリに逢った。被害2000ペソ？

私の住まい近所です。最近日本人のウエルカムパーティで、デジタルカメラで撮影後の保管が不十分で紛失。

駄文にお付き合いありがとうございます。後100日ダバオステイをエンジョイして 心身共にスキルアップ出来れば 最高。

## 友好団体紹介コーナー

### 財団法人ロングステイ財団

ホームページ <http://www.longstay.or.jp/>

E-mail: [info@longstay.or.jp](mailto:info@longstay.or.jp)

### チェンマイロングステイライフの会 （CLLクラブ）

ホームページ <http://c11.thai.jp.net/>

### ワールドステイクラブ（WSC）

ホームページ：

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

E-mail: [worldstay@nifty.com](mailto:worldstay@nifty.com)

### THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL （クアラルンプール）日本人会

ホームページ <http://www.jckl.org.my/>

### バンコク日本人会 バギオ日本人会 西豪州日本クラブ

# 支 部 便 り

新年の挨拶をかねた国内外支部長からの便りです。

## ペナン支部

ペナン支部長 No.1021 木村まゆみ



### A Happy New Year From Penang

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。どうぞ、今年も相変わらずよろしく願い申し上げます。

こんにちは。No1012ペナンの木村まゆみです。会員番号が新しいので、びっくりされている方もいらっしゃると思いますが、我が家の場合、主人はNo18の木村義光です。

おとし、前ペナン支部長の竹岡隆志さんの時代に、副支部長のお役目を拝命した時に、「家族会員では資格がない」とお聞きしたときに、私だけ新規登録をさせていただきましたら、なっとなんと1000番台をすでに超えています、びっくりした次第です。

我が家はいまではペナンで暮らして丸7年を過ぎましたが、もともとマレーシアの場所すら知りませんでした。マレーシアのペナン島に来たのは、最初は1997年でした。名古屋の旅行会社さんの「マレーシア体験ツアー」に参加しまして、ペナンとKLを合わせて一週間くらいのツアーだったと思います。 宿泊はタンジ

ン・ブンガの「パラダイス・サンディベイ」というホテルに泊まって、添乗員さんが「ハーイ。皆さん。手に1リングィッド持ってください~い。」なんて言われて、バスに乗ると「ワン・ストップ」で添乗員さんが待っていてくれて、「皆さん~ん。ここで降りてください~い。」なんてね・・・。今思い出せは笑っちゃいますよね・・・。(笑)

それまでに、いろいろな国の地域を見てきましたので、ペナンの屋台で食事をした時に、ちゃんとお釣り銭を持ってきてくれたのと、小さな子供の物乞いがなかったので、すぐに気に入りましたねえ~・・・。

それで何度かはペナンに様子を見に来まして1999年にビザの申請をして、同時にコンドミニアムを購入しました。

当初、我が家は英語が全然話せませんでした(今もダメですが・・・)ので、コンドミニアムも最初は借りるか中古の物件を探すつもりだったんですよ。

ところが、当時、日本人は企業の方は多かったのですが、ロングステイヤーなんてペナンで5組いたかどうかでしたので、大家さんにしても日本人の会社でなく個人に貸すのは本当に不安だったのでしょうねえ~。

とにかく物件が少なくて、見せていただいたお部屋もコテコテの中国スタイルで、リビングのソファは白地に金糸で赤と白の鯉が縁取られているし、リビングの真ん中とバルコニーには、真っ赤っ赤の神棚???が置いてあるし、竜の絵の大きな花瓶がドーンと玄関を塞いでいるし、思わず「スミマセン。家具を全部持って帰ってくれますか???'」なんて質問をしちゃいましたよ・・・。(笑)

結局、借りることも、中古のコンドも諦めていたら、知り合ったローカルの人が「木村さん、タンジヨン・ブンガに新しいコンドミニアムがあるよ」と教えてくれました。それが現在暮ら

している「PRARL VIWE」というコンドミニアムです。

まだ、オチがあるのですが・・・。  
コンドを購入したものの、内装が何にもないんです。日本の場合は壁紙やら・キッチンやら・押入れなど、親切な場合はエアコンまで付いていますが、ペナンの場合は、とにかく何にもないんです。天井からピロロンって、電線があるだけなんです。台所もオモチャのようなシンクがお飾り程度にあるだけでした。

お部屋をつくるのに、知り合いに設計士さんをご紹介していただきましたが、設計士さんは中国人で日本語が全く解らない。我が家は英語が全く解らない。何とか設計士さんが「完成予定図」を書いてきたら、リビングにトラの毛皮が敷いてあったんです。

主人と私は顔面蒼白・・・。「これは大変なことになった。」と考えた挙句、「そーだっ。あの手がある・・・。」と考えたのが、パソコンに「翻訳ソフト」を入れて、我々は日本語を入力して英語に変換する。設計士は英語を入力して日本語に変換する。この作戦で設計士にお会いしたら、一言「オー・グレイト」と言ってくれました。(笑)

それで、何とか現在の我が家ができました。この7年間は本当に「珍道中」でした。海外に暮らす「南国暮らしの会」の皆様もペナンに限らず、大変な思いをされて生活をスタートされたと思います。

「南国暮らしの会」の一番良いところは、今から海外でロングステイをされる方にとって、沢山の先輩方がいらっしゃるということだと思います。それに、皆さんとっても仲良しだと思いますよ。

我が家は、いつもベランダでビールを飲んで話をするのですが、「ペナンで知り合った方というのは、日本で暮らしていたら絶対にお会いできなかったよね。」って・・・。

ペナンに限らず、「南国暮らしの会」に入ら

なかったら、絶対に皆様にお会いできなかったと思います。

2006年11月現在で、ペナン支部には22組40名(家族会員を含む)の方がマレーシアのビザを取得されて暮らしていらっしゃいます。

ペナン支部では3～4ヶ月に一度の割合で「ペナン支部サロン会」を開催しております。その時の皆様のお顔を拝見しますと、とっても楽しそうに何十年来の友と会っているような素敵な笑顔が見受けられます。

「南国暮らしの会」に入会させていただいて、皆様にお会いできたことを心より感謝申し上げます。

どうぞ、皆様、今年も健康で仲良く・楽しくお過ごしくださいね。ペナンにお越しの際はぜひ、お声をかけてくださいね・・・。

2007.1 木村まゆみ

---

ペナン支部の同好会の詳細をお送りします。

名称 「ペナンで遊ぼう会」ゴルフコンペ  
世話役 No524 川崎勇氏 No18 木村義光氏、  
No1012 木村まゆみ  
連絡先 y-kimura@eps4.comlink.ne.jp  
木村まゆみ宛  
会員数 制限なし  
開催頻度 人が集まったら

名称 「ペナン支部サロン会」  
世話役 No12 大橋績氏 No18 木村義光氏  
No495 石原彰太郎氏 No519 常楽守氏  
No524 川崎勇氏 No661 小野雅敏氏  
No1012 木村まゆみ  
連絡先 y-kimura@eps4.comlink.ne.jp  
木村まゆみ宛  
会員数 制限なし  
開催頻度 3～4ヶ月に一度

---

## セブ支部

セブ支部長 No.198 川上 雅久

南国暮らしの会員の皆様 明けましておめでとうございます。

旧年は沢山の訪問セブの会員方々と親交を暖める機会が持

て、セブ支部在住会員一同感謝しております。拙い案内にも関わらず、沢山の丁寧な感謝メール等頂戴いた



川上支部長ご夫妻

しまして有難うございます。又、時間や日程の関係上大した御案内の出来なかった方々には、この場をかりてお詫び申し上げます。

今年も昨年以上の方々との交流が楽しく出来れば幸いと思っております、勿論リーピーターとなられた方々の再度・再々度の御訪問も楽しみにお待ちしております。

### セブ支部現状

支部活動・運営は私・川上（支部長）、鶴岡さん（副支部長）、山口さん（顧問、広報）、渡辺徹さん（会計、広報）の4人の定住者が役員となり、チームワークで運営しております。

昨年（2008年）は関西支部の下見ツアーは元より、大勢の会員の方々の訪セブが有り楽しく交流させて頂き感謝しております。又、それに伴い徐々に1ヶ月以上の長期滞在の方々も増え会員相互の交流も盛んになり喜んでおります。

唯、残念な事は2・3、セブへ訪れてセブが気に入り長期滞在型になった人で、会を辞められたり、支部には滞在連絡等なしで南の会・会員を名乗ってセブに居る人がいます。

会を辞められた方の理由：「もうセブへ決めたので会からの情報は必要ないし、利用価値もない」・・・。会は利用するだけのものでしょうか？ 会員で有ればこそ得たものが有ったは

ずです、後進の方々に返すのが人としての基本と私は思います。

支部へ連絡なしで滞在している方へ：自己責任と自己中心は違います。支部へ連絡もなしに勝手に「セブ在住南の会会員」を名乗って現地や日本で活動される事は、支部活動の混乱を意味しますので、支部にとっては迷惑です。

お心有りの方は御一考をお願い致します。

### セブの魅力

昨年も書きましたが、セブには他の地域（Nangokuメール・会報などを拝見）のように日本人から見て驚くほどの突出した素晴らしさと言う物が余り有りません。気候（心地よい風が山から風の吹いている日が多い・大きな台風がない）もマアマア、物価の安さ（最近のインフレと円安で驚くほど安くない）もマアマア、セブといえば海ですが、海の綺麗さも程々（セブが中心のピサヤ地方は世界有数ですが、世界一とまでは行かないようです。）、治安の良さも程々です。多くの事が程々良いのがセブの魅力と言え魅力と思えます。

最近良くない事は欧米人・韓国人の大量増加（日本人も少し増えております）に伴い、日本人や外国人が「良いなあー」と思える住居が賃貸・売り物件ともバブル的に値上がりしておると、交通渋滞等がひどく成りつつ有り、5年後10年後を心配しております。

最後に昨年に引き続き「セブで英語を習いたい」と言う、お問い合わせが多いので紙面をお借りして、御質問に関しての現在住んでいる多くの方々（会員以外も含めて）の状況を掲載させて頂きます。

#### 1、新聞・公共機関・外人（日本人も含む）の生活は全部英語なので半年もいれば生活用語は覚えるのでことさらに習わない。

\*上達は遅いですが生活は何とかやっていると行きます。1年も住んでいれば、日常生活用語は問題ないと思えますが、但し勘違いをストレスにならずに笑って済ませられる人

だけです。

2、学校の英語先生を個人教授をお願いして勉強する（毎日1・2時間 p150～p250 / 時間）。先生は程度に依って小学校から大学まで個人のレベルに依って選べます。

\*セブへ来てから英語を習って、そこそこ話せる人達はこのタイプが多いようです。

3、現地の大学で外国人向けの英語クラスへ入って勉強する、結構ハイレベルなので多少の日常会話ができる程度の人では苦勞するようです。

\*これから「英語を使う仕事で身を立てよう」とする人以外必要ないと思われます。

「南の会」皆様本年もよろしくお願ひ致します。

## 東北支部

東北支部長 No.218 和田隆

東北支部長 218 和田隆です。南の会会員の皆様新年おめでとございます。平成19年度も宜しくお願ひします。

さて、我が東北支部は、平成16年（2004年）に発足して

4年目を迎える事になりました。その間、本支部の活動のパターンが出来上がったようながします。地域性



（東北6県という広大な地域と交通の利便性のなさ）・会員の少なさ（現在43名）などから、年1回の総会・情報交換会と年に1、2回のサロンの開催が本支部の実力にあった活動ではないかと思っています。他支部（特に関東支部）などのように頻りに活動できる支部を羨ましいとは思いますが、本支部は自らの実情に合った活動をしていきたいと思っています。

昨年度（平成18年度）は、5月14日（日）に東北支部総会ならびに情報交換会を、宮城県志田郡三本木町の「三本木の湯」で開催しました。参加者は家族会員及びオブザーバーを含め

て15名でした。メインは54 山口洋二氏を中心としたタイ・チェンマイのロングステイ事情の紹介でした。山口氏はチェンマイのロングステイヤーで、参加者は今南の会で大人気のチェンマイについての生の情報に十分に参加した意義を噛み締めているようでした。

因みに、平成17年度は、8月4日（木）～6日（土）に総会と青森ねぶたと五所川原たちねぶた見学の会を実施しました。遠隔地だったため参加者は9名と少なかったのですが、404 青森在住の大宅清繁氏が献身的にお世話していただき、楽しい経験をしました。青森ねぶたの写真を添付しました。



同年4月17日（日）仙台市「メルパルク仙台」で「サロン会」を実施し、この時は、会友の長岡美和子氏より提供されたインドネシア・バリ島についての情報を共有しました。そのサロン会のときの様子の写真を添付しました。いずれの行事も、仙台市在住の498 副支部長の氏家孝氏が中心となって企画・運営を行っていただきました。以上が支部報告です。今年度も身の丈に合った活動をしてゆくつもりです。宜しくお願ひします。



## チェンマイ支部

チェンマイ支部長 No.558 伊沢 豊

“ サウデー ピーマイ(タイ語で「新年おめでとう」)”

### \* 西暦 2007 年は節目の年 \*

諸国を徘徊したあげく当地に根をおろしたのは今から 6 年前の西暦 2000 年のことであった。そして今年(2007 年)は、2007 年の「7」はラッキーセブン・・・その「7」にちなんで私は今年を、次のような二つの点で「節目の年」にしたいと思っている。

ロングステイに終止符  
支部長職を引退

理由 : 私は大方の皆さんとは異なり、(日本との間を行ったり来たりだが)単身でステイしてきた。日本の実家には老母(家内の母)が長年同居しているため家内同伴の海外ステイは望めないからである。その母がここに来て脳梗塞で倒れ入院、長期加療が危惧されるようになったため、これを潮時に私のロングステイにケリをつけようというわけである。勿論当地は愛着ある土地であるだけに、今後事情の許す限り訪れたいと思っている。シーズンステイのようなことになるであろうか。よって目下の住まいは(当地は受け皿不足の時代でもあるので)当分のあいだ別荘として借りっ放しにしておこうと思う。

理由 : 私が支部長職を引き受けたのは 2004 年のことであった。当初は 2 年というつもりだったがあっという間に早や 3 年、それだけに楽しく充実した日々であったのだろう。私は元来人に接するのが好きで、かつじっとしているのが嫌いな性分なため、これが幸いしたのであろう。だがそれにも限度があるというもの。実は昨年 3 月に「古希」を迎えて以来自分の現実を深く認識するようになった。特に物忘れがひどくなったこと、次いで体力がグンと落ちたことなどを痛感するに至り、皆さんにご迷惑がかからないうちに、身を引くのが賢明だろうと思う今日この

頃なのである。

### 支部同好会紹介

名称 : チェンマイ支部ゴルフ同好会

会長 : No.736 田中正臣氏(通称;ポブさん)

電話 : 081 - 3665714

E.mail : masaomi1950@yahoo.co.jp

## 東海支部

東海支部長 No.94 高橋 昭



皆さん明けましておめでとう御座います、とは申しましても昨年は東海支部の森さん、九州支部の稲延さんの訃報には心痛むものがありました、また旧くは 2001 年の新年号で、私の拙文(コタキナバル訪問)をご覧になって、遙々名古屋にまでお出で頂き話を聞いてくださった竹中さんが、其のコタキナバルで体調を崩され、帰国後闘病の末お亡くなりになられた事は忘れられません。

此の一文を書くに当たって当時の会報、Vol.12 号開いてみました、それによると会の名称も「南国暮らし夢の会」、会員番号も 96 番まで、現在とは隔世の感があります。

当時ロングステイ財団の発行する機関紙に当会の募集記事を見つけ、暫く躊躇した上での入会でした。

会長は竹内司さん(プエルトアズール在住)で、此の近くに日本人村を作ると言う計画でした。残念ながら度重なる挫折で次第に候補地がマニラ近郊からセブ、ダバオ、更にタイ、インドネシア、オーストラリアへ、永住からロングステイに拡大して今日に至っています。

装丁も現在のもの比べると決して立派とはいえませんが、文字の間からは今に劣らぬ熱気

を感じます、もう旧き良き時代になってしまうのでしょうか、でもいくら読み返しても飽きない良き時代です。

新しくお入りになった会員の皆さんも会報は大切に保管なさって下さい、屹度良い思い出になります。

さて、昨年度新支部長を仰せ付き、途方に暮れておりましたが、幸い新役員に支えられ、何とか無事に過ごすことが出来ました、恵まれたスタッフが進んでテキパキと事を進めて、私など何もしなくても万事上手く事が運んでゆくのは前支部長の残してくれた資産と感謝しています。

昨年の3月から4月に掛けてブルガリアから

の留学生ベロニカ夫妻が名古屋に来てくれて、会員宅でホームステイしながら例会で講演してくれました。



ブルガリアは東南アジアのように車の排気ガスや、バイクの洪水に悩まされる事はありませんがあまりにも日本から遠い事や、医療の立ち遅れが永住に躊躇させられますが、上手くゆけば今年の4月にはEU加盟が認められるかもしれません、何しろソフィアには地下鉄工事が進められ、近代化を進めていますので期待できるかもしれません。

ソフィアには医科大学があって、徳洲会の経営する病院も現在建設されたそうです、またバラ祭りで有名なカザンラックから車で1時間くらいのスタラザゴラには日本に留学経験のある医師も居て、近くならいつでも往診に来てくれるそうです、此の町には日本語科のある大学もあって何かと便利です。此の町はソフィアからバス又は汽車で約4時間、運賃は6～7百円です

物価も消費税20%が内税で課せられますが東南と大差ないレベルです、勿論輸入品、特に

電化製品はアジア同様高額になります。

4月から9月までの半年間をヨーロッパ旅行の基地として滞在してみるのも良いかもしれません、ユーロパスや長距離バスは格安で、路線によっては60歳以上の割引もあります、勿論ソフィアにはベロニカさんの後輩も居ますので心配はありません、また30歳以下でハイスクールを卒業した者でしたら流暢な英語を話します。

次に、9月にはインドネシア人のヤティ山本さんが講演してくれました、日本滞在が長く、日本語に心配は無く、話す内容も大いに興味深いものがありました。

一般にインドネシアと言えばバリ島が思い浮かびますが、ジャワ島にも魅力的な場所があるとの事、特に彼女の生まれ育ったバンドンは標高7～800メートルの高地にあって、年間平均23度、暑い時でも30度を越えることは殆ど無いという常春の地で、ジャカルタから高速道路で約1時間半、最近ではヨーロッパ人が増え始めていると言う。

ボルネオ名物の焼畑の影響も少ないのでマレーシアほど煙害は無いようです、ただジャワ島は地震多発地帯なので、其の備えは必要かもしれません、それとイスラムの土地柄、早朝の4時頃から町中でコーランの音が拡声器を通じ朗々と流されるので朝寝を期待する向きには窓をしっかりと戸締りしなければなりません。

横井前支部長は現役時代此の地にも滞在経験が長く、現地語が堪能で彼の案内で此処には是非訪れたいと思っています。

東海地方の経済は、今一番元気と言われていますが、其の分団塊の世代のリタイアメンターも元気で、パソコンや英会話教育の充実で、これらを自由に操れる人も少なくありません、此の事からロングステイを目指す人たちは飛躍的に増大が見込まれます。

これらの人達を受け入れる準備と心構えが要求されるのは必然でしょう、其の為にも微力ながら今まで通りの笑声の絶えない東海支部を守ってゆきたいと考えています。

## 甲 信 越 支 部

甲信越支部長 No.96 宮澤 英光

支部動向について何か一筆をとるの依頼が会報事務局より有りましたが、当支部としては特筆すべき活動をしていない為、お知らせするような内容がありません。

支部会員も確かに少しずつですが年々増えて、最近では20組近くになってきていますがまだまだ非常に少ない状況です。土地柄もあり長期に家を空けるのには色々事情が有って興味を持つ方が少ないのではと考えられます。

当支部としての活動は年1回総会を兼ねて高原リゾートホテルに1泊し、親睦を深めているのみで、参加人員も10数人とこじんまりしています。それでも支部発足以来毎年続いていて、参加者は情報交換や懇親にと大いに楽しい時間を過ごしています。ただ交通の便がネックとなり、多くの会員が集まりにくいといった事情はどうしようもないと思っています。今後何らかの工夫は必要に思われますが。

以上はなほ簡単で恐縮ですが支部動向報告とさせていただきます。(チェンマイにて)

## 関 西 支 部

関西支部長 No.754 松本 都志重

11月5日付でしばらく空席になっていた関西支部長に就任しました。会員番号754番ですから入会してまだ2年半ということになります。「なんにもせんてよろしいからあんたがやりなはれー」と背中を押され、チェンマイのシーズンステイしか経験のない分不相応の支部長ができました。宮崎理事長があまり深く考えないでやりなさい、といってくれていますので、その気でやります。幸い一緒に役員になられたみなさんが揃ってとても賢明で積極的な方々ですから、本当に「なんにもせんてもよさそうやなあ」と安心しきっております。

さて、近頃は野球もビジネスも、そして南の会でも関西は名古屋の後塵を拝しております。こんな筈ではないのです。とにかくターゲット

は名古屋です。名古屋に追いつけを合言葉に役員全員で知恵を出し合い、そして理事の前東海支部長の横井保夫さんのアドバイスをいただきながら活動したいと願っております。そこで、当面はこんなことをしようと考えています。

まず第一に2007年2月、「チェンマイ下見ツアー」を実行します。主たる目的はチェンマイ支部のサロン会が毎月第2土曜日に開かれておりますので、私たちもチェンマイ支部サロン会に入れていただき、先人たちのノウハウを一杯戴こうとするものです。参加者は自由にチェンマイに入り、2月10日(土)に全員集合です。その前後は各人が視察や観光、ゴルフなどご自分の目指すものを楽しみます。

第二に、例会に参加はしたいが時間が無い、という方々もいますのであと3回増やし、年間で6回の例会を開きます。2007年は3月、7月、11月を例会、5月、9月、1月をサロン会と称します。回数は昨年度より倍増しますが、それでも東海支部の半分以下です。いくらなんでもいきなり毎月の開催では関西支部が空中分解するかもしれませんので、最初はスロースローでスタートです。名古屋での定番、平日のサロン会というのもあります。支部の皆さんに計ってみたい課題です。

次に関西支部はエリアが全国一広い支部です。そこで、夏までに大阪以外のところでサロン会を開けないかと思えます。最初は高知県です。特に理由はありません。坂本竜馬の銅像を見てその気になって、おいしいお魚(肴)を食べ美味しい焼酎を呑む。移動費と宿泊費が結構高くつくことを考えると、はたしてどれほどの人から賛同を得られるか分かりませんが、ぜひ呼びかけたいと考えております。こんなことができれば東海支部のテールランプをほんの少しでも見させてもらえそうですが、関西支部長はもっと「気楽な稼業ときたもんだー!」となるのです。

もっと、どなたか他に良いアイディアがありませんか。あれば、是非ともお知らせください。

## 関東支部

関東支部長 No.327 市東 明義

### 南国暮らしの会、会員の皆様

2007年 明けましておめでとう御座います。本年もご指導ご鞭撻、宜しくお願い申し上げます。

南国暮らしの会も成熟期を向かえ、ますます充実した会に成って参りました。会員1000人を超える現在ですが、団塊の世代といわれる予備群が控えています。関東支部に於いては、サロン会初期10人程度の集まりが、現在では100人の集まりに成ってまいりました。昨年5月の時は150人近くになり、お世話役の方々は大変な作業になりました。そこで10人程のお世話役役員を20人体制にし役割分担を図りました。そのため役員の方々のよき提案が出、それを試行錯誤の上、より良いサロン会、懇親会の運営になりました。

今後も役員の増員を含め理想的なあり方を検討していきたいと考えております。その為、皆様から自主的なお世話役を申し出て頂きたいのです。

### お手伝いは自分の為

南の会は会員が会に対して何かをするという会です、その中でいろいろな情報、案内、等の収集が出来るのであって、会に入ったら会は何をしてくれるかでは無いのです。

今現在はインターネットによるサロン会の開催案内をしておりますが、パソコンをして無い方々に、別の方法で各種連絡をする事を模索しております、良い手法が有りましたらお教え願ひ研究していこうと考えています。

### 各種同好会の推進及び新設

関東支部は、南国暮らしの会の模範行事として各種イベントにトライしています。同好会もパソコン教室が2箇所、ウクレレ教室、男の料理教室他、各リーダーの元に自主運営されてにぎわっています。普通の街の各種スクールでは出来ない手取り足とりで会員の方々の好評を得

ています。今後も新たな同好会の出現も期待されます。

今後の同好会作りお待ちしております。

### 現在活動中の関東支部各種同好会(教室)の紹介

(敬称略)

ウクレレ教室

リーダー 有馬憲三(No539) メンバー15名

川崎パソコン教室

リーダー 菊地範夫(No240) メンバー20名

春日部パソコン教室

リーダー 高田勝弘(No712) メンバー20名

男の料理教室

リーダー 今野力男(No670) メンバー10名

### 満足する国内旅行&バスツアーを

#### 将来は他支部との合同サロン会を

一泊旅行は、サロン会、懇親会と違った雰囲気があります、ある方がおしゃっていました。こういう旅行のおかげで、海外旅行への同行を決めた、グループ旅行もこの人たちとなら楽しいだろう、そしてその後も友人としてお付き合いしている、と。一般的に年齢を重ねるほど新しい知人友人が作りづらくなります。

こういう行事はもっと回数を増やしても良いと考えています。時間が許せば、行った所の現地支部と合同サロン会を開催したいと考えています。

### 世間の人より光っている南の会員

目標を持っている、と言う事は、張りの在る事。おのずから、やらなければ成らない事が出てくる。家庭内粗大ゴミになっている暇など無い。アッチ、コッチと情報収集に出かける。その結果、目標が成就する、そして又出かける。出て行っているいろいろな方々と話をする、年を取っている暇など無い、それが南の会、の会員。

今年も皆様、健康でせつせと動き回りましょう。徘徊ではなく。眼を輝かせ、今よりチョット胸張り姿勢よく小気味よく。

新年です、今年こそこれは実行するぞ、と思っ

ている方も多いでしょう。南の会、関東支部と

しても、より良い進展をしていきます。

### 何時までも若く 肉体的にも精神的にも

リタイヤーすると世間が狭くなり、中には家に閉じこもり、奥方から、相手にされなくなる方が現れます、捨てられない粗大ゴミと言われる様になります。南の会の会員はキラキラ光った紳士淑女です。

大声出して、和気あいあい、大笑いし、よく飲み、よく食べる、よく談笑する。そして同好の友人が出来る。

やはり第二の人生の謳歌そのものです、今年ももっと、もっと積極的に進んでいきましょう。

### 理想(目的)を実現しましょう

10人いれば10通りの想いと目的があると、そしてそれぞれ思いを馳せればよい事でしょう。

たまたま同じ感覚の波長の合う会員どうしが、南の会で知りあい、知人から友人となる、何十年も会社にいても同好の友人に会えなかったのに、何度かの旅行で友人が出来た方もいらっしゃる事でしょう。

それが南の会の本筋ではないのでしょうか。

今後ますます、気の合った会員同士の旅行が増えていく事でしょう。私には、歩いて5分程度の距離に9人の友人、南の会員が出来ました。南国暮らしの会の運営、あり方、組織も円熟の期になってきました。

### 夢を膨らませて今年一年計画しましょう

南の会の方々には世間一般の方々より、皆さん目標も高い素晴らしい夢を持っています。人生一度、大いに楽しみましょう。南の会の会員は素晴らしい人生を送りましょう。

### 海外生活での注意点再確認

皆さん御承知の事と思いますが、ここで再確認いたしましょう。

### 海外に於いては

まず不動産関係。基本的に海外で購入する場合は要注意。いまだに、土地を買おうとしている

方がいる。普通の人無理。

ホテル、コンドミニアム、チケット等会員からの紹介を受け入れた場合も結果も自己責任。健康管理。

各種保険の加入チェック。

現地人と仲良くコミュニケーション。

現地適正価格を早く知り、値切りは程ほど。

### 全てあなたの責任。

### 楽しい人生はこれからです。

そして南の会もこれからです、皆様の力で。

### 人生を楽しむ為に

### 健康、経済、時間、家庭環境、その他

何はともあれ、健康一番、これなくては始まりません。

### 素晴らしき人生を自分で作りましょう

### 人生一度

### 楽天人生。(私のお薦め目標)

南国暮らしの会は人生を楽しむ為の最善の方法の一つの会です、いろいろ情報の交換も、その人その人で変わります、自分の価値観と同じ会員を多く作りましょう。

なんでも無理せず、自然体でいいのではないのでしょうか？

健康で、仲良く、ゆっくり、のんびり、多いに笑い、楽しい会で有るようにして行きましょう。南国暮らしの会に入会して良かったと言える、会を目指して。創りは皆様、全員で。

会員の皆様、本年も実りの多き人生の1ページを作りましょう。



関東支部パソコン教室(川崎)

## バギオ支部

バギオ支部長 No.227 齋木 一

会員の皆様、お元気でお過ごしですか？ バギオ支部 齋木です。

新しい2007年が皆様にとって素晴らしい1年になりますように祈念しています。

### 「友好団体」と「提携会社」のご紹介

#### 「友好団体・バギオ日本人会」

バギオ支部では、「バギオ日本人会」が友好団体になって頂いています。その「バギオ日本人会」の2007年の活動予定が決りましたので、ご報告します。

バギオ日本人会は現在11家族で構成されています。世界最小の日本人会かも知れません。それでも7千人を超えるバギオの日系人の支援もあって、活動は活発に行っています。南国暮らしの会との連携も緊密です。

2007年はバギオ日本人会として、ホームページを立ち上げる事になり、準備中です。この会報新年号発行までには間に合っているでしょう。

2月のバギオ最大の祭典、「バギオフラワーフェスティバル」の期間中に行われる「パレード」には昨年同様、日本の踊りで参加します。日本人会はここ数年パレードの先頭の榮譽を担っています。フェスティバルの期間中に2日間に亘って行われる「ジャパンデー」にも、昨年同様、日本文化の紹介と盆踊りを企画しています。例年以上の会員の協力を期待しています。

4月末には、家族慰安を目的に、バギオ近郊のアシン温泉への日帰りツアーがあります。緑に囲まれた温泉のプールサイドでのバーベキューは格別の味です。5月5日の子供の日には、バギオの中心「ボート池」での「鯉の放流」を昨年同様実施していますが、今年は更に「鯉のぼり」をバギオの空高く泳がせようと計画しています。

会員の方からの鯉のぼりの寄付も各地から寄せられていますが、まだ不足しています。更なる会員の皆様からの協力を期待しています。

8月15日の終戦記念日にマニラ郊外のカリラヤで行われる「比島方面戦没者慰霊祭」にはバギオ日本人会として公式参加しています。9月1日は「バギオデー」で、日本人会として、例年浴衣や半被姿でパレードに参加しています。雨季明け間近のバギオ銀座、セッションロードのパレードは心地よい高原の風に吹かれて快適そのものです。

このような行事への参加の他に、奇数月の第1土曜日には会食を兼ねた例会が行われ、滞在中の日本人の参加も歓迎しています。バギオの情報収集のいい機会です。

恵まれないバギオの子供達への支援も行っています。マニラの日本人組織「マニラ会」と共同で行っている小学生への奨学金支給には、「南国暮らしの会バギオ支部」としても毎年2名の小学生へ奨学金を支給しています。本年も「友好団体・バギオ日本人会」とは更なる緊密な提携関係を続けます。

#### 「支部提携会社」

2006年度のバギオ支部としての取り組みとして、会員のバギオ来訪や滞在のお手伝いとして、下記2社を支部提携会社として起用しました。本年度は更に強い提携を推進したいと考えています。

#### 「フレンドシップツアーズ&リゾーツ・コーポレーション」

会員がバギオを訪問される際のマニラでの繋ぎの便宜を図る為に昨年同様提携しています。その後、会のマニラ支部支部長不在もあって、会の本部としても該社がフィリピン全域をカバーしている事からマニラ地区での会員への便宜供与を目的として紹介されました。

住所：Dusit Hotel Nikko Manila. Ayala Center Makati city Metro Manira Philippines  
電話番号：63(国番号、以下同)-(2)-893-0291 / 840-1060 / 818-8896 / 894-1124 / 819-5644  
FAX：63-(2)-818-8978 / 892-8899

e-mail : ftrac@pltdsl.net (和英)

担当者 : 岩崎 ( 所長 ) ・石倉 ・桑山 ・野崎

### 「佐藤国際ラーニングセンター」

本来業務は、日本での就労を目的とした日系人等への日本語教育を主体とした日系人経営の会社ですが、ホテルの予約、バギオでの不動産賃貸物件の紹介、近郊へのツアー、ガイド、英語教育施設の紹介等を会員の為に新規に取り組んでくれています。

日本語教師として契約している小国秀宣氏はバギオ日本人会会員でもあり、また「させ・たもつ」のペンネームでバギオ紹介のホームページもあり、著書にはバギオ紹介の「オー・マイ・バギオ」もあります。

住所 : Rm#203 Patria De Buguio Session Ld.,

Baguio city, 2600 Philippines,

電話番号 ( FAX同一 ) : 63-(74)-446-8242

e-mail : (英語)sato\_kokusai\_inc@yahoo.com

(日本語) satokokusai@gol.com

注・日本語でのメールの場合、英語あて先にも送信を希望しています。

会のバギオ支部の活動としては、従来と同じ様に会報・メール等によるバギオの紹介、視察旅行等の情報提供を中心に今年も考えています。バギオ在住の会員が少ない為に、現地でのお手伝いは手薄ですが、現地視察計画に際してのお手伝いは出来る範囲でさせて頂いています。バギオ視察を検討される場合は、早めにご連絡下さい。

これから5月までの乾季は、視察には最高の期間です。年間の平均気温がほぼ一定している南国の高原都市バギオが会員の皆さんをお待ちしています。

## 部 会 伝 言 板

### 「 総 務 担 当 よ り 」

担当理事 No.259 菊地 功

- 会報秋季号以降の総務部門の主な活動
- 11月03日 南国暮らしの会セミナー「悠々セカンドライフ」アシスト。
- 11月23日 南国暮らしの会第3回理事会開催。
- ギマラス島島民のために当会として僅かばかりですが、寄付金を拠出した同島油流出事故に関しては、秋季号記載の如く、多くの会員の皆様からも心温まる寄付をしていただき本当に有難うございました。当会もNPO法人としてもう一つの役割、国際貢献にいくらかでも関与できたこと総務担当として喜んでおります。

### 「 会 報 部 会 よ り 」

1. 今号より裏表紙に「投稿写真コーナー」を設けます。各支部の会合での写真、個人の旅行記録など会員の皆様の活動を中心にカラーで掲載致します。多数の投稿をお願いします。
2. 春季号の発行は4月下旬、原稿締め切りは3月20日です。春季号の担当はNo.732 馬場 章介です。皆様からの沢山の投稿を期待しております。春季号原稿のメール宛先は下記の馬場宛をお願いします。

s.baba@mbh.nifty.com

### 会 報 投 稿 要 領

- ・原稿の形式は特に定めておりません。形式自由で、次のような方法でご投稿下さい。  
手書き文書を下記へ郵送  
〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208 「南国暮らしの会」会報担当  
メール本文に書いてメールを送信  
テキストまたはワードで書いてファイルをメールに添付する。
- ・写真は下記の方法でお送り下さい。  
デジカメで撮った写真をメールに添付  
プリントした写真を郵送する。  
ワードに貼り付けた写真は品質上望ましくありません。この場合は同じ写真をメールに添付して別にお送り下さい。

## 編集後記

昨年に引き続き編集担当を仰せつかりました。今回は初めてのEメールで悪戦苦闘しながらベテランの方々に手取り足取り教わりました。

今年は、どうすれば良いのか少しわかりかけてきましたが、原稿をお願いする方々が、私だけの範疇より広い範囲で、原稿を集めなければと思いましたが、又、関東支部偏重というご意見もあり地方の方々の積極的な参加の必要を感じました。

今回、初めての試みとして、九州支部特集の枠を作らせていただきました。

稲田九州支部長、朝永様をはじめ皆様方のご協力で、九州支部特集の紙面を作る事が出来ました。九州支部の活発な活動状況、楽しい交流が手に取るように拝察されます、本当に有難う御座いました、深くお礼申し上げます。

次は北海道、関西……と続いて地方の方々の声が沢山載せられる事を期待しています。

原稿依頼中、九州支部前支部長のご逝去の報に接しました、心より哀悼の意を捧げますと共に、限りある余生、精いっぱい楽しく、有意義に過ごさなければと強く思いました。最後になりましたが、いつも縁の下の力持ちで素人の私を支え続けてくださる会報部会の皆様から心からの感謝とお礼を捧げます。

(No.281 村松 幸子)

### 写真提供有り難うございます

表紙：「バリの記憶」、本文投稿参照

No. 345 藤巻 雄二 様

左上から時計回りに「レゴンダンス女性」、  
「レゴンダンス少年」、「祭り通り」、  
「花」及び中央「Sunset」

裏表紙：「ローズガーデン」、本文投稿参照

No.1132 菊池 勲雄 様

## 平成19年度会費納入のご案内

平成19年度の継続会費納入をご案内します。同封の郵便振替用紙にてお振り込み下さい。

- ・本会の19年度は平成19年4月1日より1年間です。
- ・会則により、会費は年度会費制で途中入会者に対する月割り計算はいたしておりません。18年度ご加入の方も加入時期によらず、19年度会費の納入をお願いします。
- ・会費納入は原則として郵便振替でお願いします。海外居住者で郵便振替の利用が困難な方のために銀行口座振込の手続き中ですが、まだ口座番号など未決定で会報では周知出来ません。ご希望の方は「会費銀行振込の件」と題し、会員番号、氏名を明記の上、下記アドレスまで直接メールにてご連絡下さい。

home@minaminokai.com

納入期限：平成19年3月30日

ご注意：期日までに会費未納入の方へは、1回納入を催促致します。さらに納入されない場合は退会として扱い、会員名簿およびメーリング・リストから削除致しますのでご注意願います(細則9条(5)項)。

お願い(1)：郵便振替用紙のご依頼人記入欄に郵便番号、住所、氏名、電話番号を確実にご記入下さい。また、**通信欄に必ず会員番号をご記入下さい**。大勢の方の会費納入を確実に整理するためには会員番号が頼りです。事務処理の効率化にご協力下さい。

お願い(2)：会員情報が会員名簿記載と異なる場合は、変更通知欄の該当事項に を付けて下さい。e-mailアドレス変更の場合は新しいアドレスをご記入下さい。また生年月日記入欄があります。これは会員の年齢分布など会員のプロフィールを知るための調査事項です。生年月日を未登録の古い時期に入会された会員(番号の若い方、おおむね300番以前)の方は、ご面倒でも生年月日をご記入下さい。

「南国暮らしの会」からのお勧め

**\* 自己責任 \* 納得の上 \* 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

**[編集委員]**

|        |       |                             |
|--------|-------|-----------------------------|
| No.240 | 菊地 範夫 | noriokikuchi@hotmail.com    |
| No.465 | 橋本 慧  | ashi176@ybb.ne.jp           |
| No.281 | 村松 幸子 | skaijmura@mtf.biglobe.ne.jp |
| No. 60 | 渡辺 義郎 | yosi.watanabe@nifty.com     |
| No.732 | 馬場 章介 | s.baba@mbh.nifty.com        |

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」  
©minaminokai

理事長 宮崎 哲郎

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

<http://www.minaminokai.com/>



## 投稿写真コーナー



(H18.11月度 九州支部情報交換会)



ローズガーデン (九州支部 No.1132 菊池 勲雄さん提供)